

東京女子医科大学病院 診療案内

2025
診療案内

東京女子医科大学病院

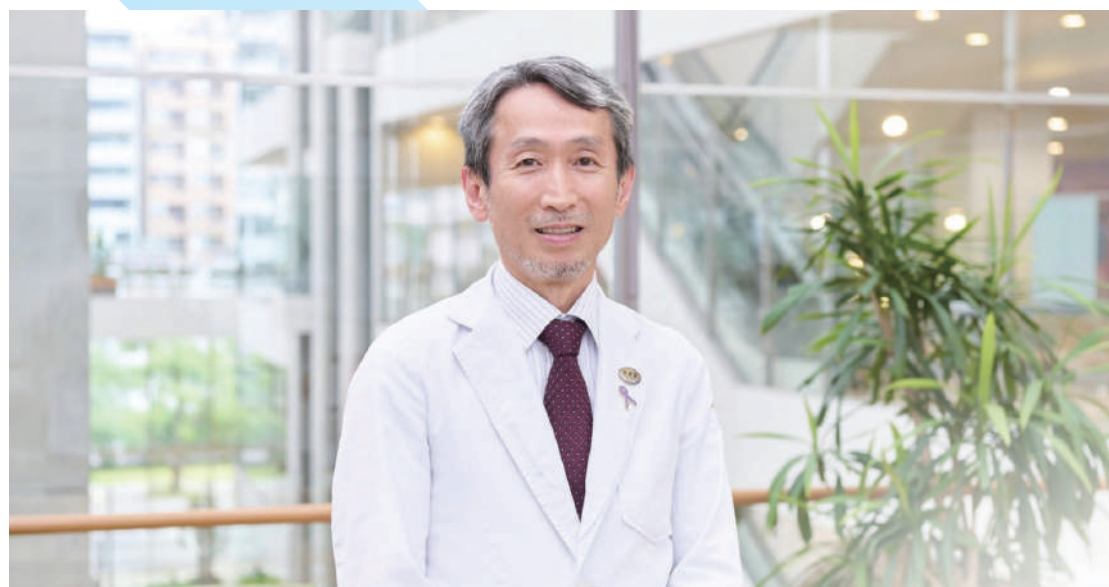


<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>



診療案内2025発刊にあたって

病院長 西村 勝治



平素から、当院の地域連携活動に多大なるご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。令和6年12月6日付で病院長に任命されました、西村勝治（にしむら かつじ）と申します。専門は精神医学です。

このたび、当院は「新生 東京女子医科大学病院」として、新たなスタートを切りました。地域の医療機関の皆さまにご心配とご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。今回、法人の体制が刷新され、病院も新たな一歩を踏み出しました。

今、私たちは過去を乗り越え、再び社会から信頼される病院を築く責任を胸に歩み始めています。この責任を果たすために、病院のすべての職員と共に、基本理念と基本方針を見直すことから始めました。東京女子医科大学の創立理念である「至誠と愛」の精神に立ち返り、私たちの使命、目指す病院像、そして大切にすべき価値観を再確認しました（「新生 東京女子医科大学病院のミッション、ビジョン、バリュー」）。これらの理念を基盤に、私たちは一丸となって共通の方向に向かって邁進してまいります。

今後とも、先生方との連携を一層強化、かかりつけ医の先生方のご意見を積極的に取り入れ、地域医療の質の向上に貢献できるよう、患者さんへの最良の医療提供を目指してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新生 東京女子医科大学病院のミッション、ビジョン、バリュー

ミッション (Mission) ～病院の使命～

社会から信頼される高度な医療を提供する大学病院として、人々の生命と健康を守ります。

ビジョン (Vision) ～目指す病院像～

高水準の医療安全と最新の医療を追求し、患者さん一人ひとりに最善の医療を実践することを目指します。

バリュー (Value) ～行動指針～

1. 人間中心 (Human-Centered)

本学の理念である「至誠と愛」に立ち戻り、患者さんの利益を最優先に考え、安心・安全な医療を提供します。同時に、人材の育成を重視し、やりがいと誇りを持って働くことができる職場風土を醸成します。

2. 高潔 (Integrity)

患者さんご家族、職員、そして社会に対して高潔な志を貫きます。過去の過ちを決して忘れず、強いガバナンスと透明性のある運営を実現します。

3. 責任 (Responsibility)

職員一人ひとりが考え、行動し、患者さんの生命と健康を守る責任を全うします。また、すべての職員がともに組織の改善に継続的に取り組みます。

4. 共創 (Co-Creation)

職種を超えてすべての職員が一丸となり、患者さんご家族とともに、最善の医療を実践することを目指します。

5. 革新 (Innovation)

新しいアイデアやアプローチに対して開かれた姿勢を持ち続けます。最新の医療技術とケアを追求し、常に医療の質の向上を目指します。

当院の機能と役割

1. 当院は急性期医療の病院です

当院は、診療所及び病院などからの紹介で、大学病院の入院治療が必要な方を積極的に受け入れる病院です。

2. 病状安定後は退院・転院をお願いしています

高度急性期の治療を必要としている方に適切に対応するために、当院での高度急性期治療が終わった患者さんは、退院して在宅や紹介元や地域の病院への転院をしていただきます。

3. 地域の医療機関と連携を図っています

当院は、地域の病院や診療所、かかりつけの先生方と密接な医療連携を結び、切れ目のない医療の提供を実践しております。退院や転院については、当院の医師や看護師および医療連携・入退院支援部にご相談ください。

沿革

明治	明治33年(1900年) 12月	東京女醫学校創設(5日:創立記念日)
	明治37年(1904年) 7月	私立東京女醫学校設立認可
	明治37年(1904年) 9月	東京至誠医院設置
	明治41年(1908年) 12月	附属病院開設許可
	明治45年(1912年) 3月	私立東京女子医学専門学校設立認可
大正		
昭和	昭和5年(1930年) 12月	附属病院竣工
	昭和11年(1936年) 10月	第二病棟竣工
	昭和27年(1952年) 4月	新制東京女子医科大学発足
	昭和30年(1955年) 5月	附属日本心臓血圧研究所(のち心臓病センターと改称) 設置
	昭和40年(1965年) 4月	附属日本心臓血圧研究所(のち心臓病センターと改称) 竣工
	昭和40年(1965年) 4月	附属消化器病・早期がんセンター(のち消化器病センターと改称) 設置
	昭和42年(1967年) 10月	神経精神科病棟竣工
	昭和42年(1967年) 12月	附属消化器病センター竣工
	昭和46年(1971年) 10月	附属脳神経センター竣工
	昭和50年(1975年) 7月	糖尿病センター設置
	昭和53年(1978年) 3月	中央病棟竣工
	昭和54年(1979年) 4月	腎臓病総合医療センター設置
	昭和55年(1980年) 7月	東病棟竣工
	昭和59年(1984年) 4月	内分泌疾患総合医療センター設置
	昭和59年(1984年) 9月	母子総合医療センター設置
	昭和62年(1987年) 3月	糖尿病センター竣工
平成	平成元年(1989年) 4月	救命救急センター設置
	平成2年(1990年) 10月	呼吸器センター設置
	平成15年(2003年) 3月	総合外来センター竣工
	平成21年(2009年) 12月	第1病棟竣工
	平成28年(2016年) 9月	教育・研究棟竣工
令和	令和2年(2020年) 2月	彌生記念教育棟、巴研究教育棟竣工

概況

令和7年8月現在

*内容は、適宜更新します。最新の情報は、病院のホームページをご覧ください。http://www.twmu.ac.jp/into-twmu/

開設者	学校法人 東京女子医科大学		
病院長	西村 勝治		
副院長	中井 陽介 高木 敏男 野村 岳志 市原 淳弘 花房 規男 山口 淳一 明石 定子 白石 和子	診療部門／診療支援部門担当 (内科系) 診療部門／診療支援部門担当 (外科系) 医療安全・医療の質・感染部門担当 臨床研修教育部門担当 管理部門担当 (病院IR) 診療連携部門担当 労務部門担当 看護部門担当	
看護部長	白石 和子		
薬剤部長	塩川 満		
事務長	丸地 伸		
許可病床数	1,139床 (一般:1,112床 精神:27床)		
職員数 (令和6年4月現在)	医師 661名 看護師 958名 その他 699名 合計 2,318名		
患者数 (1日平均)	外来患者数	入院患者数	
	令和4年 3,049人	634人	
	令和5年 2,869人	603人	
	令和6年 2,736人	583人	
機能	●救急告示病院 ●臨床研修指定病院 ●災害拠点病院 ●神経難病医療拠点病院 ●肝臓専門医療機関 ●東京都脳卒中急性期医療機関 ●東京DMAT指定病院 ●東京都難病診療連携拠点病院 ●東京都アレルギー疾患医療専門病院 ●公害医療機関 ●臨床修練指定病院 ●エイズ治療拠点病院 ●治験拠点医療機関 ●移植認定施設 ●総合周産期母子医療センター ●東京都小児がん診療病院		
	(心臓・小児心臓・腎臓・ 脾臓・肝臓・骨髄・末梢血 幹細胞)		
保険医療機関	承認令和6年10月1日～令和12年9月30日		

(心臓・小児心臓・腎臓・
脾臓・肝臓・骨髄・末梢血
幹細胞)

当院へのご紹介について

当日の**緊急診療**の申し込み・ご相談

地域連携室（直通）

03-5269-7160

※受診についてのご相談、医師・看護師へのお取次ぎ等

診療科別

連携担当医師の直通番号

（下記参照）

- 受付時間 平日 9:00～17:00
土曜 9:00～12:00（第3土曜日除く）

紹介患者さんのご予約

予約センター（医療機関専用）

03-5269-7538

- 受付時間 平日 9:00～17:00
土曜 9:00～12:00（第3土曜日除く）

診療科	ダイヤルイン
脳神経内科	03-6709-9369
脳神経外科	03-6709-9370
循環器内科	03-6709-9364
心臓血管外科	03-6709-9365
循環器小児科・ 成人先天性心疾患科	03-6709-9366
呼吸器内科	03-6709-9381
呼吸器外科	03-6709-9382
消化器内科	03-6709-9367
消化器・一般外科	03-6709-9368
消化器内視鏡科	03-6709-9372
腎臓内科	03-6709-9371
泌尿器科	03-6709-9373
血液浄化療法科	03-6709-9386
腎臓小児科	03-6709-9374
糖尿病・代謝内科	03-6709-9375

診療科	ダイヤルイン
眼科	03-6709-9358
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	03-6709-9359
高血圧・内分泌内科	03-6709-9377
内分泌内科	03-5269-7356
内分泌外科	03-6709-9378
乳腺外科	03-5269-7515
膠原病リウマチ内科	03-6709-9385
整形外科（リウマチ班）	03-6709-9354
整形外科	03-6709-9354
リハビリテーション科	03-6709-9388
救命救急センター	03-5269-1712
総合診療科	03-6709-9384
麻酔科・ペインクリニック	03-6709-9362
小児科	03-6709-9352
小児外科	03-6709-9353

診療科	ダイヤルイン
形成外科	03-6709-9355
皮膚科	03-6709-9356
婦人科	03-6709-9357
母子センター（産科部門）	03-6709-9380
母子センター （新生児部門）	03-3355-3010
放射線腫瘍科	03-6709-9360
画像診断・核医学科	03-5269-7568
血液内科	03-6709-9350
腫瘍内科	03-6709-9387
歯科口腔外科	03-6709-9363
神経精神科	03-6709-9351
ゲノム診療科	03-5269-7594
睡眠科	
女性センター	

FAXによるご予約

FAX診療申込書（巻末）を
下記FAX番号へお送りください。

地域連携室直通FAX

03-5269-7387

- 受付時間 平日 9:00～17:00
土曜 9:00～12:00（第3土曜日除く）

WEBによるご予約

下記URLまたはQRコードを読み取り、予約フォーム
より、必要項目をご記入の上ご送信ください。



<https://www.twmu.ac.jp/twmu-form/reserve-form-sw/>

地域連携室より、受付後に折り返し電話にてご連絡いたします。
※受付時間外に受信した場合は、翌診療日のご連絡となります。

各診療科のご案内

内科系

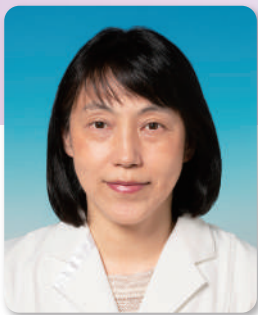
血液内科	7	腎臓内科	25
高血圧・内分泌内科	9	小児科	27
内分泌内科	11	循環器小児科	29
糖尿病・代謝内科	13	腎臓小児科	31
膠原病リウマチ内科	15	脳神経内科	33
呼吸器内科	17	腫瘍内科	35
循環器内科	19	総合診療科	37
消化器内科	21	ゲノム診療科	39
消化器内視鏡科	23		

外科系

泌尿器科	41	内分泌外科	57
脳神経外科	43	小児外科	59
整形外科	45	産婦人科/ 母子センター（母子・母性）	61
形成外科	47	眼科	63
心臓血管外科	49	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	65
呼吸器外科	51	歯科口腔外科	67
消化器・一般外科	53	皮膚科	69
乳腺外科	55		

専門診療科

神経精神科	71	救命救急センター	79
血液浄化療法科	73	放射線腫瘍科	81
母子総合医療センター （新生児科）	75	画像診断・核医学科	83
睡眠科	77	麻酔科・ペインクリニック	85



診療部長
瀬尾 幸子

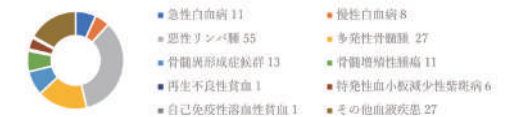
近年、高齢化が進み、それに伴い血液悪性腫瘍の増加も認められています。しかしながら、血液専門医は偏在しており、血液疾患を受け入れられる病院は限られています。私は2024年に当院に着任し、以後、積極的に地域連携に取り組んでおります。血液疾患が疑われる、あるいは血液疾患の治療に難渋する症例がございましたら、いつでもご相談ください。患者さん、ご家族のご希望に添えるよう、科内全体で取り組んでまいります。

また、当科は造血幹細胞移植やCAR-T療法などの高度先進医療にも習熟しておりますので、安心してご相談いただけたらと思います。

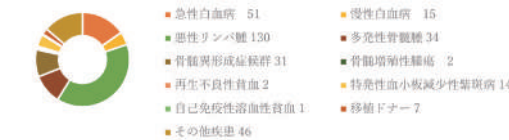
- ・対象疾患:基本的にすべての血液疾患およびその疑い症例。
- 〈悪性疾患〉急性・慢性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍（真性多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症など）、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病・リンパ腫、キャッスルマン病、原発性マクログロブリン血症、多発性骨髄腫、アミロイドーシス、ヘアリー細胞白血病、ランゲルハンス細胞組織球症など
- 〈良性腫瘍〉再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症、溶血性貧血、赤芽球癆、サラセミア、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病、後天性凝固異常症、フォンヴィレブランド病、抗リン脂質抗体症候群、伝染性単核球症、血球貪食症候群、慢性活動性EBウイルス感染症、好酸球増多症
- 〈移植・細胞療法〉これから造血幹細胞移植を検討している症例や移植後の経過観察を行う症例。また、CAR-T療法を考えている症例。
- 〈その他〉健康診断や定期受診で指摘された血算異常、リンパ節腫大、肝脾腫の症例。不明熱の症例。血液疾患に伴う合併症（感染症、間質性肺炎など）に苦慮している症例。
- ・検査は血液検査（保険適応外含む）、骨髄検査、遺伝子パネル検査など。他科との連携も良いためリンパ節生検も早期に可能です。先天性溶血性貧血に関しては、輸血・細胞プロセッシング部との連携により特殊遺伝子検査が可能です。また、気管支肺胞洗浄液を用いた肺炎ウィルス検査も可能です。

- * 造血幹細胞移植専門外来（火曜日と木曜日:瀬尾、篠原）
- * 移植後長期フォローアップ外来（月曜日:吉永、火曜日:瀬尾、篠原）
- * CAR-T専門外来（火曜日と木曜日:篠原）
- * AYA世代専門外来（火曜日と木曜日:瀬尾、篠原）
- * 多発性骨髄腫専門外来（水曜日と木曜日:萩原、田中）
- * 血小板異常症専門外来（火曜日:石山）
- * 貧血専門外来（木曜日:長内）
- * 特別診察室（完全予約制）（木曜日13時～14時半）

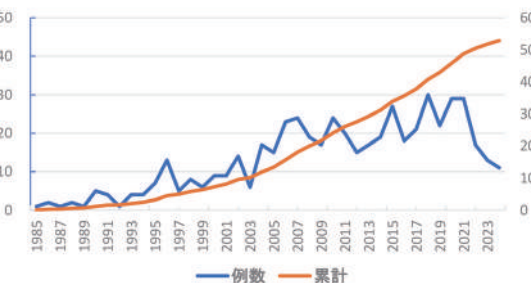
2024年度血液疾患新患内訳（160症例）



2024年度入院患者数（のべ333症例）



造血幹細胞移植 年次推移（1985～2023）



診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9350**
地域連携室（直通） 03-5269-7160



入院病棟に9床の無菌個室を備え、白血病寛解導入療法、同種移植をはじめとした治療を行っています。抗体薬、分子標的薬、造血幹細胞移植、CAR-T療法など、保険適応内の治療は当院でほぼすべて可能です。

患者さん、ご家族の希望に沿う形で治療方針を決定しており、合併症のある方や高齢の方であっても、ご希望があれば、積極的な治療を行っています。またAYA世代の若年者の治療にも力を入れています。妊孕性温存を産婦人科、泌尿器科の先生方と連携しながら進めており、晩期後遺症に対するケアも行っていきたいと考えています。

当科は入院中も医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーが毎週のカンファレンスを通じて多職種連携をとっております。患者さんのニーズにあった治療と看護、食事などを検討するとともにリハビリ、退院調整を滞りなく進めていくことで、早期の退院が可能となっております。

外来においても、がん専門看護師を中心とした看護師チームや薬剤師による詳細な説明やサポートにより、薬剤を安全に投与するだけでなく、患者さんやご家族が安心して治療を受けられるようチーム医療を行っております。

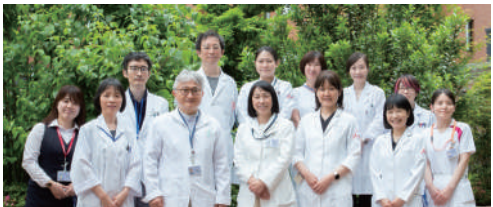
月曜から土曜まで、新患の受付をおこなっており、すべて血液専門医が対応いたします。血算の異常やリンパ節腫大など、血液疾患を疑う患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご相談ください。緊急の場合には、診療科ダイヤルインにご連絡いただきましたら、直接血液内科医が対応いたします。当科では、積極的に地域連携に取り組んでおり、患者さんの受け入れを断らない方針で対応しております。また、患者さんが受診できない場合には、セカンドオピニオンも行っております。まずはご相談ください。



無菌室（9床）



外来化学療法室
（3台のベッドと38台のリクライニングチェアを配置）



医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
瀬尾 幸子	教授	造血幹細胞移植、急性白血病	火、木	
吉永 健太郎	准教授	骨髄増殖性腫瘍、造血幹細胞移植	月、金	
篠原 明仁	講師	造血幹細胞移植、CAR-T療法	火、木AM	
風間 啓至	講師	血液一般	水AM	
石山 みどり	准講師	血小板異常症	月、火AM	
田中 紀奈	准講師	悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	木、金AM	
長内 聡子	助教	血液一般、貧血	木、土AM	
糸井 寛	助教	血液一般	金PM	
森元 梓	助教	急性白血病	金PM	
萩原 将太郎	非常勤講師	多発性骨髄腫	水（第2,4）	
飯塚 有希	嘱託医	血液一般	火	
加藤 豊	嘱託医	血液一般	月PM	
遠藤 美妃	嘱託医	血液一般	水	



診療部長
市原 淳弘

当高血圧・内分泌内科は、1954年に中山光重教授により発足した第二内科をルーツとし、内分泌疾患を専門に扱う診療科として臨床、研究を推進してまいりました。内分泌疾患の多くは高血圧症や若年性高血圧、治療抵抗性高血圧を合併するため、現在では、内分泌疾患以外にも高血圧患者も広く受け入れ、内分泌学の専門的な見地から包括的な診療を行っています。内分泌のスペシャリストが多く所属し、臨床内分泌学の伝統を矜持に、患者様一人ひとりに最新のエビデンスに基づいた質の高い医療を実践します。頼りになる内分泌専門家として、地域医療を担う先生方をサポートできるよう、医療連携を推進いたします。お気軽にご紹介ください！

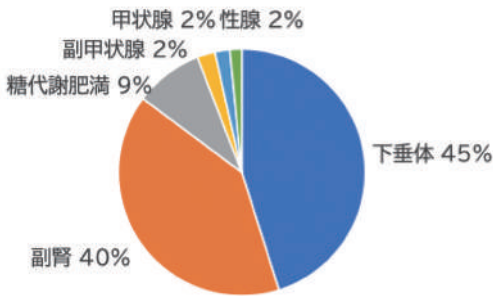
視床下部・下垂体疾患（先端巨大症、プロラクチノーマ、クッシング病、下垂体機能低下症、中枢性尿崩症、SIADH等）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍等）、副腎疾患（副腎腫瘍、アジソン病、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫等）、副甲状腺疾患（原発性副甲状腺機能亢進症、低下症）、性腺機能異常、Ca・骨代謝異常、電解質異常（低ナトリウム血症、低カリウム血症等）、肥満症、脂質異常症（特発性高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症、家族性複合型高脂血症等）、耐糖能異常、内分泌関連血圧異常（本態性高血圧、腎血管性高血圧、治療抵抗性高血圧、妊娠高血圧症候群、悪性高血圧等）

各種内分泌負荷試験（3者負荷試験、GHRP-2負荷試験、インスリン低血糖試験、75gOGTT、迅速ACTH試験、生理食塩水負荷試験、カプトプリル負荷試験、デキサメサゾン抑制試験等）、24時間血圧測定、甲状腺・頸動脈超音波検査、甲状腺穿刺吸引細胞診、動脈硬化生理検査（FMD、CAVI、AI等）、各種放射線検査（主に下垂体、副腎のCTやMRI）、副腎静脈サンプリング、海綿静脈洞サンプリング

内分泌疾患は、さまざまな症状を引き起こし、時に診断や治療が難しいことがあります。このため、患者様のご要望にお応えして、さまざまな領域の複数のスペシャリストによる専門外来を開設しています。

- ・血圧と妊娠外来（火曜午後）
- ・性腺（男性更年期含む）外来（水曜午後）
- ・副腎高血圧外来（金曜午前、月・木曜午後）
- ・骨粗鬆症外来（金曜午後）
- ・甲状腺外来（火・木曜午後）
- ・肥満外来（水曜午前） 等
- ・下垂体腫瘍外来（木・金曜午前）

2024年の入院295件のうち、内分泌臓器別の割合（重複あり）は下記の通りです。
 原発性アルドステロン症に対する副腎静脈サンプリングは21件でした。



当科の最大の特色は、内分泌疾患の各領域を一体的に診療することが可能な点です。特に、下垂体や副腎の内分泌疾患の診断・治療においては豊富な経験を有し、全国から患者様をご紹介いただいております。

当科では、他の大学病院でも困難な複雑な内分泌疾患の診断・治療すべてを得意としています。視床下部・下垂体疾患に関して、脳神経外科と協力して迅速な病状の評価（下垂体機能や画像検査）を行っています。下垂体機能の評価に必要な内分泌負荷試験の実施件数は日本有数で、年間100件以上行っています。

副腎疾患では、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫等の診断、治療を行っています。原発性アルドステロン症では生理食塩水負荷試験などの負荷試験や副腎静脈サンプリングによる病型診断を行い、泌尿器科等と協力して外科的治療まで一貫した診療体制を構築しています。転移性褐色細胞腫・パラガングリオーマに対する化学療法も行っています。

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9377**
地域連携室（直通） 03-5269-7160



高血圧・内分泌内科

甲状腺疾患では、橋本病やバセドウ病、下垂体性甲状腺機能低下症、腺腫様甲状腺腫などの診療を行っています。バセドウ病の難治例や合併症例に対しては内分泌外科や画像診断・核医学科と連携して手術やアイソトープ治療も実施しています。妊娠に伴う甲状腺機能異常や甲状腺眼症についても、それぞれ産科や眼科と協力した専門的な管理を行っています。
 その他の内分泌疾患についても最新の遺伝子診断を含めて先進的な診療を提供いたします。

甲状腺腫、多毛・無月経・肥満などのホルモン異常を疑う症例や、画像検査で下垂体、甲状腺や副腎に腫瘍が見つかった症例、慢性腎臓病や動脈硬化の評価が必要な症例など、高血圧の有無は問いませんので是非ともお気軽にご紹介ください。迅速な診断と適切な治療方針を決定し、早急に先生方へご返信いたします。入院が必要な際には、全国から集まった、経験豊富な指導医と後期研修医による医療チームが責任を持って治療にあたらせていただきます。

- ・7名の内分泌代謝科専門医が常勤で在籍し、専門性の高い外来を行っています。
- ・高血圧や糖尿病、その合併症管理の専門資格も有する医師が多数所属しています。
- ・甲状腺専門医や超音波ガイド下穿刺診断専門医の有資格者がホルモンの評価、細胞診、治療まで一貫して行います。
- ・詳細な外来担当表は上記のQRコードをご参照ください。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
市原 淳弘	教授・基幹分野長 副院長	総合内科専門医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医、高血圧専門医・指導医、動脈硬化専門医・指導医、腎臓専門医・指導医、透析専門医	金（午前） 月～木（午後）	月（午後）、火（午後）、水（午後）、木（午後）、金（午前）、土（午前）
森本 聡	教授（兼務）	総合内科専門医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医、高血圧専門医・指導医、動脈硬化専門医・指導医、糖尿病専門医・指導医、循環器専門医、腎臓専門医・指導医、透析専門医		火（午前）、水（午後）（第2週）、木（午後）（第2水曜の翌日を除く）、金（午前）
関 康史	准教授	総合内科専門医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医、高血圧専門医・指導医、甲状腺専門医、動脈硬化専門医・指導医、糖尿病専門医、骨粗鬆症認定医、甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医	月（午前）、木（午前）	火（午後）、木（午後）、金
渡辺 大輔	講師	総合内科専門医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医、糖尿病専門医・指導医	水（午前）、土（午前）	月、火、水（午後）、金（午後）
高野 倫嘉	臨床講師	内科認定医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医	火（午前）	月（午前）、水、土（午前）
木村 しほり	助教	内科認定医、内分泌代謝科（内科）専門医、高血圧専門医		火（午前）、木（午前）
平田 清貴	助教	内科専門医、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医・指導医		水、木（午後）、土（午前）
池本 真紀子	後期研修医	内科専門医、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医		
北山 さおり	後期研修医	内科専門医		月（午前）
武部 沙耶	後期研修医	内科専門医		土（午前）
下澤 達雄	非常勤講師	総合内科専門医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医、高血圧専門医・指導医、臨床検査専門医、老年病専門医・指導医		木（午前）
山下 薫	非常勤医師	総合内科専門医、内分泌代謝科（内科）専門医・指導医		金（午前）



診療部長
大月 道夫

内分泌内科は2021年6月に新設された診療科です。当科はあらゆる内分泌疾患を診療対象としています。東京女子医科大学病院では、内分泌疾患の診断・治療に関係する内分泌外科・脳神経外科・泌尿器科・眼科・糖尿病・代謝内科・ゲノム診療科等が揃っており、診断から治療までを院内にてシームレスに行うことができます。当科としてはこの利点を活かし、個々の内分泌疾患患者さんに対してテーラーメイドの診断・治療を行うようにしております。

- 間脳下垂体疾患（先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、下垂体機能低下症、尿崩症等）
甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺癌等）
副甲状腺・カルシウム代謝疾患（原発性副甲状腺機能亢進症、骨粗鬆症等）
副腎疾患（クッシング副腎疾患症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎癌、先天性副腎過形成等）
性腺疾患（ターナー症候群、クラインフェルター症候群）
内分泌性遺伝疾患（多発性内分泌腫瘍症等）

上記対象疾患診断のための検査、薬物治療

専門外来は設けておりません。
診療部長の大月は、厚生労働省 難治性疾患等政策研究事業の①間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者、②副腎ホルモンに関する調査研究班 分担研究者であることから間脳下垂体疾患、副腎疾患に関しては、特に専門的な診断、治療を行っております。

2021年7月外来開設から2025年8月までの新患者数	
疾患名	疾患別患者数 (%)
間脳下垂体疾患	326 (18.6)
甲状腺疾患	888 (50.7)
副甲状腺疾患、カルシウム代謝異常	109 (6.2)
副腎疾患	268 (15.3)
性腺疾患	19 (1.1)
脂質異常症	21 (1.2)
肥満症	8 (0.5)
その他	111 (6.4)
合計	1750 (100)

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は

[こちら](#)▼



連携担当医師の直通番号 **03-5269-7356**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP

診療部長の大月は、以下のように数多くの診療ガイドライン作成に携わってきています。

- これまでに作成に携わった診療ガイドライン
1. 副腎クリーゼを含む副腎皮質機能低下症の診断と治療に関する基準 2015
 2. わが国の原発性アルドステロン症の診療に関するコンセンサス・ステートメント 2016
 3. 副腎性サブクリニカルクッシング症候群 新診断基準の作成 2017
 4. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン 2018
 5. 免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害の診療ガイドライン 2018
 6. 間脳下垂体機能障害の診断と治療の手引き（平成30年度改訂）2019
 7. 原発性アルドステロン症診療ガイドライン 2021
 8. 21-水酸化酵素欠損症の診断・治療のガイドライン（2021年改訂）
 9. 間脳下垂体機能障害と先天性腎性尿崩症および関連疾患の診療ガイドライン 2023年版
 10. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン 2025

現在、日本内分泌学会臨床重要課題委員として担当している診療ガイドライン

1. 副腎偶発腫診療ガイドラインの策定
2. 原発性アルドステロン症診療ガイドラインの臨床課題解決に向けた検討
3. アルドステロン合成酵素欠損症の診断基準・重症度分類の策定
4. 副腎性顕性クッシング症候群の診断基準の策定

内分泌内科は2021年6月に新設された診療科ですが、診療部長の大月の幅広い内分泌疾患に対する診療経験、診療ガイドライン作成に携わることによる国内外におけるネットワークを基礎に、先進的な診断・治療にも取り組むと共に、個々の内分泌疾患患者さんに対するテーラーメイドの診断・治療を内分泌外科・脳神経外科・泌尿器科・眼科・糖尿病・代謝内科・ゲノム診療科等、関連する診療科と協力して行っています。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
大月 道夫	診療部長	内分泌疾患全般	月・水・金 午前（初診・再診）、 火 午後 特診/完全予約	
新美 佑有	非常勤講師	内分泌疾患全般	月 午前（第3週）、金 午前（第2週）	



診療副部長
中神 朋子

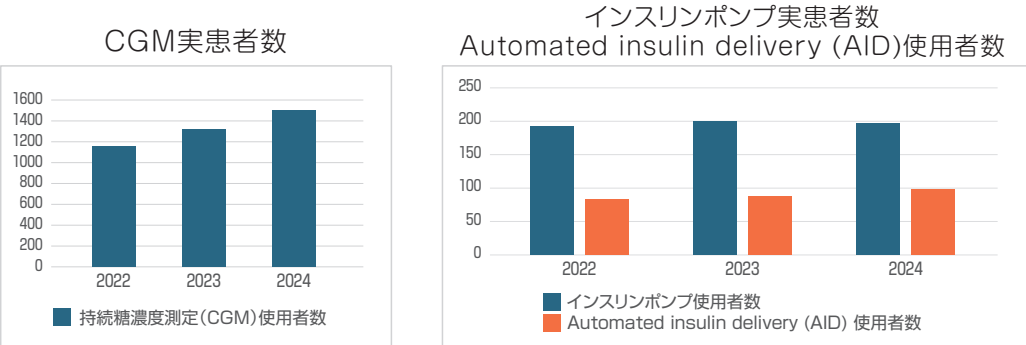
糖尿病は全身にさまざまな合併症をきたすことから、糖尿病専門医の役割は、血糖コントロールにとどまらず、慢性合併症の予防と治療にまでおよびます。当科は、「糖尿病があっても、糖尿病をもたない人と同じ人生を送ることができるように医療の手をさしのべる」ことを目指し、あらゆる年齢の、あらゆる糖尿病をもつ患者さんのトータルケアを目標に、診療を行っています。

糖尿病と診断されて間もない患者さんから罹病期間が長く合併症を含めた全身管理が必要な患者さんまで、ぜひご紹介いただけますようお願い申し上げます。

糖尿病:1型糖尿病、2型糖尿病、その他の特定の機序・疾患による糖尿病、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠
糖尿病合併症:糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害
代謝領域:肥満症、脂質異常症
その他:インスリン自己免疫症候群(平田病)

肥満・脂質異常症外来、腎・透析外来、透析予防指導外来、インスリンポンプ・CGM(持続糖濃度測定)外来、移植外来、ヤング・1型外来、物忘れ外来、神経外来

2024年度外来のべ人数	2024年度初診人数	2024年度入院患者
53,588名	933名	306名



持続糖濃度測定 (CGM) 使用者数				インスリンポンプ使用者数				Automated insulin delivery (AID) 使用者数			
年度	2022	2023	2024	年度	2022	2023	2024	年度	2022	2023	2024
実患者数	1154	1320	1500	実患者数	192	199	196	実患者数	83	87	98

糖尿病は全身にさまざまな合併症をきたすことから、糖尿病一般外来に加え、糖尿病性腎症・末期腎不全、神経障害、肥満症・脂質異常症、ヤング・1型糖尿病、高齢糖尿病などのサブスペシャリストが、それぞれの患者さんの合併症や病態に対応して診療しています。CGMやSAP(sensor-augmented insulin pump)など様々な先進的な医療機器も扱っています。糖尿病の治療方針の見直し、全身状態や社会的背景に合わせた薬剤調節、CGM等の導入、小児科からのトランジションなど、お気軽にご紹介いただけたら幸いです。

肥満症については、食事療法、GLP-1受容体作動薬、GIP/GLP-1受容体作動薬等の薬物療法を専門外来で行っています。また、必要に応じて、肥満外科治療のため専門外科への紹介も行っています。薬物療法の開始には当院での食事運動療法を先行する必要がありますので、希望される患者さんがいらっしゃいましたら早めにご紹介ください。

入院については、血糖マネジメント目的の入院、手術前の血糖調整入院、感染症など他疾患加療のための入院、インスリンポンプ導入のための入院など、様々な入院に糖尿病専門医、内科専攻医を中心に対応しています。1型糖尿病発症時の入院や糖尿病ケトアシドーシスの加療目的の入院など、緊急のご紹介にも極力対応いたします。

また、多数の看護師、臨床検査技師、管理栄養士などのメディカルスタッフが日本糖尿病療養指導士認定機構が認定するCDEJ(日本糖尿病療養指導士)の資格を有しており、多職種が協働して患者さんのセルフケアを全力で支援しています。

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9375**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



外来は原則として毎日初診を受け付けております。治療に難渋している方、CGMやインスリンポンプなどの先進的な医療機器を希望される方、肥満症に対して薬物療法を検討されている方など、お気軽にご紹介ください。糖尿病ケトアシドーシスやシックデイなどで緊急入院が必要な方については、上記ダイヤルインまでまずはご相談いただけますと幸いです。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
中神 朋子	教授	糖尿病全般、脂質異常症、肥満症	木	月火水
岩崎直子	特任教授	糖尿病全般、単一遺伝子による糖尿病		第1土
馬場園哲也	客員教授	糖尿病全般、糖尿病性腎症		火
三浦 順之助	准教授	糖尿病全般、1型糖尿病、小児・思春期の糖尿病、低血糖	水	火木土
小林 浩子	講師	糖尿病全般、1型糖尿病、インスリンポンプ療法	月金	月火木、第1土
花井 豪	講師	糖尿病全般、糖尿病性腎症	土	月火水
高木 聡	講師	糖尿病全般、1型糖尿病、インスリンポンプ療法	火	月土
菅野宙子	助教	糖尿病全般		月火
森 友実	助教	糖尿病全般、糖尿病性腎症、膵腎同時移植関連		水土
望月 翔太	助教	糖尿病全般、1型糖尿病、再生医療		月火
久保田 諒	助教	糖尿病全般、肥満症		火
滝田美夏子	助手	糖尿病全般、1型糖尿病		金土
武藤和子	非常勤講師	糖尿病全般、1型糖尿病		月
大屋純子	非常勤講師	糖尿病全般、肥満症、脂質異常症		火
石澤香野	非常勤講師	糖尿病全般、高齢者糖尿病		水
高山真一郎	非常勤講師	糖尿病全般、糖尿病性神経障害		水
金室麗子	非常勤講師	糖尿病全般		水
鈴木奈津子	非常勤講師	糖尿病全般、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病		水
田中瑞保	非常勤講師	糖尿病全般、糖尿病性腎症		木
哲翁たまき	非常勤講師	糖尿病全般		木
實重真紀	非常勤講師	糖尿病全般		木
田中伸枝	非常勤講師	糖尿病全般、糖尿病性腎症		金
佐藤明子	非常勤講師	糖尿病全般		第1,3,5月 第2,4火 第2土
大澤真里	非常勤講師	糖尿病全般、1型糖尿病		火
東晴名	嘱託医師	糖尿病全般		水
加藤ゆか	嘱託医師	糖尿病全般		木
長谷川夕希子	嘱託医師	糖尿病全般、脂質異常症、肥満症		金
長谷美智代	嘱託医師	糖尿病全般		第2,4月
藤川広菜	嘱託医師	糖尿病全般		第2,4月
山本由衣	嘱託医師	糖尿病全般		第2,4火
志村香奈子	嘱託医師	糖尿病全般、1型糖尿病		第1,2火
沈卓	嘱託医師	糖尿病全般、1型糖尿病		第1,3木
吉田直史	嘱託医師	糖尿病全般、糖尿病性腎症		第2,4木
入村泉	嘱託医師	糖尿病全般、膵腎同時移植関連、糖尿病性腎症		第2,4土
田中紗代子	嘱託医師	糖尿病全般、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病		第3火
大武幸子	嘱託医師	糖尿病全般		第4木
矢納和香子	嘱託医師	糖尿病全般		第3木
保科早里	嘱託医師	糖尿病全般、1型糖尿病		第2金
坂口佐知代	嘱託医師	糖尿病全般		第3金
横山陽一	嘱託医師	糖尿病全般、糖尿病性腎症		第1土
須田里佳	嘱託医師	糖尿病全般、脂質異常症、肥満症		第4土
近藤有一郎	嘱託医師	糖尿病全般、脂質異常症、肥満症		第1土
渡部ちづる	嘱託医師	糖尿病全般		

外来担当医表は
こちら▼



診療副部長
田中 栄一

当診療科は1982年にリウマチ性疾患全般に対応する中心的施設として設立された東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターを前身とする関節リウマチや膠原病などの全身性自己免疫疾患を扱う診療科です。数多くのリウマチ専門医が、自己炎症性疾患を含む成人および小児のリウマチ性疾患の診療を行っています。また、講師以上の経験豊富なリウマチ専門医が初診外来を担当し、病状を総合的に診断・評価し、最新の薬物療法を含む治療を紹介しています。治療では、生物学的製剤などの分子標的治療の豊富な実績を有します。リウマチ整形外科とは密な連携のもとに診療しているため、関節手術や装具作成の相談なども気軽に行える環境を有しています。

関節リウマチ・若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス（SLE）、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎・若年性皮膚筋炎、混合性結合組織病（MCTD）、血管炎（高安動脈炎・巨細胞性動脈炎・結節性多発動脈炎・顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症・IgA血管炎など）、抗リン脂質抗体症候群、シェーグレン症候群、ベーチェット病、成人発症スチル病、再発性多発軟骨炎、自己炎症性疾患（周期性発熱症候群）、脊椎関節炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、痛風、偽痛風など

血液検査（一般検査、自己抗体検査、遺伝子検査）、肺機能検査、心臓超音波検査、関節X線、関節超音波、関節MRI、胸部X線、胸部HRCT、CT/MR血管造影、PET-CT検査など

小児リウマチ外来
ACPA外来（抗CCP抗体陽性ですが、現時点では関節炎を発症しておらず、治療は始めないで慎重に経過観察をする目的の外来）

外来患者数(2024年4月～2025年3月)

初診患者数	1,187人
関節リウマチ	166人
全身性エリテマトーデス	39人
全身性強皮症	27人
皮膚筋炎/多発性筋炎	22人
血管炎	28人
再診患者数	21,395人

2024年度指定難病受診患者数

疾患名	人数
全身性エリテマトーデス	575
全身性強皮症	225
皮膚筋炎／多発性筋炎	165
ベーチェット病	109
シェーグレン症候群	99
混合性結合組織病	83
顕微鏡的多発血管炎	38

診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

外来担当医表は



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9385**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



診療科HP



当科は、関節リウマチやSLE、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎、脊椎関節炎、ベーチェット病などのリウマチ性疾患・膠原病を専門にしている診療科です。関節リウマチや、その他の比較的軽症の膠原病は外来で治療しますが、間質性肺炎や皮膚潰瘍などの臓器合併症を伴う関節リウマチや、内臓病変を伴うような膠原病は、主に入院で初期治療を行います。関節リウマチの診療にあたっては、関節超音波検査や関節 MRI 検査を迅速に実施できる体制を整えており、これらを駆使して早期診断を図るとともに、患者さんの意向を反映した上での早期寛解を目指した治療を心がけております。

当科の関節リウマチ外来患者数は年間約3,000名にのぼり、生物学的製剤やヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬など最新の分子標的治療において豊富な治療経験を蓄積しています。さらに、ループス腎炎、ANCA関連血管炎、抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎、肺動脈性肺高血圧症、進行性線維化を伴う間質性肺疾患といった難治性・希少疾患に対しても、各分野の専門医が連携し、診療にあたっております。

若年性特発性関節炎に代表される小児発症疾患についても成人移行支援を行い、成人診療科とのシームレスな医療を提供しています。また成人の自己炎症性疾患の診断・治療も行っています。

これらの疾患の多くは指定難病あるいは慢性疾患のため、外来で長期継続的に診療することになりますが、病状が落ち着いた患者さんは、近隣のかかりつけ医へ円滑にご紹介し、地域医療との連携を図っています。

リウマチ性疾患・自己炎症性疾患のハイボリュームセンターとして、それぞれの患者さんに適した診療を提供することを心がけております。生物学的製剤やJAK阻害薬など最新の薬物療法を含む治療をご紹介します。内科、小児科、整形外科のリウマチ専門医が協力して診療を行うことにより、小児発症の患者様の移行期・成人期の診療、関節機能障害を伴う患者様の薬物治療と関節機能再建の両立、さまざまな合併症を有する患者様の診療などを高いレベルで効率よく実施しています。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
川口 鎮司	臨床教授	全身性強皮症・筋炎・MCTD・リウマチ性疾患全般	水	月・火・木
南家 由紀	教授	関節リウマチ・リウマチ性疾患全般		木
田中 栄一	准教授	関節リウマチ・リウマチ性疾患全般	火	水・金
宮前 多佳子	准教授	小児リウマチ性疾患全般・周期性発熱症候群	木	水・木
勝又 康弘	講師	SLE・筋炎・血管炎・リウマチ性疾患全般	金	火・金
岡本 祐子	講師	関節リウマチ・リウマチ性疾患全般		火
樋口 智昭	講師	関節リウマチ・全身性強皮症・血管炎・リウマチ性疾患全般	金	水
栃本 明子	助教	リウマチ性疾患全般		月・水・木
馬嶋 雅子	助教	リウマチ性疾患全般		水
市村 裕輝	助教	リウマチ性疾患全般		水
高田 秀人	助教	リウマチ性疾患全般		火
山下 沙由里	助教	リウマチ性疾患全般		木・金
中村 昌平	助教	リウマチ性疾患全般		火
山田 理紗	助教	リウマチ性疾患全般		水・金



診療部長
多賀谷 悦子

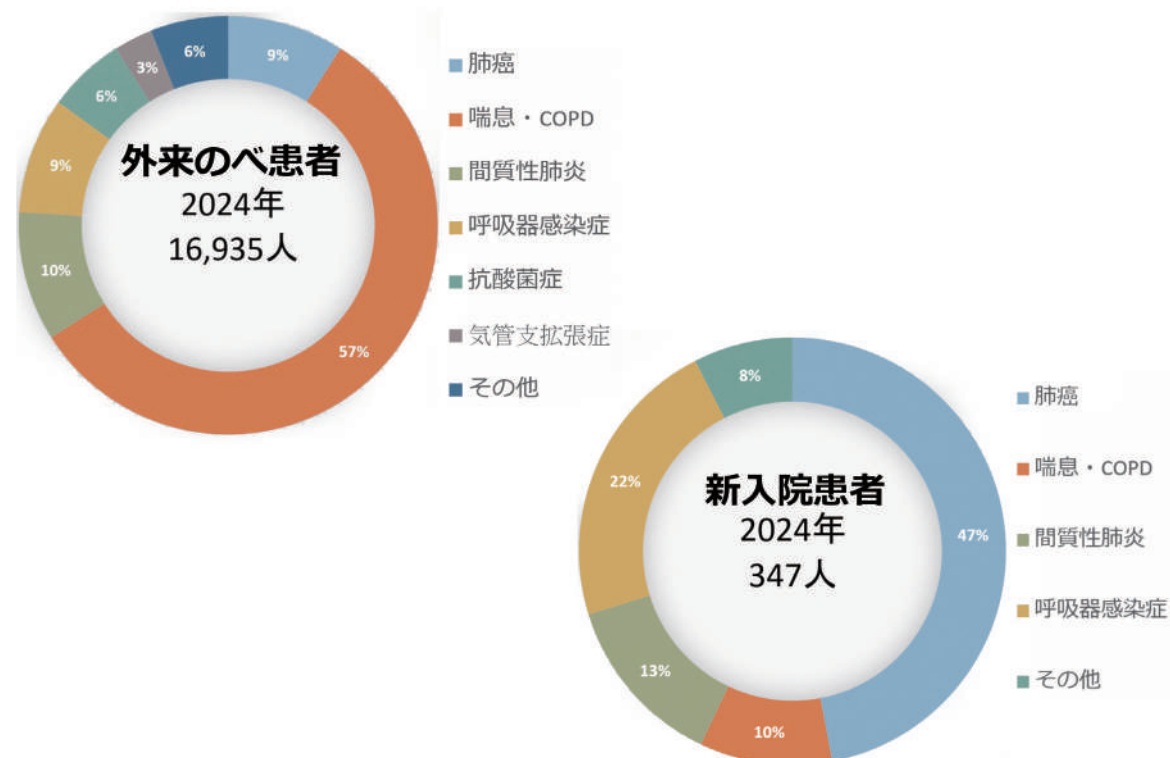
肺癌は男性の死因の第1位となり、喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）も年々増加しています。また、肺炎、非結核性抗酸菌症、間質性肺炎、アレルギー疾患も増加し、診療指針が新しくなってきました。外来診療の主訴として多い長引く咳に関しては、早期診断と適切な治療が重要です。当科では咳や痰に関する基礎および臨床研究を長年行っており、有効な治療法を報告しています。また、COPDの患者教育や予防医学としてリハビリ入院を行っており、地域医療や在宅医療のネットワーク作りにも力を注いでいます。

各々の疾患に対し呼吸器内科専門医、アレルギー専門医、がん治療専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医が対応いたします。

- 対象疾患・検査
- ・気管支喘息、アレルギー性肺疾患:呼吸機能検査（気道可逆性検査）、呼気一酸化窒素検査、アレルギー検査
 - ・慢性閉塞性肺疾患(COPD):呼吸機能検査（スパイロメトリー）、6分間歩行検査、
 - ・肺癌:肺生検（気管支鏡下肺生検TBLB、気管支鏡下リンパ節生検TBNA、CTガイド下肺生検）、PETCTなど
 - ・呼吸器感染症（肺炎、気管支炎、抗酸菌症）:気管支鏡検査（細菌培養、PCR検査）、採血、film arrayなど
 - ・間質性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシスなど）:気管支鏡下肺生検TBLB、呼吸機能検査（肺拡散能）

専門外来

基本的に、初診の際にはどのような疾患でも、対応できる体制にしています。その後、疾患により専門性の高い担当医が診察するシステムにしております。



診療科の 特色・ 得意とする 疾患

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9381**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



東京女子医科大学呼吸器内科は、1990年に呼吸器外科とともに呼吸器センターを設立し、呼吸器内科学の診療と研究を行っています。

現在、多賀谷悦子教授・基幹分野長（名医ランキング2021～2026, Best Doctors in Japan連続選出）のもと、近藤光子客員教授、八木理充講師、有村健講師、赤羽朋博准講師、助教、後期研修医が在籍しています。専門医は、日本呼吸器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、がん治療認定医など、都内の呼吸器内科の中でも、専門医・指導医数が多い医局です。

当科では、2019年に、東京都のアレルギー専門病院に認定され、他施設で治療に難渋した症例の治療や自己管理指導を行っています。喘息診療においては、呼吸機能検査、呼気一酸化窒素濃度の測定を行い、耳鼻咽喉科や皮膚科と協力して喘息の診療をしています。重症喘息に対する生物学的製剤の治療経験が多い施設です。

また、肺がん領域では、超音波ガイド下ガイドシース法（EBUS-GS）、気管支鏡下肺生検や、遺伝子変異の検査を積極的に行っており、呼吸器外科、放射線科、病理科、化学療法科などと緊密に連携し包括的医療を行なっています。COPD患者に対しては、リハビリテーション入院を行っており、早期から指導を行うことで患者様のQOLの低下の予防に役立っています。気管支拡張症やびまん性汎細気管支炎には、新たな治療薬の導入を積極的に行い、また、難治例の中には原発性線毛機能不全症（PCD）の患者がおり、当科では気管支鏡検査の検体より診断する手法を確立し診断を行います。

研究面では、先端テクノロジーを用いた基礎研究から、治療応用をめざした臨床研究まで幅広く行われ、国内外でも有数の業績を上げています。さらに卒後教育として、多くの講演会、勉強会、研究発表会などを行い、優れた呼吸器内科専門医を養成し、良質の医療を患者さんに提供できるように努めています。

ご紹介 くださる 先生方へ

当科の特徴は、各医師が呼吸器全般を診察できる体制にしています。各々高い専門的な知識を持つての診察にあたります。専門外来の日ではないので診察できません、ということが無いようにしています。午後も、新患の診察枠があります。

医師専門分野 一覧

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
多賀谷 悦子	教授・基幹分野長	喘息、アレルギー、COPD	金・木	月・金
近藤 光子	客員教授	喘息、アレルギー、間質性肺疾患		月・火
八木 理充	講師	呼吸器感染症、肺癌	火	月・水・木
有村 健	講師	肺癌、気管支鏡	月	水

外来担当医表は
こちら▼





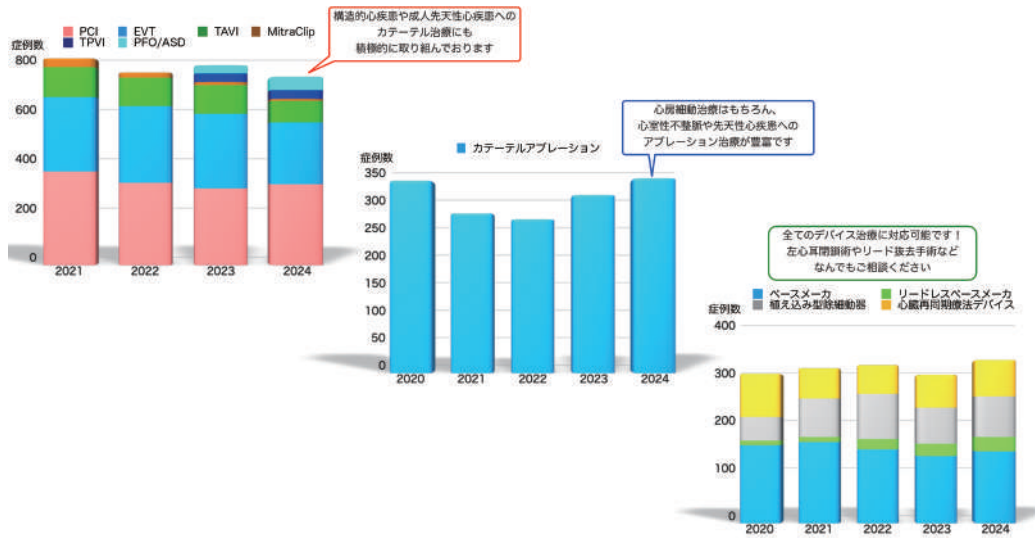
診療部長
山口 淳一

当科は1967年に国内初の冠動脈集中治療室（CCU）を開設し、日本の循環器診療を牽引してきました。虚血性心疾患、不整脈、心不全、弁膜症、大血管疾患、先天性心疾患まで幅広く対応し、薬物療法からカテーテル治療（PCI、EVT、TAVI、M-TEER）、デバイス治療、補助人工心臓、心臓移植まで包括的な治療を実践しています。不整脈領域ではアブレーション約330例、デバイス関連治療約330例、リード抜去約35例と、大学病院として全国有数の症例数を有します。各分野の専門医が緊密に連携し、全人的かつ高度な医療を提供しています。

狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患、心不全（急性、慢性）、不整脈（心房細動、心室頻拍、徐脈性不整脈）、弁膜症（大動脈弁・僧帽弁・三尖弁）、心筋症（拡張型、肥大型、拘束型）、心筋炎、心膜炎、高血圧、動脈硬化症、大動脈瘤・解離、肺血栓塞栓症、肺高血圧症、成人先天性心疾患、末梢動脈疾患（PAD）、植込み型デバイス関連感染症（CIED感染）など幅広い循環器疾患に対応。

心電図、ホルター心電図、運動負荷試験、心エコー（経胸壁・経食道）、心臓カテーテル検査（冠動脈造影、左室造影、FFR、iFR、IVUS、OCT）、冠攣縮誘発試験（アセチルコリン・エルゴノビン）、心筋シンチ、心臓PET、心臓CT・MRI、ABI・PWV、ヘッドアップティルト試験、植込み型心電計（ILR）、遠隔モニタリング等

・冠疾患、動脈硬化、末梢血管疾患、大血管、心不全、心不全サポート、心移植、不整脈、ペースメーカー、ペースメーカートラブル、ICD遠隔モニタリング、弁膜症、人工弁、成人先天性心疾患、肺高血圧、など



東京女子医科大学循環器内科は、我が国における循環器臨床の草分けとして、伝統と革新を併せ持つ診療を展開しております。高度かつ先進的な医療と全人的な視点を融合し、患者様一人ひとりに最適な循環器医療を提供しております。対象疾患は、虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、心筋症、大血管疾患、肺高血圧症、成人先天性心疾患（ACHD）など多岐にわたり、急性期から慢性期まで一貫して対応しております。

治療面では、重症心不全に対する集学的治療（薬物、補助循環、デバイス、心移植）を中心に、PCI、EVT、TAVI、M-TEER、TPVI、冠攣縮・微小循環障害（INOCA）への対応を強みとしております。不整脈に対しては、アブレーションおよび各種デバイス治療を積極的に行っております。さらに、PET、心臓CT、MRI、心筋シンチグラフィなどの高度画像診断を駆使し、精度の高い診断と治療を実現しております。

また、心臓血管外科や循環器小児科と緊密に連携し、外科的治療や長期管理を要する複雑症例にも対応しております。心移植が考慮される重症心不全、反復入院を伴う心不全、急性冠症候群、治療抵抗性狭心症、複雑冠動脈病変、難治性不整脈、手術ハイリスク弁膜症、CIED関連合併症、ACHDなどのご紹介を、24時間365日体制で受け入れております。

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9364**
地域連携室（直通） 03-5269-7160



循環器内科



地域の医療機関の先生方におかれましては、日頃より多くのご紹介・ご連携を賜り、心より御礼申し上げます。当科では、高度で専門的な循環器診療を迅速かつ的確に提供するとともに、患者様の状態に応じて速やかな逆紹介も行っております。今後も、先生方と緊密に連携し、地域に根ざした質の高い循環器医療をともに支えてまいります。引き続きのご指導・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
山口 淳一	教授・基幹分野長	虚血性心疾患、心血管カテーテル治療、心臓集中治療	月	火 午後
大門 雅夫	臨床教授	心エコー、画像診断、心不全	金	月 午後
庄田 守男	特任教授	不整脈治療全般、カテーテルアブレーション、デバイス治療、リード抜去、先天性心疾患	月	月 午後、水 午前
南 雄一郎	准教授	循環器集中治療、急性心不全、肥大型心筋症	月	金 午前
柳下 大悟	寄附部門准教授	不整脈治療全般、カテーテルアブレーション、デバイス治療、リード抜去、左心耳閉鎖術	月	木 午後
坂井 晶子	講師	動脈硬化、画像診断	木	月 午前、火 午前
鈴木 敦	講師	心不全、心筋症、不整脈、薬物治療	水	木 午後
春木 伸太郎	講師	循環器集中治療、急性心不全	金	月 午後
菊池 規子	講師	心不全、心筋症、補助人工心臓、心臓移植	火（1, 3, 4, 5週）	火 午前（2週）、金 午後（2週）
服部 英敏	講師	循環器集中治療、急性心不全、補助人工心臓、心臓移植	火（1, 2, 3, 5週）	月 午後（1, 3, 5週）、火 午前（4週）、水 午後
樋口 諭	寄附部門講師	不整脈治療全般、カテーテルアブレーション、デバイス治療、リード抜去、左心耳閉鎖術	水	火 午前
上野 敦子	准講師	心臓リハビリテーション、心不全	木	水 午後、土（1週）
小暮 智仁	助教	虚血性心疾患、成人先天性心疾患、構造的な心疾患カテ治療	火（成人先天性心疾患・肺高血圧症）	火 午前
大槻 尚男	寄附部門講師	虚血性心疾患、末梢動脈疾患、構造的な心疾患カテーテル治療	金	水 午前
中尾 梨沙子	助教	心エコー、画像診断		金 午前
曾根 麻衣子	助教	心不全、心筋症、補助人工心臓、心臓移植	火（2, 4週）	月 午後（2, 4週）、水 午後、土（4週）
長谷川 瞬	助教	不整脈治療全般、カテーテルアブレーション、デバイス治療、リード抜去、左心耳閉鎖術		金 午前、土（4週）
柴橋 英次	助教	虚血性心疾患、末梢動脈疾患、構造的な心疾患カテーテル治療		木 午前、土（1週）
南 義成	助教	心不全、心筋症、補助人工心臓、心臓移植		月 午前、金 午前
吉川 将史	助教	虚血性心疾患、末梢動脈疾患、構造的な心疾患カテーテル治療		金 午前
川本 尚宜	助教	虚血性心疾患、成人先天性心疾患、構造的な心疾患カテ治療		火 午後、土（4週）
松井 優子	助教	循環器疾患一般、不整脈治療全般		金 午後、土（2週）
今門 理紗	助教	循環器疾患一般、画像診断		金 午後
亀谷 智子	助教	循環器疾患一般、循環器集中治療、心不全		火 午前
大藪 謙次郎	助教	循環器疾患一般、循環器集中治療、心不全		金 午後
岸原 誠	後期臨床研修医	循環器疾患一般、循環器集中治療、心不全		月 午前
芹川 直輝	後期臨床研修医	循環器疾患一般、虚血性心疾患全般		火 午後、土
渡邊 正之介	後期臨床研修医	循環器疾患一般、不整脈治療全般		木 午前
菊池 健介	後期臨床研修医	循環器疾患一般、不整脈治療全般		

外来担当医表は

こちら▼





診療部長
中井 陽介

消化器内科は、消化管（食道・胃・小腸・大腸）、肝臓、胆嚢・胆管、膵臓など多くの臓器の疾患を担当する診療科です。幅広い消化器疾患に対応するため、各領域の専門知識・技術を持ったスタッフが外来、入院の診療を担当しています。近年増加しているがんの中でも消化器のがんは多くを占めています。消化器内科は、これらの消化器がんに加えて、感染や炎症など幅広い消化器の病気を、より早く正確に診断し、さらに、科学的根拠に基づき、患者さんに最善の医療を提供するため、消化器・一般外科、消化器内視鏡科だけでなく関連診療科・部門と幅広く横断的な連携を取り、診療にあたります。

- 消化管疾患:腫瘍（良性、悪性）、出血、腸閉塞、食道胃静脈瘤、胃食道逆流症、ヘリコバクター・ピロリ感染症、機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ベーチェットなど）、感染性腸炎、虚血性腸炎 など
- 肝疾患:急性肝炎、ウイルス性慢性肝炎、劇症肝炎、肝不全、肝硬変、肝臓がん、アルコール性・脂肪性肝疾患（ALD・MASLD）、自己免疫性肝疾患（AIH、PBC、PSC）、ウィルソン病などの先天性代謝異常症、バッド・キアリ症候群などの門脈血行異常症、フォンタン関連肝疾患などのうっ血性肝疾患、門脈肺高血圧症、肝移植の適応評価、肝移植後のfollow up
- 胆膵疾患:膵臓がん、胆道癌、膵嚢胞性腫瘍（IPMN、MCN、SPN、SCNなど）、急性膵炎、膵炎後局所合併症（仮性嚢胞、被包化壊死）、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、胆石症、急性胆管炎、急性胆嚢炎、術後胆管狭窄 など
- 検査・治療:上下部消化管内視鏡（止血、EMR、ESD、ステント留置、バルン拡張など）、経鼻内視鏡、小腸・大腸カプセル内視鏡、バルン小腸鏡、ERCP（結石除去、ステント・ドレナージなど）超音波内視鏡（穿刺生検、膵胆道ドレナージなど）、腹部超音波、肝生検、消化管造影、イレウス管留置、胃瘻造設 など

臓器別に専門医が外来診療を行っております。

	R4	R5	R6
ERCP	219	309	568
胆膵EUS（診断）	818	1082	1670
胆膵EUS（治療）	7	8	22

診療科の
特色・得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9367**
地域連携室（直通） **03-5269-7160**



上部消化管グループ:画像強調観察、超音波内視鏡など最新の内視鏡を駆使して病変の質的診断、範囲診断、治療に取り組んでおります。早期の腫瘍性病変に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や、門脈圧亢進症に伴う難治性、再発性静脈瘤に対する画像診断、集学的治療にも取り組んでいます。

下部消化管グループ:炎症性腸疾患では、外科と綿密に連携し、一貫した疾患単位の診療を行なっています。大腸カプセル内視鏡検査、小腸疾患に対してはバルーン小腸内視鏡検査や小腸カプセル内視鏡検査なども用い、小腸・大腸を対象として、診断から治療につながる医療を行っています。

肝臓グループ:特にMASLDや肝硬変に関してガイドライン作成や評価に携わるなど、日本のオピニオンリーダーとして活動しています。また、当院は心疾患のハイボリュームセンターであることから、フォンタン術後に合併するうっ血肝を基盤とした肝病変（FALD）のやPBC/PSCなどの難病疾患、希少な肝疾患の診療にも精力的に行っています。

胆膵グループ:膵嚢胞や膵萎縮に注目した超音波内視鏡検査やERCPによる早期膵臓がんの診断に取り組んでいます。進行癌に対する従来の抗がん剤だけでなく、免疫チェックポイント阻害薬治療や遺伝子パネル検査なども行っております。胆道鏡を用いた胆管結石治療や、胆管癌の進展度範囲診断、術後腸管症例に対するERCP、超音波内視鏡を用いたインターベンションなど高度な内視鏡診断・治療も積極的に行っております。

消化器疾患の患者さんやご家族が安心してより良い医療を受けられるように、地域の先生方と緊密な連携をさせていただきます。緊急診療のご依頼にも、できる限り迅速に対応いたします。また、内科疾患か判断が難しい際も、消化器・一般外科や救命救急センターなどの多診療科・部署とも連携しながら対応いたしますので、どうぞお気軽にご連絡ください。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
中井 陽介	教授	胆膵	要予約	月午前・木午後（特診）
中村 真一	教授	上部・肝	要予約	火午後・水午前・金午前（特診）
菊山 正隆	特任准教授	胆膵	要予約	火午後
谷合 麻紀子	准教授	肝	要予約	火午前・木午前・金午前・火午後（特診）
小木曾 智美	講師	肝	要予約	水1日・木午前
高山 敬子	講師	胆膵	要予約	木午前・金午後
白田 龍之介	講師	胆膵	要予約	金午前
伊藤 亜由美	助教	下部	要予約	金午後（第1・3週）
大塚 奈央	助教	胆膵	要予約	火午後
小笠原 友里	助教	肝	要予約	金午後
高鹿 美姫	助教	下部	要予約	木午前
林 涼子	助教	上部	要予約	金午後
山本 果奈	助教	上部	要予約	水午後
米沢 麻利亜	助教	下部	要予約	木1日
徳重 克年	客員教授	肝	なし	月午後
五十嵐 悠一	非常勤	肝	なし	金午前（新規受け入れ不可）
小西 洋之	非常勤	上部	なし	木午後
田原 純子	非常勤	胆膵	なし	土午前（第2・4週）（新規受け入れ不可）
鳥居 信之	非常勤	肝	なし	月午前・木午後（特診）
西野 隆義	非常勤	胆膵	なし	金午後（第1・3週）
堀内 健太郎	非常勤	肝	なし	火午後
村杉 瞬	非常勤	下部	なし	金午前（第2・4週）
八辻 賢	非常勤	肝	なし	水午前



診療部長
野中 康一

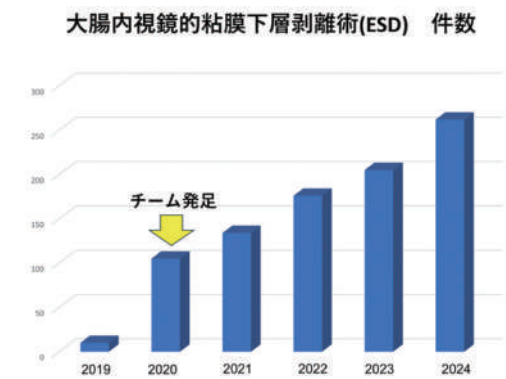
当科は、消化管腫瘍に対する内視鏡診断と低侵襲内視鏡治（ESD）を中心に診療を行っています。なかでも、当科指導医は国内有数のESD治療症例数を経験しており、国内のみならずアジアの多くの施設に指導に出向き、内視鏡技術の普及に努めております。また、東京女子医科大学の役割でもある女性医師の教育、働きやすい環境を作るとともに、コミュニケーション能力も含めた最良の医療人を育成する職場環境構築に力を入れております。消化器内科、消化器外科、メディカルスタッフとともに消化器病センターの一員として、患者様中心の医療を提供できるように努めてまいります。

- ・食道・胃・十二指腸・大腸の早期癌
 - ・大腸ポリープ
 - ・胃・十二指腸潰瘍などの上部消化管出血
 - ・大腸憩室出血をはじめとする下部消化管出血
- ・消化管リンパ増殖性疾患
 - ・ヘリコバクター・ピロリ胃炎
 - ・自己免疫性胃炎

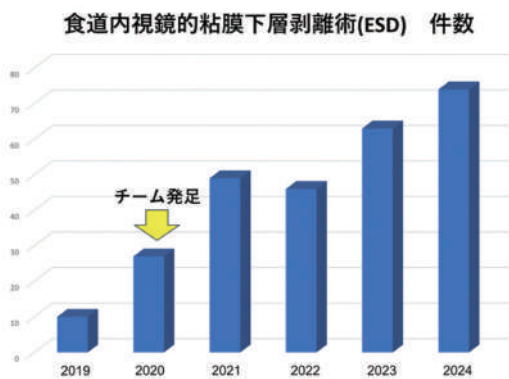
- ・早期消化管癌に対する内視鏡治療/内視鏡診断

臓器別ESD件数 2024年		
食道	胃	大腸
74	119	262

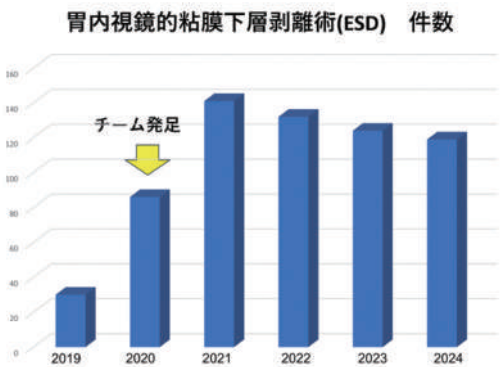
2024年ESD件数



大腸ESD 件数推移



食道ESD 件数推移



胃ESD 件数推移

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9372**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP

開業の先生方からのご支援のおかげさまで都内を中心に、全国、時に海外からも患者様をご紹介頂き、ESDの症例数は右肩上がりです。特に大腸ESDに関しては全国TOP10以内に入ってまいりました。また、ESDの最も重篤な偶発症は消化管穿孔になりますが当科における穿孔率は本日までわずか0.1%未満(全国平均ではおよそ1-5%程度と報告されている)と極めて低い点は最大の特徴とも言えます。また内視鏡技術の向上のみならず患者様への丁寧な接遇を心掛けております。

早期胃がんで範囲診断が難しい症例や、内視鏡治療の難易度が高い大腸腫瘍の患者様もぜひ当院にご紹介いただけますと精密検査で適応をしっかりと判断したうえで患者様個々に応じた治療を選択させていただきます。外来初診日から数えて、3週間以内に治療を行えるようにスケジュールを組み、すべての患者様にご満足いただけるように努めております。内視鏡治療や診断が必要な患者様がいらっしゃいましたら是非ご紹介頂けますと幸いです。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
野中 康一	教授	上下部消化管内視鏡診断および治療(特にESD)	月 AM/PM、 第2・4土	月 AM/PM、 第2・4土
岸野 真衣子	准教授 (9月より)	上下部消化管内視鏡診断と治療、 消化性潰瘍・GERD・機能性消化 管疾患の診療	月 AM/PM	月 AM/PM
三角 宜嗣	講師 (9月より)	上下部消化管内視鏡診断および 治療(特にESD)	水 PM	水 PM

尚、上記以外においても毎日当番医が必ず診察させていただきます。



外来担当医表は
こちら▼



当腎臓内科は、1973年の創設以来、常に「患者さんとともに」をキーワードにあらゆる腎臓病の診療を積極的に行うとともに最先端の腎臓病研究を数多く行って参りました。特にIgA腎症・多発性嚢胞腎・ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療に関しては全国有数の治療実績を有しており、糖尿病関連腎臓病・血管炎症候群・アミロイドーシス・心腎連関などの他科連携を必要とする腎臓病の診療経験も豊富です。本学の理念である「至誠と愛」の精神に則り、患者さんの訴えに耳を傾け、様々な検査を通じて”体のバランス異常”をいち早く察知し、キメの細かい診療を実践しています。地域医療機関との病診連携を大切にし、慢性腎臓病の早期段階から患者教育も含めた積極的な介入を行うことで重症化予防や合併症予防を心掛けています。また、透析施設との病診連携を通じて、新規透析導入および透析患者さんの合併症管理も数多く行っております。



診療部長
星野 純一

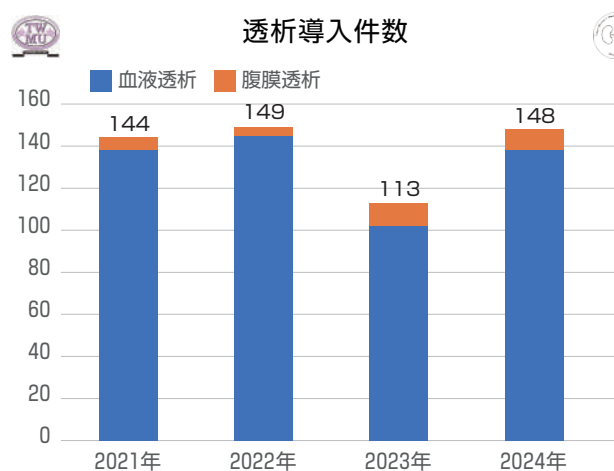
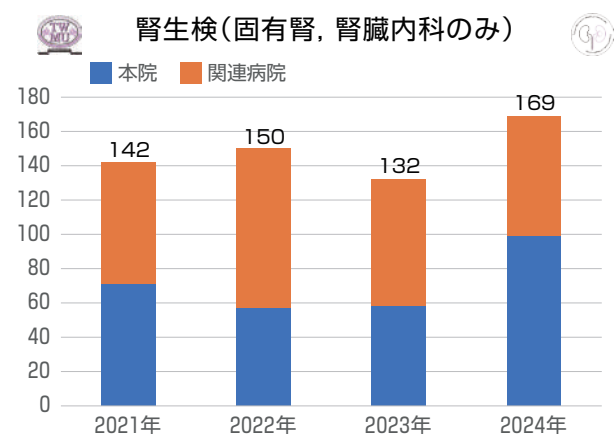
対象疾患・検査

慢性腎臓病、IgA腎症・ANCA関連血管炎・膠原病関連腎臓病など全ての腎炎・ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎、遺伝性腎疾患、糖尿病性腎症、肥満腎症、透析合併症、慢性腎臓病に合併した骨粗鬆症治療なども多数行うとともに、血液透析（HD）、腹膜透析（PD）、腎移植後管理を含めた腎代替療法全般にわたる診療を担当しています。

専門外来

慢性腎臓病外来、嚢胞腎(PKD)外来、IgA腎症外来、腎炎／ネフローゼ外来、膠原病関連腎臓病外来、腎臓リハビリテーション（腎リハ）外来、肥満腎症外来、遺伝性腎疾患外来、バスキュラーアクセス外来

実績



診療科の特色・得意とする疾患

ご紹介くださる先生方へ

医師専門分野一覧

外来担当医表は



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9371**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP



あらゆる腎臓病に対応しておりますが、中でも特にIgA腎症、多発性嚢胞腎、ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療に関しては、全国有数の治療実績を有しています。腎生検を積極的に実施して正確な診断と適切な治療を心掛け、多発性嚢胞腎など遺伝性疾患の新規治療も積極的に行っています。

当科は「患者さんとともに」を基本として日々の診療に励んでおります。かかりつけ医との病診連携を重視し、慢性腎臓病の早期段階から患者教育も含めた積極的な介入を行うことで重症化予防や合併症予防を心掛けています。また、透析施設との病診連携を通じて、新規透析導入および透析患者さんの合併症管理も数多く行っております。

ここ数年間の間に、CKD治療は大きく変化しました。「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023」「CKD診療ガイド2024」が発刊され、SGLT2阻害薬、MR拮抗薬、HIF-PH阻害薬などを適切に使用していくことが求められています。また、腎専門医への患者紹介基準として、①尿蛋白1+以上の場合、②尿蛋白±が2年連続で認める場合、③eGFR(ml/min/1.73m²)が40歳以上では45未満、40歳未満では60未満の場合、の3つが明記されました。いつでも対応致しますので、まずはお気軽にご相談下さい。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
星野 純一	教授・基幹分野長	慢性腎臓病、多発性嚢胞腎、糖尿病性腎症、IgA腎症、膠原病関連腎臓病、アミロイドーシス、透析管理、膠原病・リウマチ、臨床疫学	外来日はホームページ通りです。	
新田 孝作	客員教授	慢性腎臓病、急性腎障害、腎炎、ネフローゼ症候群、難治性血管炎、透析管理		
土谷 健	客員教授	腎生理、慢性腎臓病、多発性嚢胞腎、透析療法		
若井 幸子	客員教授	腎炎、ネフローゼ症候群、IgA腎症、腎移植		
片岡 浩史	講師	腎炎、肥満腎症、多発性嚢胞腎、個別化医療、属性に基づく医療 (ABM: attribute-based medicine)、IgA腎症		
眞部 俊	講師・医局長	腎炎、ネフローゼ症候群、腎病理、遺伝性腎疾患、多発性嚢胞腎		
小林 静佳	助教・外来医長	慢性腎臓病、透析管理、腎移植、バスキュラーアクセス		
真壁 志帆	助教	多発性嚢胞腎、慢性腎臓病、透析管理		
潮 雄介	助教・病棟長	慢性腎臓病、多発性嚢胞腎、ネフローゼ症候群		
関 桃子	助教・病棟班長	腎臓病一般、腎性貧血		
陶守 仁子	助教	腎臓病一般、バスキュラーアクセス		
中居 杏奈	助教	腎臓病一般、腎炎、ネフローゼ症候群		

当科は、一般小児疾患は「より広く」、神経・筋疾患など専門領域は「より深く」をモットーに患者さんに貢献できる体制を整えております。外来診療では、予約診療を原則としながら、常に予約外診療の医師も配置しております。ご紹介患者さんは、できるだけ早めに希望の日時に予約をとれるよう担当医自らも努めております。入院診療においては、「神経・てんかん・筋疾患」は全国有数の治療成績を誇っております。総合班は、リウマチ疾患、消化器疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患（低身長、糖尿病など）と幅広い疾患分野に対応が可能です。常に「患者さん主体の診療」を心がけ、「地域医療への奉仕の精神」が私たちの決意です。



診療部長
永田 智

栄養不良、成長不良、発達遅延、てんかん・けいれん性疾患・全般、神経筋疾患・全般、アレルギー疾患・全般（食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎など）、小児消化器疾患・全般（便秘、血便、下痢、炎症性腸疾患など）、小児リウマチ疾患・全般、自己炎症性疾患・全般、神経発達症、内分泌疾患（低身長、糖尿病など）

アレルギー、消化器、神経・発達、神経・筋疾患、てんかん、糖尿病、代謝・内分泌、心理相談

	2021年	2022年	2023年
重症筋無力症	6	4	13
筋ジストロフィー・先天性ミオパシー	72	95	125
脊髄性筋萎縮症	28	23	26
てんかん	71	71	82
熱性けいれん	7	10	24
先天異常症候群	5	2	2
先天代謝異常症（Pompe病,Fabry病など）	37	33	31
脳奇形・精神遅滞	7	19	30
低出生体重児の既往	11	7	13
小児リウマチ性疾患	13	1	6
胃腸炎	17	26	20
その他の消化器疾患	14	10	5
上気道感染症	8	0	6
下気道感染症	31	25	52
RSウイルス等の感染症	72	40	43
気管支喘息	63	58	56
川崎病	6	7	5
食物アレルギー	17	10	14
1型糖尿病	4	1	2
内分泌疾患	5	1	6
尿路感染症	9	9	12
その他	87	72	102
合計	584	520	662

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9352**
地域連携室（直通） **03-5269-7160**



診療科HP



私ども東京女子医科大学小児科は、伝統的に神経・筋疾患を多く診療しております。身体がやわらかい、てんかん・けいれん、乳幼児健診での精査依頼や就学に際しての発達評価などでお困りの症例がありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

近年、筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症といった根本治療のなかった神経難病について、目覚ましい治療開発がなされ、遺伝子治療薬が登場しております。以前であれば、診断までに時間を要することがあった疾患についても、早期診断・早期治療が求められる時代となってきております。身体がやわらかい、発達の遅れ、筋力低下、などの患者さんがおられましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

けいれん・てんかんにつきましても、数多くの新規抗けいれん薬の治療開発に関わっており、国内有数の専門施設と自負しております。熱性けいれんや通常の小児てんかんから、難治症例まで、幅広く多くの患者さんを診療しております。特に小さいお子さんの場合、そもそも、けいれん・てんかんなのかどうか見分けがつかない例も少なくありません。疑わしい患者さんも含めて、積極的に診療したいと存じております。

消化器、リウマチ・膠原病の経験も豊富で専門医による診療を行っております。特に、消化器部門は、内視鏡検査まで含めた診断・治療を完結できる数少ない施設の一つです。小児リウマチ・膠原病分野も自己炎症症候群を含めて、関節痛や不明熱などの原因精査・治療のご依頼に対応しております。日々精進してまいりたいと存じておりますので、お困りの患者さんがおられましたら、何卒、当科までご紹介いただければ幸甚でございます。

ご紹介いただける場合、できるだけ迅速に対応したいと存じております。お急ぎの場合、診療科ダイヤルインをどうぞご利用ください。当科医師が直接対応いたします。また、24時間365日の小児入院対応を行っている施設の一つとして、一般小児入院につきましても積極的に診療いたします。医局員一同、引き続き、ご信頼いただけるよう精一杯努力いたしますので、これまで同様、何卒よろしくお願い申し上げます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
永田 智	主任教授/アレルギー専門医	アレルギー・栄養・消化器	火 午後、 金 午前	
石垣 景子	准教授/小児神経専門医	神経筋疾患・神経全般	火	
岸 崇之	特任准教授/リウマチ・小児神経専門医	小児一般・免疫疾患	月	
伊藤 進	准講師/てんかん・小児神経専門医	熱性けいれん・てんかん	木	
立川 恵美子	助教/内分泌専門医	低身長・糖尿病・内分泌	月	
中務 秀嗣	助教/小児神経専門医	神経発達症・神経全般	金	
山本 陽子	助教/小児科専門医	消化器・小児内視鏡・ 血便・便秘・下痢	金	



診療部長(代行)
稲井 慶

東京女子医科大学循環器小児・成人先天性心疾患科は、日本で初めて設立された循環器小児科として長い歴史と伝統を持ちつつ、常に新しい医療の実践を追求しています。胎児から成人・高齢期まで一貫して心臓病の診療を行う「発達心臓病学」を理念とし、先天性心疾患や小児期発症の不整脈、心筋症など多様な心疾患に対応しています。心臓移植や高度外科治療も含めた包括的な体制のもと、安全かつ最善の医療を提供し、最先端の治療を提供することで、患者さんが安心して暮らせるよう努めます。

先天性心疾患:心房中隔欠損、心室中隔欠損、房室中隔欠損、肺動脈弁狭窄、ファロー四徴症、三尖弁閉鎖、エプスタイン奇形、大動脈弁狭窄、大動脈縮窄、大動脈離断、左心低形成症候群、完全大血管転位、修正大血管転位、両大血管右室起始、大動脈肺動脈共通幹、総肺静脈還流異常、部分肺静脈還流異常、動脈管開存、単心室、単心房、冠動脈起始異常、両大血管左室起始、内臓錯位症候群

不整脈:洞不全症候群、房室ブロック、心房粗動、心房細動、発作性上室性頻拍（房室結節リエントリー性頻拍、WPW症候群、心房頻拍など）、心室性期外収縮、心室頻拍、心室細動、QT延長症候群、Brugada症候群、カテコラミン誘発性多形性心室頻拍（CPVT）

心筋症:肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症、不整脈原性右室心筋症、心筋緻密化障害

検査:心電図、レントゲン、心エコー、ホルター心電図、運動負荷心電図、心臓カテーテル検査、電気生理学的検査、心臓CT、心臓MRIなど

カテーテル治療（心房中隔欠損、動脈管開存、バルーン拡大術、ステント留置、経皮的肺動脈弁置換術など）、心筋症、不整脈外来、ペースメーカー外来、胎児心エコー、成人先天性心疾患、遺伝外来

2023年診療実績
総入院数:450件
経胸壁心エコー（外来・入院）:2,610件
経食道エコー:77件
胎児心エコー:60件
心臓カテーテル検査:311件
（診断カテ:176件、インターベンション件数:85件、肺動脈弁置換術:32件、ASD（心房中隔欠損症）デバイス閉鎖:23件、PDA（動脈管開存症）デバイス閉鎖:8件、アブレーション（不整脈に対する焼灼治療）:50件、ペーシングデバイス植込み:19件（ペースメーカー・ICD等）

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9366**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP

東京女子医科大学循環器小児・成人先天性心疾患科は、日本初の循環器小児科として開設され、長い歴史と豊富な診療実績を有しています。当科は、生まれつきの心臓病を胎児期から成人まで一貫して診療する「発達心臓病学」を実践しており、妊娠・出産や成人への対応も含めた生涯医療を提供しています。先天性心疾患を中心に、不整脈、心筋症などすべての小児心疾患、および成人に達した先天性心疾患を幅広く診療しています。心臓血管外科と連携した外科治療に加え、心不全や小児心臓移植にも対応しています。カテーテルアブレーションなどの不整脈治療や、カテーテル肺動脈弁置換術（TPVI）などのカテーテル治療においては、日本でもトップクラスの症例数と実績を誇ります。紹介をお願いしたい疾患は、心雑音、チアノーゼ、動悸、失神、胎児心疾患、術後フォローアップが必要な小児や先天性心疾患などです。地域の先生方と連携し、最善の医療を提供してまいります。

地域の先生方には、日頃よりご支援を賜り感謝申し上げます。当科は先天性心疾患や小児心疾患を胎児期から成人期まで一貫して診療し、他院では診療困難な不整脈治療、カテーテ治療や心臓移植も行っています。患者さんの紹介・ご相談を通じて、地域と連携し最良の医療を提供してまいります。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
朝貝 省史	講師	カテーテル治療	月	月
石戸 美妃子	講師	心筋疾患、心不全	月(2.4) 水	水
島田 衣里子	助教	成人先天性、胎児エコー、妊娠	火、水、木	火、水
稲井 慶	診療部長	成人先天性、遺伝外来	木、金	水、木、金
竹内 大二	講師	不整脈、ペースメーカー	土、	木、土
豊原 啓子	准講師	不整脈		木
西村 智美	助教	小児、成人先天性	火	火
原田 元	助教	小児、成人先天性		金



外来担当医表は
こちら▼





診療部長
三浦 健一郎

当科では学校検尿異常、腎炎・ネフローゼ症候群から、水腎症・膀胱尿管逆流などの先天性腎尿路異常、夜尿症、尿細管機能異常症、溶血性尿毒症症候群などの急性腎障害、透析や腎移植を要する末期腎不全まで、すべての小児腎疾患を対象に診療しています。泌尿器科・小児外科・血液浄化療法科などの関連各科との連携体制のもと、症例に応じたスムーズな診療が可能です。小児腎疾患に関することはなんでもお気軽にご相談・ご紹介ください。

検尿異常、先天性腎尿路異常（水腎症、膀胱尿管逆流など）、各種腎炎、ネフローゼ症候群、夜尿症、急性腎障害、慢性腎不全、末期腎不全

腎生検、排尿時膀胱尿道造影、レノグラム、DMSAシンチなどを行っています。

腹膜透析外来

・腎生検	2022年	2023年	2024年
固有腎生検数	9	15	13
移植腎生検数	54	56	53

・透析	2022年	2023年	2024年
腹膜透析（人）	9	15	13
血液透析（人）	急性透析	0	3
	慢性維持透析	3	3

・腎移植の症例数	2022年	2023年	2024年
生体腎移植（人）	10	8	5
献腎移植（人）	8	6	7
計	18	14	12

外来では、学校検尿における検尿異常者への精査、小児泌尿器科グループと連携して先天性腎尿路疾患症例の診断・治療、各種腎炎・ネフローゼ症候群の診断・治療などを行っています。また、保存期慢性腎不全管理、小児外科、泌尿器科などと連携して末期腎不全管理を行っています。小児腎不全診療としては、腹膜透析管理および血液透析管理、生体腎移植管理、献腎移植管理を行っています。

いつも患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。当科は大学病院では唯一「腎臓小児科」を標榜しており、小児腎臓病に精通したスタッフが充実しています。学校検尿で見つかった微少血尿から高度の集中治療を要する腎疾患まで、軽症/重症を問わずいつでもお気軽にご相談・ご紹介ください。初診は毎日受け付けており、電話相談も随時可能です。

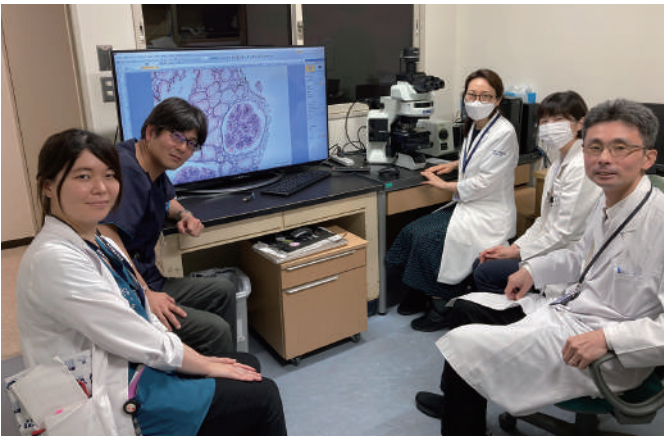
医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9374**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
三浦 健一郎	教授	小児腎疾患全般	火・金・土	
白井 陽子	講師	小児腎疾患全般	木・土・腹膜透析外来（金）	
安藤 太郎	助教	小児腎疾患全般	月（午前、第1月曜日を除く午後）	
中谷 諒	助教	小児腎疾患全般	水・腹膜透析外来（金）	

月曜日から金曜日は14時まで、土曜日は11時まで、上記の担当医が初診も担当しています。



診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

外来担当医表は
こちら▼





診療部長
藤堂 謙一

私たちは脳神経内科の総合医として幅広い脳神経疾患に対応しております。脳神経疾患が疑われる場合は、予約なしでも初診担当医が診療いたしますので、どうぞお気軽にご紹介ください。緊急時には脳神経内科ダイヤルイン（03-6709-9369）までご連絡下さい。日中はもちろん時間外でも当直医が可能な限り対応いたします。また、脳血管障害、神経免疫疾患、パーキンソン病、認知症疾患、末梢神経疾患においては、各分野のエキスパートが診療にあたっており、専門外来も開設しております。総合力と専門性の両輪で、信頼される脳神経内科診療を実践してまいります。

脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作、頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄症、脳動脈解離など）、神経免疫疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、抗MOG抗体関連疾患、重症筋無力症、自己免疫性脳炎・脊髄炎、免疫性ニューロパチーなど）、神経変性疾患（パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、ALS、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症など）、認知症（アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型、血管性認知症、軽度認知障害など）、末梢神経・筋疾患（ギラン・バレー症候群、CIDP、筋炎症候群、ミオパチー、筋ジストロフィーなど）、感染性疾患（脳炎・髄膜炎）その他（てんかん、頭痛、正常圧水頭症、振戦、レストレスレッグス症候群、顔面痙攣、眼瞼痙攣、めまい、しびれなど）

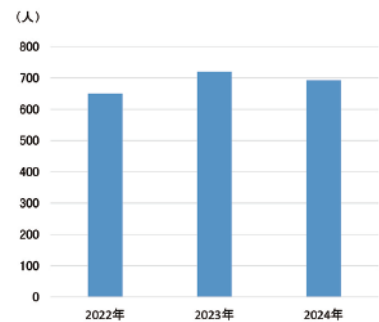
MRI/A、CT/CTA、頸動脈超音波、経頭蓋超音波、心臓超音波（経胸壁・経食道）、下肢静脈超音波、脳血管撮影、脳血流SPECT、ドパミントランスポーターシンチグラフィ、アミロイドPET、神経伝導検査、針筋電図、脳波、認知機能検査、髄液検査、血液・免疫学的検査、神経・筋生検など

脳血管障害（水曜PM、担当医:藤堂謙一）、パーキンソン病（月曜AM、担当医:飯嶋睦）、神経免疫・多発性硬化症（水曜AM、担当医:清水優子）、末梢神経（第2・4週木曜PM、担当医:鈴木美紀）、認知症（第2・4週土曜AM、担当医:吉澤浩志）

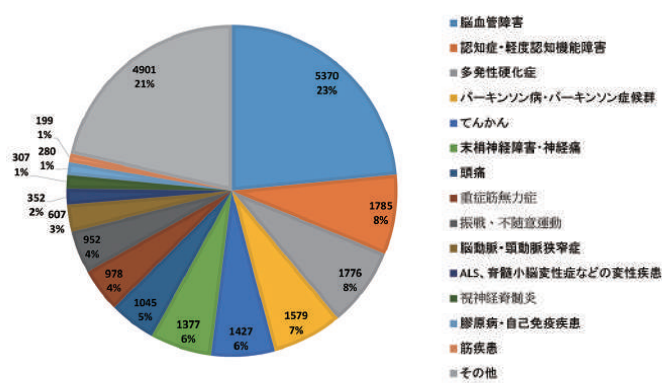
脳神経内科 紹介件数

年度	2022	2023	2024
紹介件数	650	720	692

脳神経内科外来の
紹介初診患者数の推移



脳神経内科外来受診患者の疾患別割合
(2024年、延べ22,935例)



診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

外来担当医表は
こちら▼



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9369**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP



当科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気を対象に、幅広い脳神経疾患の診療を行っています。脳梗塞、多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症、パーキンソン病、認知症、ALS、末梢神経・筋疾患、頭痛など、各分野に精通した専門医が在籍しています。

当院は一次脳卒中センター（PSC）コアに認定され、24時間365日体制で急性期脳梗塞に対するアルテプラゼ（t-PA）静注療法やカテーテルによる血栓回収療法を実施し、急性期治療から再発予防まで、エビデンスに基づいた包括的管理を行っています。認知症診療では、脳血流SPECTやアミロイドPETなどの核医学検査や高次脳機能検査に加え、アルツハイマー型認知症・軽度認知障害に対する抗アミロイドβ抗体薬治療も導入しています。さらに、神経免疫疾患に対しては多発性硬化症や視神経脊髄炎などに対する各種疾患修飾薬や生物学的製剤を用いた最新の免疫療法を提供しています。パーキンソン病にはレボドパ持続腸管注入療法など、薬物療法に加えた高度治療にも対応し、生活の質の維持を目指します。地域の中核病院として、急性期から慢性期、さらに難治性疾患に至るまで切れ目のない診療を実践しています。

ご紹介いただきたい疾患：脳梗塞をはじめとする脳血管障害、多発性硬化症・視神経脊髄炎・重症筋無力症などの神経免疫疾患、パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症、ALS、CIDPなどのニューロパチー、筋疾患、てんかんなど。

当科では、脳・脊髄・末梢神経・筋疾患を対象に、急性期治療から精密検査、最新治療まで包括的な医療を提供しています。診断が難しい症例や治療方針にお悩みのケースも、どうぞお気軽にご紹介ください。地域の先生方と連携し、患者さまにとって最適な診療を共に考え、サポートしてまいります。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
藤堂 謙一	教授	脳血管障害	水PM	月AM・PM、水PM、金AM
飯嶋 睦	教授	パーキンソン病	月AM	月AM、木PM、金AM
清水 優子	教授	神経免疫疾患	水AM	水AM・PM
吉澤 浩志	准教授	認知症	土AM（第2・4週）	土AM（第2・4週）
鈴木 美紀	准講師	末梢神経・筋疾患	木PM（第2・4週）	木PM（第2・4週）

東京女子医科大学腫瘍内科は、がん診療における内科的治療の専門部門として、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供することを使命としております。地域の先生方と緊密に連携し、化学療法や分子標的治療、免疫療法といった薬物療法を中心に、患者さんの生活の質を守りながら治療を進めてまいります。今後も「安心して紹介できる腫瘍内科」として、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。



診療部長
近藤 俊輔

当科では、固形腫瘍全般を幅広く対象として診療を行っております。具体的には、消化器がん（胃がん、大腸がん、肝胆膵がん）、呼吸器がん（肺がん）、乳がん、婦人科がん（卵巣がん、子宮体がんなど）、泌尿器がん、頭頸部がん、肉腫や希少がんなど、多岐にわたる疾患に対応可能です。進行期や再発症例に対して、化学療法、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬を適切に組み合わせた薬物療法を実践しています。

検査としては、治療方針を決定する上で重要な腫瘍マーカー測定、CT・MRI・PET-CT などの画像診断に加え、バイオマーカー検査やがん遺伝子パネル検査を積極的に導入しています。また、遺伝性腫瘍が疑われる場合には遺伝子検査や遺伝カウンセリングを行い、予防・サーベイランスにつなげています。外科・放射線科・病理部門と緊密に連携し、精度の高い診断と治療選択を実現する体制を整えていることが当科の特徴です。

- ・がんゲノム外来（遺伝子パネル検査・遺伝性腫瘍外来と連携）
- ・セカンドオピニオン外来
- ・がん薬物療法外来（外来化学療法センター併設）
- ・新薬開発外来（開設準備中）

- ・年間外来化学療法室件数:10000件以上（外来点滴・皮下投与治療）

年間外来化学療法室件数	10,000件以上	外来点滴・皮下投与治療
-------------	-----------	-------------

診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9387**
地域連携室（直通） **03-5269-7160**



東京女子医科大学腫瘍内科は、がん薬物療法を専門とする診療科として、臓器横断的に幅広い固形腫瘍に対応しております。専門性の高い内科領域として海外では専門分野としては人気の高い学術分野ですが、日本では学部・卒後研修を行える施設が少なく専門医が極めて不足しています。悪性腫瘍に対しては外科治療だけではなく、化学療法・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせた集学的治療が必要となることが多く、高度な医療体制での治療が必要となり大学病院での役割は極めて高まっています。

また、当科ではがんゲノム外来を担当し、遺伝子パネル検査を積極的に活用し、患者さんの腫瘍の分子プロファイルに基づく治療選択（いわゆるプレジジョン・メディシン）を実践しています。遺伝性腫瘍外来とも連携し、家族性腫瘍の診断・サーベイランスにも取り組んでおります。さらに外来化学療法センターを併設しており、多くの患者さんが通院しながら治療を継続できる環境を整備しています。副作用対策や支持療法にも注力し、生活の質を保ちながら安心して治療を受けられる体制が整っていることも当科の強みです。

また、がん専門病院（国立がん研究センターと癌研有明病院）から着任したスタッフが診療・研究・教育に取り組む大学病院として体制を整えつつあります。

当院は、国内で先駆的にペプチド受容体放射線療法（PRRT:商品名ルタテラ）を導入し、神経内分泌腫瘍に対する数多くの症例経験を蓄積しています。近年PRRTは一次治療として推奨され、今後さらなる需要が見込まれる中、当院では治療適応を正確に判断するためにソマトスタチン受容体シンチ（オクトレスキャン）を含む包括的な診療体制を整備しており、全国から紹介患者を受け入れています。

地域の先生方にご紹介いただいた患者さんが、安心して治療を受けられる体制を整えております。標準治療から最新の臨床試験まで専門的な知識を有しています。病状や希望に応じた最適な治療をご提案いたします。治療が安定した段階では、地域の先生方と併進し患者さんのQOLが高まるよう地域での継続診療をお願いしております。確定診断が付いていない状況でも悪性腫瘍の総合医として診断・治療に繋げてまいりますので患者さんのご紹介をお願いいたします。



外来担当医表は
こちら▼



「総合診療」は19番目に基本診療科となった新しい診療科です。

臓器別専門医が深さを特徴とするのに対し、総合診療医は扱う問題の広さと多様性を売りにしています。幅広い疾患に対応しながら専門的な治療が必要と判断された場合には臓器別専門医へと連携し橋渡し役も担っています。

包括的な医療を提供することで患者中心の医療を実践し、患者様自身の医療の問題のみならず、家族や地域背景も考慮することを重視し、保健や福祉の部門とも連携しながら介護や生活の総合的な支援も行っています。

取り扱う主な疾患は肺炎や尿路感染などよくある疾患の管理はもちろん心理、社会的な問題を含む複数の健康問題を抱える患者様の包括的管理も得意としています。

皆様の医療ニーズに合った医療を心掛けつつ、少子高齢化する未来の日本に合致した医療を提供したいと考えています。

また大学病院として重要な使命である教育にも力を入れています。学生や研修医への教育、専攻医の育成にも力を入れ、今後わが国で益々必要とされる地域医療の一旦を担う総合診療医の育成を行っています。

取り扱うおもな疾患は、common diseasesから近医で診断がつかない、または多くの併存疾患のある多臓器に渡るような疾患に罹っていらっしゃる患者さんと、年齢や性別、臓器を問わず診療させていただいております。

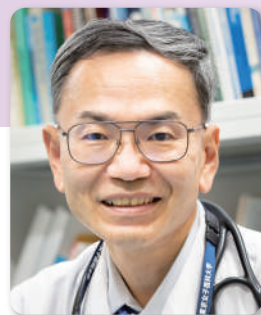
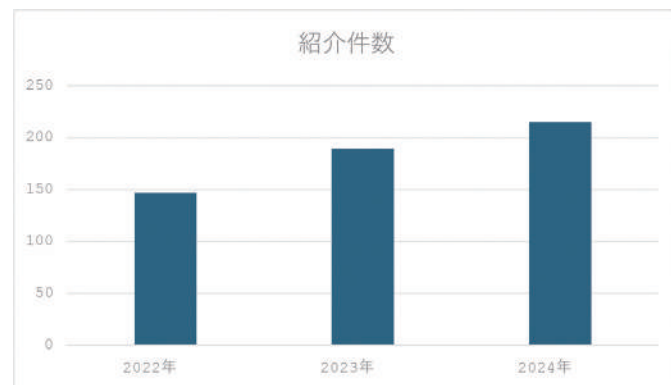
健診異常の精査や生活習慣病の管理やインフルエンザ、COVID-19、かぜ症候群、胃腸炎、脱水症のようなよくある疾患の治療、肺炎、尿路感染、腎盂腎炎、敗血症、蜂窩織炎、化膿性関節炎等の感染症治療等、状態に応じて入院管理でも対応しています。

また診断がついていないが何らかの検査異常や症状がある場合の精査も行っています。不明熱、関節痛、倦怠感、体重減少、浮腫、食欲不振、筋力低下、頭痛、めまい、胸痛、胸やけ、嘔気、失神、全身疼痛等何らかの症状はあるが原因が特定できていない場合などに、各種病態に応じて検査入院も行っています。

どこの科に受診してよいかわからない症状がある場合にも、まず相談する場として受診の受け入れも行っています。

英語での診療も行っています。
米国医師免許を持ち、米国での診療経験のある医師が総合的に対応いたします。

幅広い内科系の様々な疾患のみならず、その他の診療科疾患を含め、プライマリ・ケアに属するような疾患の外来診療、入院診療を行っています。



診療部長
竹村 洋典

診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9384**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



健診異常からいわゆるcommon diseases、原因不明の発熱や関節痛、倦怠感、むくみ、食欲不振、体重減少、全身疼痛等幅広い症候、疾患に対応しています。

COVID-19、インフルエンザ、かぜ症候群、肺炎、尿路感染、胃腸炎、蜂窩織炎、腎盂腎炎、敗血症、感染性心内膜炎、心不全、失神、急性腎不全、2型糖尿病、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症、甲状腺機能異常、電解質異常、便秘異常、肝機能障害、貧血、横紋筋融解症、不眠等取り扱う分野は消化器、循環器、呼吸器、腎臓、内分泌・代謝、血液、神経、アレルギー・膠原病、感染症と内科の全分野に渡ります。

単一臓器に着目するのではなく全身を包括的に診るのを得意としているため、主病以外に複数の併存疾患がある場合の管理も行っています。

一般的な内科疾患を横断的に診療していますが、専門治療を必要とする場合は大学病院の強みを生かし院内で各科と連携を図り診療にあたっています。

また地域の医療、介護、福祉等多様な医療サービス（在宅医療、高齢者ケア、緩和ケア等）とも連携し包括的ケアを提供できるよう中心的な役割も果たしています。

下記のような方を是非ご紹介下さい。

- ・症状や検査値の異常があるものの診断がつかない症例
- ・複数の併存疾患があり診療科の選定に困る症例
- ・既に診断はついているが入院加療が必要なため自院で管理が難しい症例
- ・自院の施設では実施できない検査のご希望がある場合

原因不明で診断がつかない症例の精査、加療目的から既に肺炎は尿路感染、脱水等の診断はついていますが入院加療が必要な患者様等幅広く対応しています。

地域の医療機関からご紹介頂いた患者様を当院で専門的な検査や治療を行い状態が安定するまで責任を持って診療にあたります。安定しましたら再びかかりつけの先生の方へ逆紹介を行っています。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
竹村 洋典	教授	総合診療	月・水	
八岡 利昌	准教授	総合診療、外科	月・火・金	
小倉 真梨絵	助教	総合診療、内科	水・木	
米澤 祐哉	専攻医	総合診療		
米澤 保乃加	専攻医	総合診療		
小川 昌平	専攻医	総合神慮		
非常勤の各医師	非常勤医師・講師	総合診療など		



外来担当医表は
こちら▼

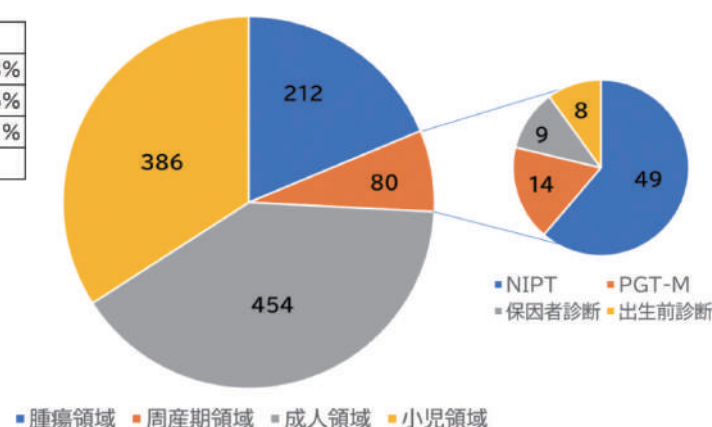


ゲノム診療科ではゲノム解析による診断を行うことが主な業務となりますが、それに付随するゲノムに関連する疾患や悩みを対象とした診療や遺伝カウンセリングの提供もまた重要なミッションとしてあります。がんゲノムで明らかになる遺伝性腫瘍の掘り起こしも重要な任務です。新型出生前診断(NIPT)の認証施設として登録されており、実施施設の少ない着床前診断も産婦人科と協力して実施しています。ゲノム解析技術の進歩は著しく、今や個人の全てのゲノム配列を解析することも難しいことではなくなりました。研究で行う未診断疾患イニシアチブ(IRUD)では全国37の拠点病院の1つであり、診療として認められている難病ゲノムにおいては全国で21施設しか認められていない承認施設です。

神経・筋疾患〔脊髄性筋萎縮症(SMA)/球脊髄性筋萎縮症(SBMA)/ハンチントン病/脊髄小脳変性症(SCA)/大脳白質変性症/ペリツェウス・メルツバッハ病/デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)/ベッカー型筋ジストロフィー(BMD)/福山型筋ジストロフィー(FCMD)/筋強直性ジストロフィー(DM1)/神経線維腫症I型(NF1)・II型(NF2)〕、てんかん、水頭症、神経発達症、自閉スペクトラム症、知的能力障害(知的障害)、循環器疾患〔マルファン症候群/遺伝性不整脈(QT延長症候群)/心筋症〕、染色体疾患〔ダウン症候群/5pモノソミー/4pモノソミー/22q11.2欠失症候群/1p36欠失症候群/パリスター・キリアン症候群(Pallister-Killian症候群)/クラインフェルター症候群(Klinefelter症候群)/ターナー症候群(Turner症候群)〕、先天異常症候群〔ブラダーウィリー症候群/ウィリアムス症候群/カブキ症候群/コルネリア・デランゲ症候群/ソトス症候群/ヌーナン症候群/コステロ症候群/CFC症候群/脆弱X症候群〕、Dysmorphology診断、周産期・高年妊娠、NIPTなど出生前診断(非侵襲的出生前遺伝学的検査、トリプルマーカー検査、羊水検査)、がんゲノム、コンパニオン診断(BRCA1/2:乳がん・卵巣がん・前立腺がん・すい臓がん、MSI検査)、遺伝性腫瘍(HBOC(遺伝性乳がん・卵巣がん症候群)/リンチ症候群/多発性内分泌腫瘍症(MEN1、MEN2)/家族性大腸ポリポーシス(FAP)/網膜芽細胞腫(RB)〕、代謝性疾患〔ミトコンドリア異常症/若年発症糖尿病(MODY)/成人Fabry病/脂肪萎縮症/インスリン受容体異常症〕、血液疾患〔先天性溶血性貧血/サラセミア/遺伝性球状赤血球症などの赤血球膜異常症/赤血球酵素異常症/不安定ヘモグロビン症/ダイヤモンド・ブラックファン貧血/先天性赤血球形成異常性貧血(CDA)〕、視聴覚器〔難聴、色覚特性など〕、その他〔近親婚(いとこ婚)など〕

IRUD/難病ゲノム外来、成人ダウン症外来、遺伝性腫瘍外来、出生前診断外来(NIPT含む)、着床前診断(PGT-M)外来、神経筋疾患外来、神経皮膚症候群外来

2024年度初診再診内訳		
	件数	割合
初診	444	28.3%
再診	1123	71.6%
初再診	2	0.1%
合計	1569	



診療部長
山本 俊至

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼



連携担当医師の直通番号 **03-5269-7509**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



診療科HP



ゲノム診療科

遺伝性疾患の診断:マイクロアレイ染色体検査をはじめとする保険診療として認められている全ての遺伝学的検査に留まらず、希望により保険診療外の遺伝学的検査も自費診療として実施しています。疾患の適用によって難病ゲノムパネル検査を実施し、それでも診断が付かない場合は未診断疾患イニシアチブ(IRUD)として研究解析を行います。

外部からの受託:脊髄性筋萎縮症(SMA)、Duchenne型筋ジストロフィー症については病院間契約により、保険診療の一環で検査を受け入れています。SMAは新生児スクリーニングで陽性であった場合、迅速な確定診断に対応しています。

出生前・着床前診断:認証施設としてNIPTを実施しています。Duchenne型筋ジストロフィーや筋強直性ジストロフィー症等の重篤な疾患に対する出生前診断の相談が可能です。また、それらに関して、体外受精を前提とした着床前診断(PGT-M)の相談も可能です。

成人ダウン症外来:ダウン症候群を持つ方は、成人期以降急激に日常生活に支障をきたすようになることがあり、そのような場合の特別な対応に応じています。

遺伝性疾患が疑われるにも関わらず診断がついていないような場合、ご遠慮なくご紹介下さい。NIPTを含め、出生前・着床前診断にも迅速に対応します。ダウン症候群を持つ方で成人期以降の診療に困難を伴う場合、当科にご相談下さいますと幸いです。

若手医師へ 遺伝医学に興味を持つ若手医師が臨床遺伝専門医を取得するための研修を受け入れています。ゲノム研究で学位取得を考えておられる方もご遠慮なくご相談下さい。

医師名	職位	専門領域	外来診療日	
			初診	再診
山本 俊至	教授・診療部長	臨床遺伝全般	月・水・木・金・土	月・水・木・金・土
近藤 俊輔	教授(兼任)	がんゲノム	不定期	不定期
菅野 仁	特任教授(兼任)	遺伝性血液疾患	木	木
岩崎 直子	特任教授(兼任)	遺伝性糖尿病	土	土
水足 邦雄	准教授(兼任)	難聴	来定期木・金・土	来定期木・金・土
加藤 環	講師	臨床遺伝全般		
秋澤 叔香	講師(兼任)	婦人科疾患	不定期	不定期
山内 あけみ	非常勤講師	臨床遺伝全般	木	木
松尾 真理	非常勤講師	臨床遺伝全般	木	木
伊藤 万由里	非常勤講師	臨床遺伝全般	木	木
荒川 玲子	非常勤講師	筋疾患	火・木	火・木



診療部長
高木 敏男

東京女子医科大学泌尿器科は、腎移植・腎腫瘍をはじめとする腎泌尿器疾患の先端治療拠点として、国内トップクラスの実績を誇り質の高い医療の提供を継続していると自負しております。

『患者中心・根拠に基づく医療』を理念に、移植部門、腫瘍部門、女性泌尿器・排尿部門が緊密に協働し、低侵襲かつ機能温存を重視した最適な医療を迅速に提供致します。

また当院には多くの医局員が在籍しているため、地域の先生方からのご依頼に対して、迅速かつ適切に対応することができます。いつでも安心してご紹介いただける体制を整えておりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

腎不全・腎移植（生体・献腎）、腎臓癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍、尿路結石、前立腺肥大症、過活動膀胱、排尿障害、女性骨盤底機能障害（骨盤臓器脱・尿失禁）、神経因性膀胱、血尿、慢性骨盤痛症候群、性機能障害など

腹部超音波検査、膀胱鏡、経直腸・経会陰前立腺生検、MRI、CT、PET-CT、尿流動態検査、ウロフロメトリー、残尿検査、尿細胞診、腎生検、腎シンチグラフィ

- ・腎移植外来
- ・腎がん外来
- ・前立腺腫瘍外来
- ・女性骨盤底・排尿機能外来

- ・2024年度 ロボット補助下腎部分切除術 265例（国内最多）
- ・2024年度 腎移植術 133例（国内最多）
- ・2024年度 ロボット補助下手術総数 424例（国内最多）

手術	2024年	2023年	2022年	2021年
ロボット補助下腎部分切除	265	264	286	271
ロボット手術総数	424	450	366	344
腎移植	133	129	128	145

当科は腫瘍部門、腎移植部門、女性泌尿器部門の専門外来を軸として診療を行っております。特に腫瘍部門における、ロボット支援下腎部分切除術数と腎移植部門における腎移植件数は全国1位の件数を誇り、安全・安定した医療の提供を維持していると自負しております。また2023年度からは女性泌尿器部門にも力を入れ、骨盤臓器脱の手術であるロボット補助下仙骨子宮靱帯固定術も開始しております。国内No1のロボット手術センター病院としての役割を果たして参りたいと考えております。

腎癌：全国一の手術症例数で、経験豊富な医師による診療を受けられます。分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を中心とした薬物療法も全国トップレベルの経験数です。

前立腺癌：当院では2006年に前立腺腫瘍センターを設立しました。前立腺癌治療に関して泌尿器科と放射線腫瘍科で週1回、合同カンファレンスを開催し、一人一人の患者さんそれぞれに推奨される治療方針を検討します

腎盂癌、尿管癌：従来の手術療法から一歩踏み出して、患者さんの予後改善のためによりよい手術を心がけています。

膀胱癌：さまざまなステージの膀胱癌に対し、最適な治療を提供するよう心がけています。術前から手術、術後の治療や経過観察まで、関連病院と連携しながら治療を行います。

腎移植：全国トップの手術症例であり、全国からハイリスク症例や希少原疾患症例などにも対応しております。最近10年間に移植を受けた方に限れば、5年生着率は95%以上になっています。

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9373**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



いつも格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。
当科は腎移植やロボット手術が必要な患者様はもちろんのこと、それ以外の泌尿器科疾患全般にも適切かつ迅速に対応させていただきます。
同じ症状や疾患の患者様でも、患者様一人ひとりに合わせて検査、治療方針を決定させていただきますので、安心してご相談頂けますと幸いです。
また検査のみの依頼や術後フォロー逆紹介等も柔軟に承りますので、お気軽にご相談ください。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
高木 敏男	教授・ 基幹分野長	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、鏡視下手術、腎移植、透析医療、腎不全医療	金 (2, 3, 4, 5週)	水 (AM/PM) 金 PM
石田 英樹	教授	腎臓移植、移植免疫、腎不全外科、移植外科学		月 AM 木 (AM/PM)
飯塚 淳平	准教授	泌尿器悪性腫瘍、前立腺癌、泌尿器内視鏡手術、ロボット支援手術、一般泌尿器、腎不全治療		火 (AM/PM) 金 (AM/PM)
平井 敏仁	准教授	一般泌尿器、腎不全、腎移植、移植免疫		月 PM 木 PM
吉田 一彦	准教授	泌尿器悪性腫瘍、一般泌尿器科学、ロボット支援手術、鏡視下手術、腎不全治療、透析医療	水	月 (AM/PM) 水 PM
沢田 勇吾	講師	ウロギネコロジー（骨盤臓器脱、女性尿失禁、女性排尿障害）、鏡視下手術	水 (排尿機能専門)	月 AM 水 PM
中山 貴之	助教	泌尿器悪性腫瘍、一般泌尿器科学、ロボット支援手術	木・金	
福田 洋典	助教	泌尿器悪性腫瘍、腫瘍免疫学、ロボット支援手術、鏡視下手術	月	月 PM 水 AM
小針 悠希	助教	泌尿器悪性腫瘍、一般泌尿器科学、ロボット支援手術、鏡視下手術	火	火 PM 金 AM
森山 郁美	助教	一般泌尿器、排尿障害、女性泌尿器（骨盤臓器脱、女性尿失禁、女性排尿障害）	火 (排尿機能専門)	火 (AM/PM) 木 PM (1,3週)



外来担当医表は
こちら▼





診療部長
川俣 貴一

東京女子医科大学脳神経外科は、国内有数の症例数と高度な専門性を有し、脳腫瘍、脳血管障害、脳血管内治療、機能神経外科、小児脳神経外科、脊髄・脊椎外科、ガンマナイフ治療まで、あらゆる分野に高いレベルで対応できる体制を整えております。悪性腫瘍や希少疾患にも、手術・放射線・薬物療法を組み合わせた最適な治療を提供し、術中MRIやナビゲーション、術中モニタリング、神経内視鏡などの最新技術を積極的に導入しています。また、救急対応からリハビリまで一貫した医療を重視し、地域の先生方との緊密な連携のもと、安全かつ質の高い診療をお届けいたします。今後も患者さんお一人お一人に最善の医療を提供し、脳神経外科医療の発展に貢献して参ります。

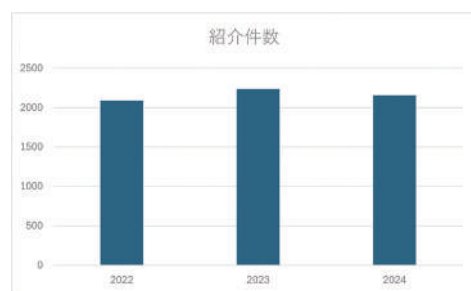
- ・脳血管障害:脳動脈瘤、もやもや病（成人・小児）、閉塞性脳血管障害、頸動脈狭窄症、脳動静脈奇形（成人・小児）、硬膜動静脈瘻、など。
- ・脳腫瘍（成人・小児）:髄膜腫、神経膠腫（グリオーマ）、下垂体腫瘍、聴神経腫瘍、髄芽腫、胚細胞腫、上衣腫、胎児性腫瘍、など。
- ・機能疾患:三叉神経痛・顔面けいれん、本態性振戦、ジストニア、痙攣、神経障害性疼痛、てんかん、など。
- ・先天性奇形:頭蓋縫合早期癒合症、二分脊椎、脳瘤・頭瘤、水頭症、など。
- ・外傷

CT, CT-Perfusion, SPECT, MRI, MRS, FDG-PET, ¹¹CメチオニンPET、バイブレーション血管撮影装置

- ・脳腫瘍外来
- ・頭蓋変形外来
- ・ガンマナイフ外来

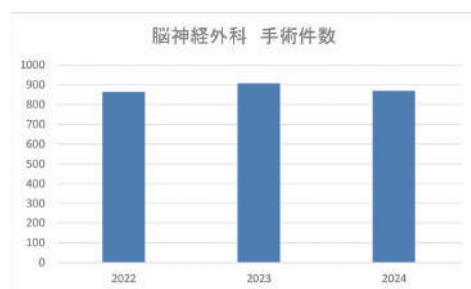
脳神経外科 紹介件数

年度	2022	2023	2024
紹介件数	2088	2235	2156



脳神経外科 手術件数

年度	2022	2023	2024
紹介件数	865	908	870



診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

外来担当医表は

[こちら](#)▼



連携担当医師の直通番号

地域連携室(直通)

03-6709-9370

03-5269-7160



診療科HP



東京女子医科大学脳神経外科は、国内有数の症例数と高度な専門性を誇り、脳腫瘍、脳血管障害、脳血管内治療、機能的脳神経外科、小児脳神経外科、脊髄・脊椎外科など幅広い領域を網羅しています。特に、悪性脳腫瘍や希少疾患に対する集学的治療を強みとし、外科的手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた最適な治療戦略を提供しています。さらに、血管内治療、ナビゲーションシステム、術中MRI、ハイブリッド手術室(Hyper SCOT M)、血管内治療用ハイブリッド手術室(Hyper SCOT A) ガンマナイフ・アイコンなどの先端技術を積極的に導入し、安全かつ低侵襲な手術を実現しています。

小児症例や機能外科分野においても国内トップクラスの実績を有し、定位凝固術や深部脳刺激療法など、生活の質(QOL)向上を目指した治療にも注力しています。また、救命救急センターや神経内科との連携による急性期対応や、リハビリテーション科との協働による神経機能回復支援にも力を注いでいます。

研究面では、豊富な臨床データと基礎研究成果を活用し、新たな治療法や診断法の開発に取り組むとともに、国内外の学会発表や共同研究を通じて、脳神経外科医療の発展に貢献しています。

東京女子医科大学脳神経外科では、脳腫瘍、脳血管障害、脳血管内治療、機能的脳神経外科、小児脳神経外科、脊髄・脊椎疾患など、幅広い分野において高度かつ先進的な医療を提供しています。地域の医療機関の先生方との連携を大切にし、緊急症例にも迅速に対応できる体制を整えております。常時医師が在院しておりますので、診療において当科がお力になれることがございましたら、どうぞお気軽にご紹介ください。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日
川俣 貴一	教授・ 基幹分野長	頭蓋底腫瘍（髄膜腫・下垂体腫瘍・神経鞘腫など）、脳血管障害	月・金
林 基弘	教授・ 定位放射線 治療部門長	ガンマナイフ治療（頭蓋底腫瘍・脳動静脈奇形・三叉神経痛など）	月 午後（特別診察・ セカンドオピニオン など）、水 午後
学会委員会：日本定位放射線治療学会世話人・国際定位放射線治療学会元理事			
藍原 康雄	准教授	小児脳神経外科、新生児・乳児頭蓋変形、神経内視鏡	頭蓋変形外来（火・木）
天野 耕作	講師	下垂体腫瘍、前頭蓋底腫瘍、神経内視鏡手術	金
山口 浩司	講師	脳血管障害、もやもや病、顔面けいれん・三叉神経痛	金 午後、土 午前 （第3土を除く）
石川 達也	講師	脳血管内治療、脳血管障害、もやもや病、顔面けいれん・三叉神経痛	月（午前・午後）
学会委員：日本脳神経外科学会 代議員、日本脳神経血管内治療学会 代議員 日本脳卒中学会 代議員、脳卒中の外科学会 代議員			
堀場 綾子	助教	ガンマナイフ治療（脳腫瘍・脳血管障害など）	月・水・（木）
船津 堯之	助教	脳血管内治療、脳血管障害、もやもや病、顔面けいれん・三叉神経痛	金（第1,3,5週）
江口 盛一郎	助教	頭蓋底腫瘍（髄膜腫・下垂体腫瘍・神経鞘腫など）、神経内視鏡	金
堀澤 士朗	助教	機能的脳神経外科	水・木・土
千葉 謙太郎	助教	小児脳神経外科、新生児・乳児頭蓋変形、神経内視鏡	頭蓋変形外来（火・木）、外来（木・土）
大村 佳大	助教	脳血管内治療、脳血管障害（脳動脈瘤、もやもや病、脳動静脈奇形、動静脈瘻など）、三叉神経痛・顔面けいれん	第1 木
小林 達弥	助教	脳腫瘍（グリオーマ）	火
郡山 峻一	助教	脳腫瘍（グリオーマ）	木
清水 篤	助教	脊髄・脊椎疾患、脳血管内治療	火
小田 侑一	助教	下垂体腫瘍、前頭蓋底腫瘍、神経内視鏡手術	
岡 美栄子	助教	ガンマナイフ治療（脳腫瘍特に悪性腫瘍（成人・小児）、脳血管障害など）	月 午後、火 午前・午後、 水 午前・午後、土 午前
丹羽 章浩	助教	脳血管内治療、脳血管障害	第1 土
森田 修平	助教	頭蓋底腫瘍（髄膜腫・下垂体腫瘍・神経鞘腫など）、脊髄・脊椎疾患、顔面痙攣、三叉神経痛	月
金 吉秀	助教	機能的脳神経外科	



診療部長
岡崎 賢

平素より近隣の先生方には、当科へ多くの患者様をご紹介いただき、心より感謝申し上げます。

当科では、患者様一人ひとりの症状に応じた最適な治療を提供することを大切にしております。

膝・股・足関節、脊椎、手の外科、骨代謝、腫瘍、リウマチの各専門分野において、エキスパートが連携し、保存療法から先進的な外科治療まで幅広く対応いたします。

私たちは常に患者様の痛みや機能障害に真摯に向き合い、QOL向上を第一に考えた医療を実践しております。また、自家組織を犠牲にしない前十字靱帯再建術の臨床治験など、医学の進歩にも積極的に取り組んでおります。

今後なおいっそう、先生方との信頼関係を大切にし、皆様にとって最良の医療を提供してまいります。

変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性足関節症、半月板損傷、前十字靱帯損傷、肩関節周囲炎、手根管症候群、ばね指、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、腰椎すべり症、頸椎症性脊髄症、側弯症、骨粗鬆症、関節リウマチ、痛風、外反母趾、アキレス腱断裂、骨折・脱臼などの外傷、骨軟部腫瘍、スポーツ障害、小児整形外科疾患

3テスラMRI検査、CT検査、3D-CT術前計画、骨密度測定（DXA法）、関節エコー検査、脊髄造影検査、神経伝導速度検査、筋電図検査、関節液検査、骨シンチグラフィ

・膝関節外来、脊椎・脊髄外来、手の外科・肘関節外来、スポーツ整形外科、足の外科外来、股関節外来、骨軟部腫瘍外来、骨代謝外来、肩関節外来

各専門外来では、それぞれの分野に精通した専門医が最新の知識と技術を駆使して診療にあたります。複雑な症例についても、専門外来での詳細な診察により適切な治療方針を提案いたします。

変形性膝関節症・膝骨壊死に対する主要膝手術の年次推移

術式	2022年	2023年	2024年	推移傾向
膝周囲骨切り術（AKO）	76	81	106	39%増
人工膝関節全置換術（TKA）	118	132	135	14%増
人工膝関節部分置換術（PKA）	25	29	46	84%増
人工膝計	143	161	181	27%増

関節温存治療の大幅推進：AKO（骨切り術）が2024年に106件となり、2022年比39%増と大幅増加。人工関節に頼らない治療選択肢を積極的に提供

低侵襲治療への移行加速：PKA（部分置換）の割合が18%→25%に向上。患者負担軽減と早期回復を重視

脊椎手術の年次推移

術式	2022年	2023年	2024年	推移傾向	2025年6月まで
脊椎内視鏡手術（2024年4月よりUBE導入）	12	27	45	275%増	41
その他脊椎手術（腰椎前後方固定術、頸椎手術など）	61	82	87	43%増	23
脊椎手術計	73	109	132	81%増	74

低侵襲脊椎手術の推進：2024年4月よりUBE（脊椎内視鏡手術）を導入し、より患者負担の少ない治療を実現。術中CTナビゲーション併用で安全性も向上。

脊椎固定術の成績向上：全脊椎固定術患者に術前骨粗鬆症評価を実施し、骨癒合促進とインプラント関連合併症の予防に取り組み。

足部足関節障害に対する手術件数の推移

術式	2022年	2023年	2024年
人工足関節置換術（TAA）	21	24	20
中後足部固定術	14	15	14
足趾形成術	107	132	127

専門性の高い足部手術：人工足関節置換術、中後足部固定術、足趾形成術において豊富な手術経験を有し、安定した治療実績を維持。

診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9354**
地域連携室（直通） **03-5269-7160**



当科では膝・股・足関節、脊椎、手の外科、骨代謝、腫瘍、リウマチなど各専門分野のエキスパートが連携し、保存療法から外科治療まで包括的に対応しています。膝関節では半月板修復と骨切り術の併用から人工関節置換術（ロボット・Augmented realityナビゲーション使用）まで、股関節では大腿骨頭壊死症・股関節症に対する人工関節置換術、足関節では人工足関節置換術、脊椎では内視鏡手術、関節鏡視下手術など幅広い治療を提供しています。骨粗鬆症治療では新規治療薬に関する臨床研究論文を国内で先駆けて公表し、骨軟部腫瘍では原発性・転移性腫瘍の正確な診断と適切な治療を行っています。リウマチセンターとの連携により、関節リウマチによる足趾・手指変形に対する形成術や人工指関節置換術も多数経験しています。

《先進的取り組み》 膝前十字靱帯損傷:全世界の膝関節外科/スポーツ医学の悲願であった自家組織を犠牲にしない組織再生型靱帯を用いた前十字靱帯再建術（臨床治験進行中）

特にご紹介いただきたい症例 保存療法で改善しない関節痛（膝・股・足関節）、手術適応の検討が必要な脊椎疾患、スポーツ外傷後の機能回復が思わしくない症例、骨粗鬆症性骨折の予防的治療が必要な症例、骨軟部腫瘍が疑われる症例、関節リウマチによる関節変形の進行例など、幅広い運動器疾患に対応いたします。特に膝関節症では、進行度に関わらず関節温存から人工関節まで最適な治療選択肢をご提案いたしますので、お気軽にご紹介ください。

日頃より当科へ多くの患者様をご紹介いただき、心より感謝申し上げます。ご紹介いただいた患者様には、迅速かつ丁寧な診療を心がけ、治療方針のご報告とともに責任を持って逆紹介させていただきます。術後のリハビリテーションや継続的な管理につきましても、近隣の先生方との連携を重視しております。近隣の先生方にとってご紹介しやすい大学病院となれるよう、スタッフ一同心がけてまいります。

膝関節外来	
岡崎主任教授	月曜PM（12時開始）、 金曜AM・PM
伊藤匡史講師	月曜AM・PM、木曜AM・PM
桑島講師	月曜AM・PM、金曜AM・PM
伊藤淳哉助教	火曜AM
大谷助教	火曜AM・PM、 土曜AM（第2・5週）

脊椎・脊髄外来	
水谷教授	水曜AM（第1・3週）
土肥講師	月曜AM・PM（第1,3,5週）、 水曜AM・PM
井上助教	月曜AM・PM（第2,4週）、 金曜AM・PM
菅谷助教	火曜AM（第1,3,5週）、 水曜AM・PM
長谷山助教	月曜AM・PM（第1,3,5週）、 火曜AM・PM
柴	土曜AM（第4週）

手の外科・肘関節外来	
岩倉講師	火曜AM・PM（第1・3・5週）
肥沼助教	月曜AM、土曜AM
秋元助教	火曜AM、土曜AM（第1,4週）
王	水曜PM（第1週）

スポーツ整形外科	
小田助教	水曜AM（第2・4週）、 木曜AM・PM

足の外科外来	
猪狩教授	火曜AM・PM、金曜AM・PM
矢野准教授	水曜AM・PM、金曜AM
富永講師	水曜AM・PM、金曜AM・PM
古閑助教	火曜AM（第2,4週）、 金曜AM（第1・3週）
吉本	金曜AM・PM（第4週）

股関節外来	
倉光助教	火曜AM・PM、 水曜AM（第1・3・5週）
伊藤淳哉助教	月曜AM・PM（第2・4週）
宗像	火曜AM（第4週）、 水曜PM（第2週）

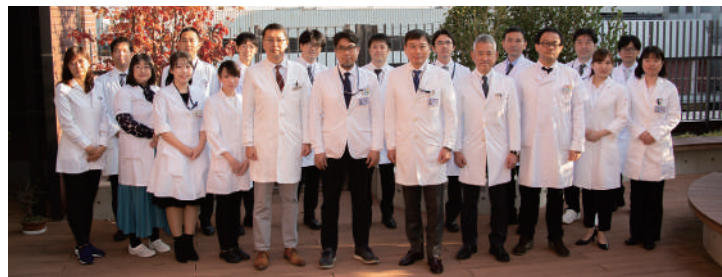
骨軟部腫瘍外来	
菅谷助教	火曜AM（第1,3,5週）、 水曜AM・PM

骨代謝外来	
富永講師	水曜AM・PM、金曜AM・PM

肩関節外来	
安井	水曜PM（第4週）

外来担当医表は

[こちら](#)▼



形成外科は体表の変形や機能障害に幅広く対応し、外傷・腫瘍・先天異常から再建外科や美容医療までを一貫して診療します。東京女子医科大学形成外科学教室は、熱傷や重症外傷、マイクロサージャリーを強みとして発展し、レーザー・硬化療法も取り入れ守備範囲を拡げてきました。高齢化に伴う褥瘡や難治性潰瘍、QOLを高める治療にも力を注ぎ、創傷治癒と組織移植の知見を土台に、安全で質の高い医療を提供します。時代の変遷とともに形成外科が扱う疾患も少しずつ変化していますが、オールランドな形成外科学教室としてさらに発展させるためにも、教室員各位がそれぞれの専門領域でさらに邁進しています。



診療部長
櫻井 裕之

診療科の
特色・得意とする
疾患

- きず・やけど・きずあと
 - ・熱傷（やけど）
 - ・顔面外傷
 - ・手指外傷・切断指再接着
 - ・ケロイド・肥厚性瘢痕
 - ・褥瘡・難治性潰瘍
 - ・下肢壊疽
 - 生まれつきの異常
 - ・口唇裂・口蓋裂
 - ・言語治療
 - ・手足の先天異常
 - ・漏斗胸・鳩胸
 - ・母斑・あざ
 - ・血管腫・血管奇形
 - できもの・腫瘍
 - ・皮膚腫瘍
 - ・乳房再建・乳頭乳輪の再建
 - 炎症・変性疾患
 - ・下肢静脈瘤
 - ・爪の異常
 - ・眼瞼下垂
 - ・リンパ浮腫
 - 美容外科
 - ・しみ・いぼ治療
 - ・しわ治療
 - ・たるみ治療
 - ・美容外科手術
- 再建外科
 - ・頭頸部再建
 - ・四肢再建
 - ・難治性潰瘍・褥瘡に対する皮膚再建
 - ・顔面神経麻痺
 - ・熱傷後瘢痕拘縮に対する再建
 - ・乳房再建

- ・下肢静脈瘤外来（火曜、木曜）
 - ・レーザー外来（第1,3週月曜午前、金曜午後）
 - ・口唇口蓋裂外来（第2,4週木曜午前）
 - ・漏斗胸外来（第2,4週水曜午前）
- ・リンパ浮腫外来（木曜）
 - ・スキンケア外来（木曜午後）
 - ・美容外科外来（不定期）
 - ・顔面神経外来（金曜午前）

症例実績件数

区 分	件数
外傷	127
先天異常	61
腫瘍	340
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	29
難治性潰瘍	74
炎症・変性疾患	67
美容（手術）	5
その他	39
レーザー治療	310
合計	1,052

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9355**
地域連携室（直通） **03-5269-7160**



診療科HP

東京女子医科大学形成外科は、体表外科全領域を担うオールラウンドな診療体制と、院内外の専門科と連携した創傷外科を基盤に、顕微鏡下の微小～最小血管吻合を駆使した高難度再建を多数行います。得意分野は、DIEP・PAP Flapなどの自家組織を中心とした乳房再建（3D画像解析で術前シミュレーション）、舌癌等の頭頸部再建、頭蓋骨延長や唇顎口蓋裂治療・顔面骨折の頭蓋顎顔面外科、四肢の救肢・再建（NPWTi-d併用）、リンパ浮腫に対するLVA、眼瞼下垂を含む眼瞼周囲の機能・美容治療、血管腫・母斑・瘢痕に対するレーザー治療まで幅広く網羅。紹介を特にお願したいのは、乳房再建希望例、頭頸部・口腔がん切除後、重症熱傷、術後創離開・感染や難治性潰瘍、四肢開放骨折・骨髄炎、先天異常（頭蓋早期癒合・口唇口蓋裂）、眼瞼下垂・内反など。PRポイントは、東京都の熱傷救急体制を支える拠点性、最新レーザー機器を含む設備、グループ症例約11,117例と指導医21名（2024年）による厚い診療・教育体制、2024年手術実績（外傷127例、先天異常61例、腫瘍340例、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド29例、難治性潰瘍74例、炎症・変性疾患67例、美容（手術）5例、その他39例、レーザー治療310例）。全体の合計は1,052例）、再生医療研究や国際医療支援（ダツカ医科大学との交流）まで一貫した臨床・研究の厚みです。保険・自費のレーザー治療を提供し、広範囲病変は日帰り全身麻酔にも対応しております。生体肝移植の肝動脈吻合など臓器移植領域でもマイクロ手術を担い、3Dカメラや三次元実体モデル等のデジタル技術も積極導入している。

地域医療機関の皆さまと連携し、迅速な相談・紹介に丁寧に対応します。皮膚科や形成外科のクリニックで対応困難な手術が必要そうな皮膚皮下腫瘍、軟部腫瘍、再建が必要な皮膚悪性腫瘍、入院加療が必要な熱傷、熱傷後瘢痕拘縮、神経や腱の損傷、指の切断などは是非当院当科へご紹介ください。下肢静脈瘤やレーザー治療の適応となりそうな色素性病変（血管腫、あざ、母斑など）の患者などもご紹介くださ

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再診
櫻井 裕之	教授	熱傷、再建外科、遊離皮弁、乳房再建	火・金・土（第1）	
松峯 元	准教授	乳房再建、頭頸部再建、顔面神経麻痺	木・土（第2）	
新美 陽介	准教授	眼瞼下垂、顔面神経麻痺、熱傷	月・土（第4）	
長谷川 祐基	講師	小児形成外科一般、頭蓋顎顔面外科、口唇口蓋裂		
長 渚	助教	形成外科一般、レーザー治療		火
本間 健人	助教	形成外科一般、レーザー治療、静脈瘤	水・土（第5）	月

外来担当医表は

こちら▼



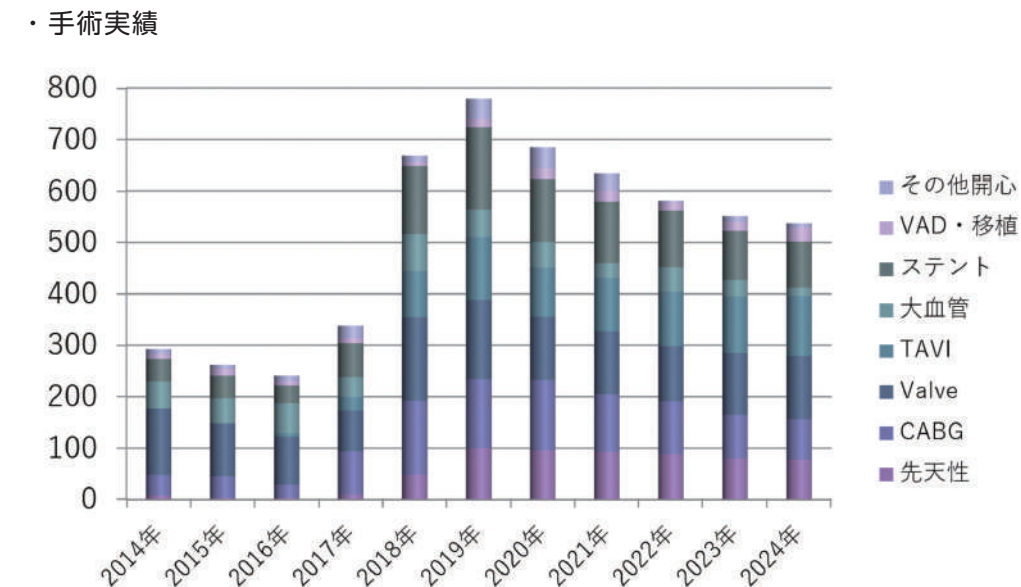


診療部長
新浪 博

当科は、本邦において行いうる心臓血管外科の治療を全て網羅し、専門医が高度な医療を提供しています。成人では冠動脈疾患に対するオフポンプバイパス術、弁膜症に関しては低侵襲心臓手術（MICS）による弁形成・弁置換術および経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）、大動脈疾患に関してはステントグラフト治療を積極的に行っております。当院は心臓移植実施施設であり、重症心不全に対しての植込み型補助人工心臓装着術、心臓移植も積極的に行っています。小児では新生児の手術を含め、成人先天性心疾患の手術を行っております。かつ成人と同様に小児心臓移植実施施設でもあります。豊富な手術経験と充実した設備、専門チームによる連携で、常に高度な医療を提供します。

- ・虚血性心疾患
- ・弁膜症:大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症
- ・大血管（胸部・腹部）:大動脈瘤、大動脈解離
- ・重症心不全(成人/小児):拡張型心筋症、および拡張相肥大型心筋症、虚血性心疾患、その他(心臓移植以外に外科的手術適応がない心臓弁膜症、先天性心疾患、薬剤性心筋障害、心筋炎後、産褥性心筋症、サルコイドーシス、アミロイドーシス、Duchenne型以外の筋ジストロフィー
- ・心臓腫瘍
- ・先天性心疾患
- ・成人先天性心疾患

- ・成人心疾患
- ・移植外来
- ・心不全サポート外来
- ・大動脈ステント
- ・先天性心疾患
- ・VAD・心不全成人心疾患



診療科の 特色・得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	成人心疾患 市原有起 菊地千鶴男 大動脈ステント 東隆	大動脈ステント 道本智 移植外来 布田伸一 先天性心疾患 新川武史	成人心疾患 斎藤聡	成人心疾患 宮本真嘉	成人心疾患 新浪博/ 服部将士 浜崎安純	成人心疾患 東隆 (第2,4,5) VAD・心不全 成人心疾患 西中知博
午後	成人心疾患 市原有起	心不全 サポート外来 服部英敏 菊地規子	成人心疾患 斎藤聡		心不全 サポート外来 斎藤聡 市原有起	



外来担当医表は

こちら▼



連携担当医師の直通番号 **03-6709-9365**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP



安心、安全な医療を心がけ、患者さん一人ひとりに寄り添い、大学病院として横断的がん医療、トータルケア、集学的治療を行なっております。特に肺癌では、早期診断から治療まで、早期癌には低侵襲な手術、進行癌に対しては化学療法、免疫療法まで一貫して対応しております。患者さん、ご家族の意思を尊重し治療方針を決定しております。低侵襲である胸腔鏡手術の経験を活かし、取り組んで参りました呼吸器外科ロボット手術は累計850例となり、繊細・精密なロボット手術で社会貢献したいと考えております。患者さんに先生方のお力になれることがございましたら、いつでもご紹介ください。ご紹介いただいた地域の先生方とともに連携し、継続的に治療を行なう所存です。よろしくお願い致します。



診療部長
神崎 正人

- ・対象疾患: 肺がん、転移性肺腫瘍、肺腫瘍（良性）、縦隔腫瘍、重症筋無力症、気胸、肺嚢胞、膿胸、感染性・炎症性肺疾患、胸膜疾患（良性、悪性胸膜中皮腫など）、胸壁腫瘍、気管内疾患（気管気管支内腫瘍、気管気管支狭窄など）、胸部外傷
- ・手術方式: 2012年より国内でもいち早くロボット支援下胸腔鏡手術を導入致しました。肺葉切除、肺区域切除、縦隔腫瘍摘出等を適応としており、全国でも有数のロボット支援下胸腔鏡手術症例数です。肺癌および転移性肺腫瘍に対しては、大部分の症例をロボット支援下手術を含む低侵襲な胸腔鏡下での手術を施行しております。局所進行病変では拡大手術を必要に応じ選択しています。
- ・特殊検査: 胸腔鏡下生検、気管支鏡検査
気管支鏡検査では、診断だけでなく気管支鏡下治療(気管支異物除去、気管、気管支狭窄に対する気管・気管支ステント挿入術、難治性気胸や喀血に対する気管支充填術、気管腫瘍、瘢痕性狭窄に対するレーザー、APC焼灼術)も行っております。
- ・肺癌に対しては、外科治療を中心に患者さんの病期によって、術前後の化学療法・放射線治療といった集学的治療を当科で行なっております。

ロボット支援下手術外来、気胸・肺嚢胞外来、胸部異常陰影外来を開設しております。

・手術実績	2024年	2023年	2022年
手術症例数	274	260	253
ロボット支援下胸腔鏡手術	115	156	113
肺悪性腫瘍	139	136	135
縦隔腫瘍	22	38	20
気胸・嚢胞性肺疾患	22	25	31

診療科の
特色・得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9382**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



診療科HP

当科では肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、肺嚢胞、膿胸、重症筋無力症、胸膜中皮腫などの呼吸器外科的疾患全般疾患の外科治療を呼吸器内科と連携して行っています。肺がん手術ではおおそ9割を低侵襲な胸腔鏡下に行っており、特に早期肺がんや、転移性肺腫瘍に対し、CTから作成した解剖学的3次元画像を用いた正確な胸腔鏡下区域・亜区域切除を積極的に行うことで、今まで手術困難であった両肺多発症例などに対しても切除範囲を小さくすることで、肺機能を温存した手術が可能となっています。また、心大血管疾患、腎障害、糖尿病、膠原病疾患、間質性肺炎などの合併症を持つ方に対し、根治性を考慮した縮小手術を、局所進行病変では拡大手術を必要に応じ選択しています。上記の合併症の豊富な実績から超高齢の患者さんも安全に手術治療を受けていただける環境を整えております。2012年より、実績のある胸腔鏡下手術に加え、臨床研究として、肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍に対してロボット支援装置(da Vinci Surgical system®)を用いた手術を開始し経験を蓄積して参りました。2018年4月からは肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、重症筋無力症に対して保険診療でロボット支援下手術を行っており、2024年6月からは肺良性疾患に対してもロボット支援下に肺葉切除、肺区域切除が保険適応となっています。当科では国内でも数少ないロボット外科学会専門医(呼吸器領域)が5名在籍し、神崎教授を筆頭にロボット支援下手術の治療を行っております。

呼吸器外科では初診は毎日受付し、時間外も含め随時、迅速に対応しますので、いつでもご紹介ください。紹介状を持参していただければ、必ずしも予約のお電話は必要ありません。ご紹介当日での診察も可能です。救急車の受け入れも積極的に行なっておりますので緊急時は診療科ダイヤルインへご連絡ください。私達が先生方のお力になれることがございましたら、いつでもご紹介ください。また、確定診断後、手術後は紹介していただいた先生方と連携して、継続的に治療を行わせていただきます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
神崎 正人	教授・基幹分野長	肺癌、縦隔腫瘍、ロボット手術、重症筋無力症、膿胸、気胸	月・火・金の9:00～10:30・土 午前、木14:00～16:00、第4水 午前	第4水 午前、土 午前
井坂 珠子	准教授	呼吸器外科全般、気管支鏡治療	金 午前・午後	
光星 翔太	講師	呼吸器外科全般	第1・2・3・5水 午前・午後	
荻原 哲	臨床講師	呼吸器外科全般	火 午前・午後	
松本 卓子	准教授 (統合教育学修センター兼務)	呼吸器外科全般	月 午前・午後	
青島 宏枝	准講師	呼吸器外科全般	木 午前・午後	
西内 正樹	非常勤講師	呼吸器外科全般		土 午前



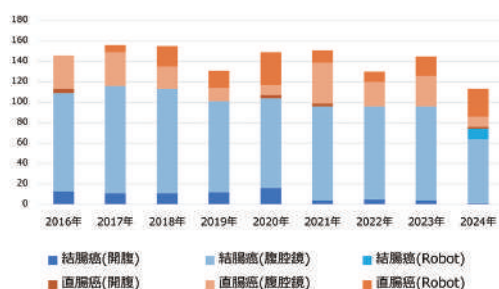
外来担当医表は
こちら▼



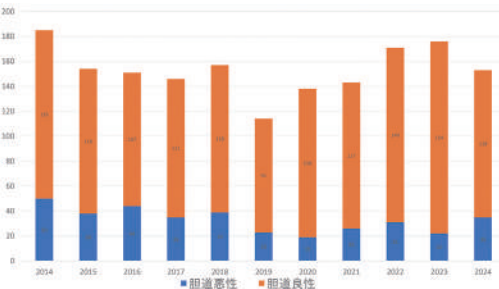
消化器・一般外科は現在消化管外科（教授:山口茂樹）と肝胆膵外科（教授:本田五郎）の2つの診療科に分かれて診療を行っています。消化管外科では、食道癌、胃癌、大腸癌手術の大部分をロボットや腹腔鏡手術で行っています。また、近年増加傾向にある炎症性腸疾患についても消化器内科と協力して専門的治療を行っています。肝胆膵外科は、腹腔鏡下肝切除・膵切除の先進的な専門施設として国際的に認知されるため、患者さんだけでなく国内外から多くの見学医が訪れています。膵癌診療においては、上皮内癌（ステージ0膵癌）の診断・治療から浸潤性膵癌に対する集学的治療まで幅広く先進的な取り組みを行っています。

- 消化管外科:食道癌、胃癌、大腸癌、炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、GIST、神経内分泌腫瘍、大腸憩室炎
- 肝胆膵外科:肝細胞癌、肝内胆管癌、転移性肝癌、肝血管腫、その他の肝腫瘍、肝嚢胞、肝内結石症、肝門部胆管癌、胆嚢癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌、十二指腸癌、膵・胆管合流異常、先天性胆道拡張症、ラバコレによる胆道損傷、胆石症、胆嚢腺筋症、急性胆嚢炎、総胆管結石、膵癌、膵嚢胞（IPMN、MCN、SPN、SCNなど）、膵神経内分泌腫瘍、慢性膵炎、膵石症、脾腫大、脾機能亢進症、脾腫瘍、後腹膜腫瘍、各種ヘルニア

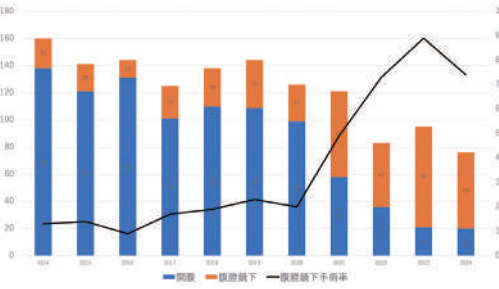
原発大腸癌切除 手術件数



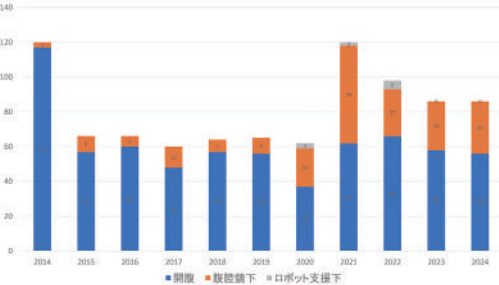
胆道手術数の推移



肝臓手術数と腹腔鏡下手術率の推移



膵臓手術数(脾臓を含む)の推移



診療科の 特色・得意とする疾患

ご紹介 くださる先生方へ

医師専門分野 一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9368**
 地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP



消化管外科では、食道から肛門までのあらゆる疾患の診療を行っており、特にがん治療を中心に取り組んでいます。手術はがん治療の要ですが、早期がんに対しては内視鏡的切除（ESD）を、進行がんには抗がん剤や放射線治療を組み合わせ、個々の症例に応じた治療戦略を構築しています。近年は食道がん、胃がん、大腸がん手術の多くが腹腔鏡やロボット支援下で行われ、低侵襲で回復の早い治療が可能となっています。また、若年発症のみでなく中年層にも増えている炎症性腸疾患についても専門医が内科と密に連携し、腹腔鏡下手術を含む包括的な診療を行っています。

肝胆膵外科では、肝臓、胆道、膵臓、脾臓、十二指腸の疾患に対し、手術に加えて化学療法、放射線療法、塞栓療法、ラジオ波焼灼術などを組み合わせた集学的治療を行っています。診断、術前評価、手術適応の判断、術後管理、緩和ケアまで一貫して関わり、患者さん一人ひとりに合わせた医療を心がけています。手術に関しては腹腔鏡下手術を積極的に施行しており、肝切除や膵切除後も1週間程度で退院可能です。急性胆嚢炎などの救急症例にも広く対応しており、地域医療機関からの紹介を歓迎しています。

消化管外科、肝胆膵外科、ともに黎明期から日本の腹腔鏡手術を先導してきた教授陣で患者さん第一の質の高い手術治療を提供しています。患者さんが安心して治療を受けられること、そして紹介して下さる先生からも安心して任せていただけることをモットーとして、あらゆる消化器疾患に対応いたします。いつでも患者さんをご紹介いただければ幸いです。

初診外来はスタッフが毎日交代で担当しております。

月曜日	本田五郎（教授・肝胆膵外科）、有泉俊一（准教授・肝胆膵外科）、松永雄太郎（助教・肝胆膵外科）、谷公孝（助教・下部消化管外科）、川本裕介（助教・肝胆膵外科）、棚橋亨（助教・肝胆膵外科）、矢川陽介（非常勤医師）
火曜日	山口茂樹（教授・下部消化管外科）、小川真平（准教授・下部消化管外科）、大森亜紀子（助教・化学療法）、腰野蔵人（助教・下部消化管外科）、近藤侑鈴（助教・化学療法）、前田新介（助教・上部消化管外科）
水曜日	大目祐介（講師・肝胆膵外科）、大森亜紀子（助教・化学療法）、近藤侑鈴（助教・化学療法）、前田文（助教・下部消化管外科）、山中良輔（助教・肝胆膵外科）、片桐聡（非常勤医師）、内田数海（非常勤医師）
木曜日	番場嘉子（講師・下部消化管外科）、大森亜紀子（助教・化学療法）、二木了（助教・下部消化管外科）
金曜日	金子由香（助教・下部消化管外科）、伊藤俊一（助教・上部消化管外科）、井上雄志（非常勤医師）、太田正穂（非常勤医師）
土曜日	井上雄志（非常勤医師）、小寺由人（非常勤医師）、高橋豊（非常勤医師）



外来担当医表は
 こちら▼





診療部長
明石 定子

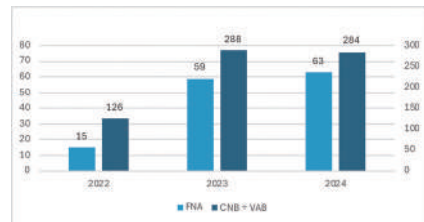
乳癌はただ治すだけでなく、きれいな乳房温存術や乳房再建などの整容性への配慮、化学療法時の頭皮冷却による脱毛予防、挙児希望の場合の妊孕性温存、遺伝性乳癌卵巣癌へのマネージメント、治療選択への多職種で対応するshared decision makingなど多角的なアプローチが必要です。当科では上記全てへの対応に加え、2025年6月からはアピアランスケアの専門家によるアピアランスケア外来も開始し、化学療法時の見た目の変化に関連した悩みにも対応可能となりました。患者さんには益々安心して最先端の治療を納得して受けていただけるようチームで取り組んでいます。

乳癌、葉状腫瘍

マンモグラフィ、乳腺超音波検査、乳房造影MRI、PET/CT
エコーガイド下生検・吸引式組織生検、ステレオガイド下マンモトーム生検
BRCA遺伝学的検査
オンコタイプDX、MammaPrint

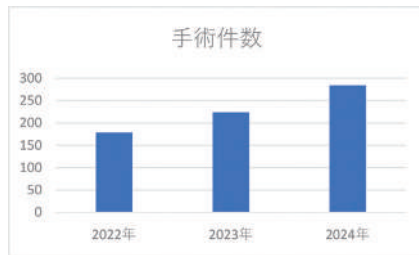
・乳腺外科外来 ・アピアランスケア外来

・乳腺外科生検件数

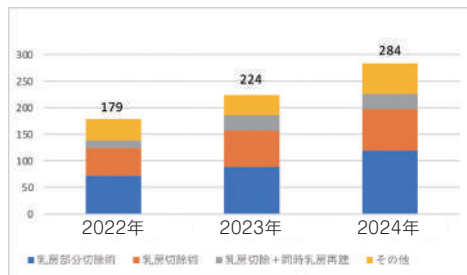


・乳腺外科手術実績

乳腺外科	2022年	2023年	2024年
手術件数	179	224	284



	乳房部分切除術	乳房切除術	乳房切除+同時乳房再建	その他	総手術件数
2022年	71	52	16	40	179
2023年	88	70	28	38	224
2024年	120	77	29	58	284



診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

連携担当医師の直通番号 **03-5269-7515**
地域連携室(直通) **03-5269-7160**



診療科HP



乳癌の治療は日々進化しています。

手術に関しては、乳房温存術の場合は、整容性に配慮した乳房温存術（オンコプラスチックサージャリー）を行っています。また乳房切除術が必要な場合は形成外科と連携をとりながら乳房再建術を、ご希望のある場合には同時（一次一期）自家組織再建も可能です。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群の乳癌患者さんに対しては、ゲノム診療科、婦人科、形成外科との連携のもと、リスク低減のための対側乳房切除術、卵巣卵管切除術を、画像診断学・核医学科との連携でMRIを併用した強化スクリーニングも実施可能です。周術期の化学療法に対しては脱毛予防のための頭皮冷却も行っております。お子さんを希望の方には、婦人科と連携して妊孕性温存のための受精卵凍結、不安の強い患者さんには乳癌看護認定看護師によるサポートなど、患者さんを中心にチームとして安全で信頼される診療を行っています。

非手術を希望される方で腫瘍サイズなどの条件を満たす場合には放射線腫瘍科との連携で重粒子線治療という選択枝も可能な場合があります。

薬の進歩も目覚ましいものがあり、世界最先端の治療を心掛けています。薬による治療が必要な場合も抗がん剤治療、分子標的薬、ホルモン薬、免疫チェックポイント阻害薬など癌の種類に合わせた様々な薬が登場しており、shared decision makingと言って医療者と患者で話し合って治療を選択していくことが大切です。化学療法実施時には頭皮冷却装置により脱毛対策も可能です。

当診療科では、外科手術はもちろんのこと、診断から薬物療法、終末期医療まで、幅広く診療を行っています。形成外科による乳房再建手術や、放射線腫瘍科による放射線治療など、関係各科と協力した集学的治療を行っています。

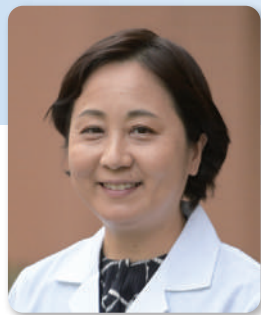
病診連携にも力を入れており、内分泌療法の継続処方など、地域の先生方と協力して乳癌診療に取り組んでいます。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	乳腺外来 塚田 弘子 (助教)	乳腺外来 明石 定子 (教授・基幹分野長) 中川 彩 (助教) 清水 由実 (助教)	乳腺外来 野上 真子 (助教)	乳腺外来 明石 定子 (教授・基幹分野長) 野口 英一郎 (講師) 野上 真子 (助教)	乳腺外来 野口 英一郎 (講師) 青山 圭 (講師) 橋口 浩実 (助教)	
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午後	乳腺外来 塚田 弘子 (助教) 青山 圭 (講師)	乳腺外来 明石 定子 (教授・基幹分野長) 中川 彩 (助教) 清水 由実 (助教)	乳腺外来 塚田 弘子 (助教) 乳腺外来 (女性科) 大幸 和加子 (非常勤講師)	乳腺外来 野口 英一郎 (講師) 青山 圭 (講師)	乳腺外来 野口 英一郎 (講師)	



外来担当医表は
こちら▼





診療副部長
堀内 喜代美

内分泌外科とはホルモンを産生する臓器の腫瘍性病変に対して外科的手術を行う科です。1981年に女子医大に内分泌外科が創立されて以来、甲状腺、副甲状腺、副腎の腫瘍の外科治療を行っています。合併症のある患者様の手術も行うことがあります。大学病院の特徴を生かして、他科との連携により治療を行っています。私たちが最も大切にしているのは、患者様に丁寧な説明をすることにより不安を除き、安全・安心な外科手術（治療）を提供することです。該当する患者様がいましたら、お気軽にご紹介下さい。

- 1 甲状腺

 - ・甲状腺良性腫瘍（腺腫、腺腫様甲状腺腫）
 - ・甲状腺悪性腫瘍（乳頭癌、濾胞癌、髄様癌、未分化癌、リンパ腫）
 - ・機能性疾患（バセドウ病、プラummer病）
- 2 副甲状腺

 - ・原発性副甲状腺機能亢進症（腺腫、癌）
 - ・腎性副甲状腺機能亢進症
 - ・腎移植後副甲状腺機能亢進症
- 3 副腎

 - ・原発性アルドステロン症
 - ・クッシング症候群
 - ・褐色細胞腫
 - ・その他の副腎腫瘍
- 4 多発性内分泌腫瘍症I型、II型

- ・超音波検査

・穿刺吸引細胞診

・針生検

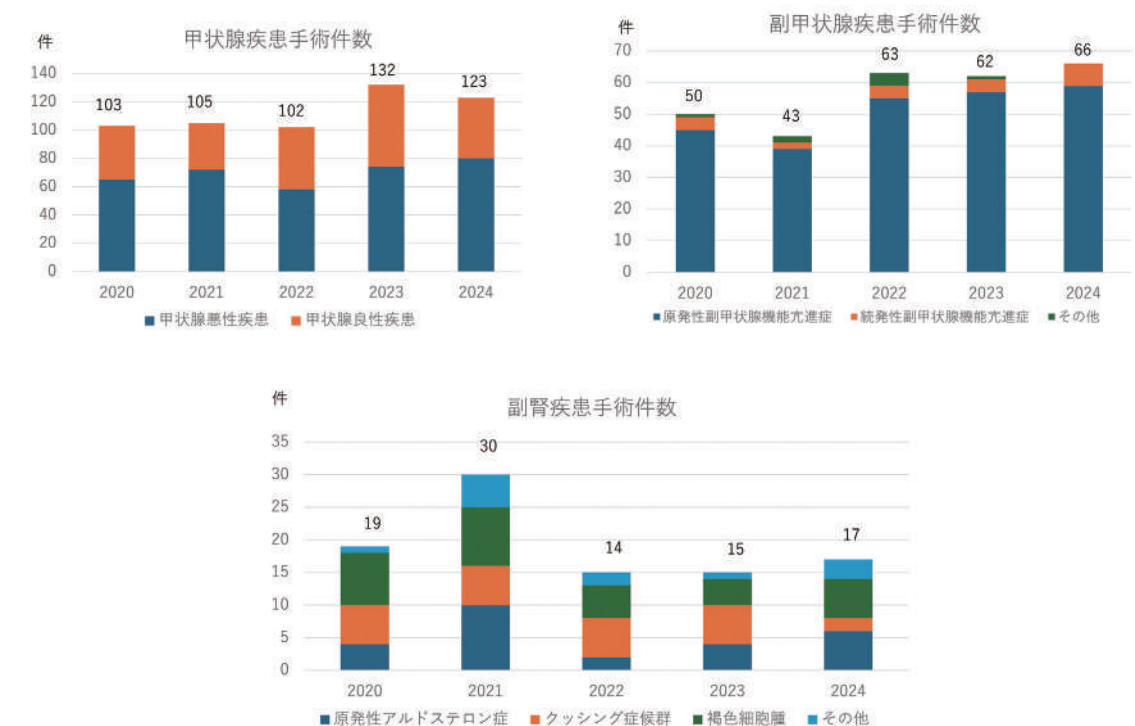
・CT、MRI
- ・シンチグラフィー（99mTcO₄-20分摂取率、Na¹²³Iシンチグラフィー、¹³¹Iシンチグラフィー、MIBIシンチグラフィー、MIBGシンチグラフィー）
- ・PET-CT

・各種ホルモン検査

・負荷試験

・静脈サンプリング

専門外来はありません



診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

医師専門分野 一覧

当科が得意とする疾患と診療内容は以下の通りです：

- ・ **甲状腺疾患**：良性結節・バセドウ病・乳頭癌・濾胞癌・髄様癌などに対し、診断・治療を行います。未分化癌に対しても多診療科と連携し、集学的治療を迅速に開始します。良性結節と一部の乳頭癌に対してはVideo-assisted neck surgery (VANS)を行っています。
- ・ **副甲状腺疾患**：原発性・二次性・三次性機能亢進症に対して、病変部位の精密診断と手術での治癒を目指します。
- ・ **副腎腫瘍**：原発性アルドステロン症・クッシング症候群・褐色細胞腫・副腎癌などに、腹腔鏡での低侵襲手術を提供します。
- ・ **多発性内分泌腫瘍症 (MEN)**：MEN1では副甲状腺の治療を行い、下垂体腫瘍や脳神経内分泌腫瘍に関しては、他科と連携をしながら治療を行っています。MEN2では甲状腺、副腎を当科で一貫して診療・手術対応します。
- ・ **再発・難治性症例**：副甲状腺癌や甲状腺癌の再発への戦略的対応、薬物療法などにも積極的に取り組んでいます。

当科ではご紹介いただいた患者様に対して的確な診断、無駄な検査や過剰治療を避け、安心した治療（外科治療）を心掛けております。最近では健診で超音波検査やCT検査の普及により、甲状腺、副甲状腺（高Ca血症）、副腎の偶発腫瘍が発見されやすくなっています。そのような患者様がいましたら、お気軽に当科へご紹介下さい。

また、当科では積極的に医療連携も行っています。良性の疾患や経過観察の患者様については可能な限り地域の先生方との医療連携を目指しています。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
堀内 喜代美	准教授	内分泌外科	火 午前・午後	
尾身 葉子	講師	内分泌外科	水 午前、木 午前・午後	
吉田 有策	准講師	内分泌外科	月 午前、金 午前・午後	
柳田 充郎	助教	内分泌外科	火 午前・午後	
中居 伴充	助教	内分泌外科	木 午前・午後	
山梨 裕希	助教	内分泌外科	金 午前・午後	



外来担当医表は
こちら▼





診療部長
世川 修

小児外科は出生直後の新生児期から学童期までの頭頸部・呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌臓器・小児腫瘍などの外科的疾患を取り扱っております。当科の特徴として、日本内視鏡外科学会技術認定取得者（小児外科領域）による胸腔鏡、腹腔鏡を用いた小児内視鏡外科診断・治療が上げられます。小児に対する低侵襲で優しい医療として多くの疾患を対象としており、手術症例全体の約30%を占める小児内視鏡外科手術には30年以上の実績があります。先天性食道閉鎖症、先天性胆道拡張症、先天性横隔膜ヘルニア、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腎盂尿管移行部狭窄症などの小児外科を代表する新生児・乳児疾患に対しても、内視鏡外科手術を行っています。

頭頸部疾患

舌小帯短縮症、甲状舌管遺残、梨状窩瘻、耳前瘻孔

胸部・呼吸器疾患

縦隔腫瘍、気胸、肺分画症、先天性肺気道奇形、横隔膜ヘルニア、横隔膜弛緩症、漏斗胸

消化器疾患

食道アカシア、先天性食道閉鎖症、先天性食道狭窄症、食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、胃軸捻転症、先天性十二指腸閉鎖・狭窄症、腸回転異常症、メッケル憩室、臍腸管遺残症、腸重積症、虫垂炎、直腸脱、肛門周囲膿瘍、裂肛、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸閉塞

肝胆脾臓疾患

胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、胆石症、輪状膵、遺伝性球状赤血球症、血小板減少性紫斑病、門脈圧亢進症

泌尿生殖器疾患

副腎腫瘍、水腎症、腎盂尿管移行部狭窄症、膀胱尿管移行部狭窄症、膀胱尿管逆流症、後部尿道弁、包茎、尿道下裂、精索静脈瘤、停留精巣、遊走精巣、精巣捻転、急性陰囊症、卵巣捻転、卵巣腫瘍、新生児卵巣嚢腫、尿管遺残症、総排泄腔症、性分化異常症、陰唇癒合症

その他

鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、白線ヘルニア、リンパ管腫、腹部外傷、腹腔内腫瘍・膿瘍、腹膜透析カテーテル挿入疾患など

当科では専門外来は開設しておりません。火曜日と金曜日の手術日以外に幅広い小児外科疾患に対する外来診療（初診・再診）を行っています。

・小児外科手術実績（直近3年間）

小児外科	2022年	2023年	2024年
手術総数	296	273	238
新生児手術	10	3	4
内視鏡外科手術	80	71	57
小児泌尿器科手術	61	51	48
鼠径ヘルニア	53	38	49
臍ヘルニア	20	17	31
停留精巣	41	63	41
包茎	38	37	29

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は



連携担当医師の直通番号

地域連携室（直通）

03-6709-9353

03-5269-7160



診療科HP



東京女子医科大学病院では小児科、腎臓小児科、循環器小児科、母子総合医療センター新生児科、脳神経外科（小児部門）などの院内小児関連各科との密接な協力体制が構築され、高度な小児チーム医療が行われています。小児関連各科には非常に重症な症例が多く、それらに合併する小児外科疾患の診断・治療は極めて困難ですが、このような重症例にこそ、こどもの未来を考えた低侵襲で優しい医療が必要であると考え、小児チーム医療における外科部門の中心的役割を担っています。

また当科は、都内でも有数の日本小児外科学会認定施設に認定されています。この認定施設とは、日本小児外科学会指導医の在籍、新生児手術数を含めた一定数の手術数、小児科医や麻酔科医の在籍などの厳しい施設基準を満たした施設のみが取得できる施設認定制度であり、高度な小児外科医療を施行しています。



いつも大変貴重な症例をご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。今後も当科診療と先生方の日常診療との連携を確実に進めさせていただき、患児に対して優しく安心・安全な医療を提供するとともに、患児のご家族および先生方と一緒に患児の身体と心を育むチーム医療を実践する所存でございます。

また当科では東京女子医科大学附属足立医療センターでの小児外科診療も担当しています。新宿区に限らず、都内幅広い地域の小児外科診療に対応しておりますので、遠慮なくお問い合わせください。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
世川修	臨床教授	小児外科・小児内視鏡外科手術、小児泌尿器科疾患	水 午後、第1・3・5 木 午前、土 午前	水 午後、土 午前
山田進	助教	小児外科一般	月 午前、木 午前・午後	
山城優太郎	後期研修医	小児外科一般	月 午後、水 午前、土 午前	

産婦人科／母子センター（母子・母性）

当院では、周産期、婦人科腫瘍、不妊治療、更年期障害に関する専門医がそろっています。また、産婦人科は総合周産期センターであり、NICUを併設した安全、安心な分娩をサポートし、さらには、麻酔科医と連携した24時間対応の無痛分娩を行っています。婦人科癌治療においては、治療ガイドラインに沿った治療をモットーとし、患者さんが納得のいく癌治療を受けていただけます。また、良性疾患では、ほとんどが腹腔鏡手術やロボット支援化手術による傷が小さく、低侵襲な手術療法を行っています。不妊治療においては、AYA世代の妊孕性温存治療にも対応し、満足のいく不妊治療を提供いたします。そして、更年期障害に対しては、外来ベースで専門医が対応いたします。このように、私たちは患者さんに寄り添い、女性の一生をサポートしてまいります。



診療部長
田畑 務

診療科の特色・得意とする疾患

- ・ 正常妊娠、無痛分娩（24時間麻酔科医対応）
- ・ 合併症妊娠（心疾患合併、腎疾患合併、膠原病合併、妊娠糖尿病、多胎妊娠、胎児異常）羊水検査
- ・ 婦人科悪性疾患（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、卵管癌、絨毛癌）BRCA検査、相同組み換え修復異常（HRD）検査、マイクロサテライト不安定性（MSI）検査
- ・ 婦人科良性疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫、骨盤臓器脱）
- ・ 不妊症（原発性・続発性不妊症）
- ・ 着床前遺伝子検査（PGT-M）、着床前胚染色体異数性検査（PGT-A）、NIPT検査
- ・ 更年期障害

腫瘍外来、生殖内分泌外来（不妊治療）、思春期外来、女性医学外来、胎児エコー外来、プレコンセプションケア外来、産後1か月検診

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
悪性腫瘍（前癌病変を含む）	109	111	94	132	117	129
手術総数（帝王切開を含む）	746	749	670	740	698	609
婦人科手術	497	493	483	515	494	436
腹腔鏡手術	267	248	252	251	276	225
ロボット手術	53	72	74	79	72	61

分娩数	575	712	517	554	463	424
母体搬送	53	41	50	74	93	77
帝王切開	249	256	187	225	204	173

人工授精	156	142	131	158	137	131
採卵	41	52	83	90	79	99
顕微授精	19	25	39	47	69	66
新鮮胚移植	1	1	1	8	15	3
凍結融解胚移植	41	60	88	92	64	73

連携担当医師の直通番号

03-6709-9379 (新生児)
03-6709-9380 (産科)
地域連携室(直通) 03-5269-7160

診療科HP

母子センターでは東京都新宿区の総合周産期母子医療センターとして、日々、母体搬送を受け入れています。糖尿病や心臓疾患などの合併症を有している妊婦の管理においては全国有数で、他の診療科と密接な連携を取り診療に当たっています。また、合併症を有するために今後の妊娠・出産に不安を抱えている方のご相談を受けるプレコンセプションケア外来も行っております。さらに、10月より無痛分娩に対する東京都の補助事業が始まりますが、当院では24時間麻酔科対応による安全な分娩を提供しています。

婦人科部門では悪性腫瘍の手術・化学療法などの集学的治療を数多く行っています。悪性腫瘍については、“科学的根拠に基づく治療（EBM: Evidence based medicine）”の実践をモットーにしながらも、患者それぞれの思想や社会的背景に基づく治療として患者やその家族の希望に寄り添う治療も行っています。さらに、当院では、卵巣癌の手術療法に関する治験を積極的に採用し、新たな治験にかかわる手術療法を提供しています。また、ロボット手術・腹腔鏡手術などの低侵襲手術にも力を入れ、良性・悪性を問わずに積極的に取り入れています。また、遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）やリンチ症候群などの遺伝性腫瘍に関しても各診療科と連携しながら診療を行っております。

生殖医療では不妊に悩むカップルが増えている中、治療の限界を直視しながらも適切な情報提供と心理的サポートを行い、生殖補助医療を行っております。

更年期障害に対する治療は、外来診療をベースとした漢方療法やホルモン治療を提供しています。

当科では、「妊娠機能を温存した癌治療を受けたい」「腹腔鏡で内膜症の手術を受けたい」「いつでも無痛分娩に対応して欲しい」など、他院では対応の難しい症例でも、安全・安心な医療を基本としながら、可能な限り患者さんのご希望に添えるように相談し治療方法を決定してまいります。

24時間365日、院内に複数名の医師が常駐しておりますので、休日・夜間を問わず、お困りの症例がございましたら、お気軽にご相談ください。誠心誠意、責任をもって対応させていただきます。

医師専門分野一覧

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
田畑 務	主務 教授／ 基幹分野長	婦人科腫瘍	火・金	
熊切 順	教授	低侵襲手術（腹腔鏡・ロボット）、生殖医療	木	火
中林 章	准教授	生殖医療、遺伝、腹腔鏡下手術	月	火・木
秋澤 叔香	准教授	婦人科腫瘍、遺伝	水	火
石川 源	講師	周産期	火・金	
本橋 卓	講師	婦人科腫瘍、低侵襲手術（腹腔鏡・ロボット）	金	月
渡辺 智之	講師	周産期	木	木
菅野 俊幸	助教 （医局長）	低侵襲手術（腹腔鏡・ロボット） 婦人科腫瘍、 周産期	第1土	水・木
橋本 友美	助教	生殖医療、女性医学		水・金
堀部 悠	助教	生殖医療、遺伝／腹腔鏡下手術	第2土	水・金
村田 周子	助教	生殖医療、女性医学	第4土	月
藤間 千尋	助教	再生医療、女性医学（思春期）	第5土	火・水
山岡 結香	助教	周産期	水	水



外来担当医表は

[こちら▼](#)



当科では、最新の医療技術と経験豊富なスタッフによる高度な眼科診療を提供しております。特に、前任の飯田知弘教授の時代から強化されてきた黄斑疾患および網膜硝子体疾患の診療に力を入れており、これらの疾患に対しては高い専門性を誇ります。最新の薬剤の導入や治験への参加などを通じて、よりアップデートされた治療法を提供しており、日本の中でも指折りの病院の一つとして位置づけられています。新しい高画質、広画角の光干渉断層計（OCT）や光干渉断層血管撮影（OCTA）を完備し、画像検査を駆使した的確な診断と治療を行っています。外来診療は一般外来の他、黄斑・網膜硝子体、角膜、緑内障、ぶどう膜、未熟児、小児眼科、色覚などの各専門分野を提供しています。患者様の健康と生活の質を最優先に考え、常に進化を続ける診療体制でお迎えいたします。



診療副部長
丸子 一郎

診療科の
特色・得意とする疾患

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、中心性漿液性脈絡網膜症、網膜色素変性症、ドライアイ、角膜感染症、アレルギー性結膜炎、細菌性結膜炎、ウイルス性結膜炎、斜視、弱視、眼瞼下垂、眼内炎、ぶどう膜炎（サルコイドーシス、原田病、ベーチェット病など）、視神経炎、視神経症

視力検査、屈折検査、眼圧測定、眼底検査、眼底カメラ、超広角眼底カメラ（optos）、光干渉断層計（OCT）、光干渉断層血管撮影（OCTA）、LSFG（レーザースペックルフローグラフィ）、マイクロペリメトリー（MP3）、視野検査（静的視野、動的視野）、前眼部OCT、角膜形状測定、角膜内皮細胞検査、角膜トポグラフィ、涙液検査、網膜電図（ERG）、多局所ERG、色覚検査、眼球運動検査（Hess chart、シノプト）、超音波検査など。

一般外来、黄斑・網膜硝子体、角膜、緑内障、ぶどう膜、未熟児、小児眼科、色覚

2024年診療実績

・手術件数

白内障手術	887件
網膜・硝子体手術	220件
緑内障手術	40件
眼瞼手術	19件
角結膜手術	16件
斜視手術	9件

・硝子体内注射件数

全薬剤	3224件
-----	-------

・外来患者数

全体	36440人
----	--------

連携担当医師の直通番号

03-6709-9358

地域連携室（直通） 03-5269-7160



診療科HP



眼科

当科は幅広い眼疾患に対応する高度な診療体制を整えており、特に黄斑疾患や網膜硝子体疾患に強みがあります。黄斑は中心視力を担う重要な部位であり、その障害は患者さんの生活の質（QOL）に直結します。当科には黄斑疾患に精通した専門医が多数在籍しており、日々多くの患者さんをご紹介します。つつ、鋭意診療に取り組んでおります。

最新の光干渉断層計（OCT）や光干渉断層血管撮影（OCTA）をはじめとする先進的な診断機器を駆使し、的確な診断とそれに基づく高度な薬剤および手術治療を提供しています。もちろん、網膜剥離や増植糖尿病網膜症、難治白内障、眼内炎、眼外傷など重症または緊急性のある疾患に対しても積極的に対応しております。

また、当科で行っている研究についても世界トップレベルの内容であると自負しており、今後も新たな診断法・治療法の開発に精力的に取り組んでまいります。特に網膜硝子体分野においては、加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞、糖尿病黄斑浮腫などを対象とした多数の治験や多施設共同臨床試験を積極的に実施し、最先端の治療法の確立とその安全性・有効性の検証に取り組んでいます。これにより、患者さんに対して一層幅広い治療選択肢を提供できる体制を整備しています。

患者さん一人ひとりに最適な診療を提供することを理念とし、スタッフ一丸となって安心・安全かつ迅速な治療を心がけています。地域医療との連携も重視しており、特に黄斑疾患や網膜硝子体疾患の高度治療を希望される患者さんをご紹介します。歓迎しております。

近隣の先生方には、外来患者・手術患者を問わず、積極的に当科へのご紹介をお願い申し上げます。

黄斑・網膜硝子体疾患に限らず、網膜剥離などの緊急疾患や白内障、緑内障、糖尿病網膜症、角膜炎、ぶどう膜炎、小児眼科疾患など幅広く対応しております。地域連携の勉強会も年2回開催しており、ぜひご参加ください。紹介患者様には迅速で安全な診療を心がけておりますので、安心してご紹介いただけます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
飯田 知弘	客員教授	黄斑疾患、網膜硝子体疾患	火（第一、午後）・金（第二、午後）	
丸子 一郎	准教授	黄斑および網膜硝子体における画像診断・治療・手術	月・木	
篠崎 和美	准教授	涙器疾患、眼瞼疾患、眼感染症、ドライアイ、小児眼科、ロ-ビジョン	水（午後）	
長谷川 泰司	講師	黄斑疾患、網膜硝子体疾患	月・水・金（午前）	
丸子 留佳	助教	黄斑疾患	月・木	
内村 英子	助教	ぶどう膜炎	水	
高橋 洋平	助教	神経眼科	金	
河合 萌子	助教		月・火・水	
橋谷 臨	助教、医局長	黄斑疾患、白内障手術、眼形成	月・水	
五十嵐 遼子	助教	緑内障	月・火	



外来担当医表は
こちら▼





診療副部長
山村 幸江

当科では、耳・鼻・咽頭・喉頭から頭頸部領域まで、幅広い疾患に対して総合的かつ専門的な診療を行っています。気道アレルギー性疾患のうち、特に好酸球性中耳炎・副鼻腔炎では呼吸器内科と密に連携し、高い治療効果をあげています。頭頸部腫瘍（甲状腺を除く）については、耳鼻咽喉科医、頭頸部外科医、放射線科医、腫瘍内科医など多職種による集学的治療を実施しています。また、味覚障害・舌痛症、音声・嚥下障害に対しては専門外来を設け、精密検査ときめ細やかな治療を提供しています。地域医療機関との連携を重視し、紹介患者様への迅速かつ丁寧な対応に努めています。

- 耳疾患：難聴、耳鳴、めまい、外耳炎・中耳炎、真珠腫性中耳炎、顔面神経麻痺（保存的・外科的治療）
鼻疾患：アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔炎（好酸球性含む）、嗅覚障害、鼻中隔弯曲症、鼻副鼻腔腫瘍
口腔疾患：味覚障害、口腔乾燥症（ドライマウス）、唾液分泌過多、舌痛症
咽頭・喉頭疾患：急性・慢性炎症、気道緊急疾患、音声障害、嚥下障害、声帯病変
頭頸部腫瘍：唾液腺腫瘍、咽頭癌、喉頭癌、口腔癌（舌癌など）、唾液腺癌

検査：標準純音・語音聴力検査、自記オーディオメーター、SISI検査、耳鳴検査、中耳機能検査、ティンパノグラム、インピーダンスオーディオメトリー、耳小骨筋反射検査、DPOAE、耳管機能検査、ABR、補聴器適合検査、誘発筋電図検査
平衡機能検査（重心動揺検査、電気眼振図検査、視標追跡検査、温度眼振検査）
内視鏡検査（中耳、嗅裂部・鼻咽腔・副鼻腔入口部、喉頭、嚥下機能）、嚥下造影検査、鼻腔通気度検査、基準嗅力検査、静脈性嗅覚検査、オープンエッセンス法嗅覚検査、味覚機能検査（電気味覚検査、ろ紙ディスク法味覚検査）、ガムテスト、喉頭ストロボスコピー、唾液腺シンチグラフィー

- ・頭頸部腫瘍外来：腫瘍の診断・手術・放射線・薬物療法の集学的治療
・嚥下とこえ外来：嚥下障害、音声障害の精密評価と治療
・口腔乾燥・味覚外来：味覚障害、ドライマウス、舌痛症の多面的評価
・補聴外来：補聴器適合検査・調整、聴覚リハビリ
・鼻副鼻腔・アレルギー外来：薬物および手術療法

2018年から2024年までの頭頸部悪性腫瘍手術件数は、年々増加傾向にあり、2018年の2件から2024年には29件へと大きく伸びています。この増加は、地域からのご紹介症例の増加、診断・治療技術の進歩、および集学的治療体制の充実によるものです。今後も質の高い外科治療を提供し、患者様の予後向上を目指します。

西 暦	手術件数
2018	2
2019	6
2020	19
2021	23
2022	23
2023	22
2024	29



診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9359**
地域連携室(直通) 03-5269-7160



当科は一般的な耳鼻咽喉科診療に加え、難治性疾患や複雑症例への対応を強みとしています。
鼻副鼻腔疾患では好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻副鼻腔手術（ESS）と薬物療法を組み合わせた治療で良好な成績を収めています。
頭頸部腫瘍は早期診断から再建手術、術後リハビリ、緩和ケアまで一貫した診療体制を有し、外科・放射線・薬物療法を統合的に行います。
音声・嚥下障害に対しては、嚥下内視鏡検査（VE）・嚥下造影（VF）による詳細な機能評価と、多職種連携によるリハビリテーションを実施しています。
味覚・嗅覚障害、口腔乾燥症、舌痛症では、機能検査に加えて心因性要因や全身疾患の関与も考慮し、内科・歯科との連携で包括的な治療を行っています。
地域医療との連携を重視し、紹介患者様には迅速な診断と治療方針提示を行うとともに、経過情報を的確にフィードバックいたします。

平素より格別のご高診・ご紹介を賜り、厚く御礼申し上げます。当科では耳鼻咽喉科領域全般に対応し、とくに鼻副鼻腔疾患、難治性口腔愁訴、嚥下・音声障害、頭頸部腫瘍に注力しております。紹介患者様には精密な診断と適切な治療方針のご提案を行い、結果をご紹介元に迅速にお戻しします。今後も地域医療との協力を深め、質の高い医療を提供してまいります。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
山村 幸江	准教授	口腔乾燥・味覚外来	火	木
稲井 俊太	准講師	頭頸部腫瘍外来	月	月・木
佐藤 えみり	助教	補聴器外来	金	
向井 昌功	助教	鼻副鼻腔・アレルギー・頭頸部腫瘍外来	金	
三枝 英人	八千代医療センター教授	嚥下とこえ外来	第1・3金	



外来担当医表は
こちら▼

歯科口腔外科では、歯・口・顎の疾患の治療を行っています。当科には、口腔外科領域の主要な疾患である口腔がん、顎変形症、顎関節症、歯科インプラントなどの専門医が所属しており、親知らずの抜歯、口腔がん、顎変形症、顎関節症、歯や口の外傷、顎の骨折、歯が原因の炎症などの口腔外科疾患の診断と治療を専門的に行っております。睡眠時無呼吸症候群の治療においては、睡眠科と連携して口腔内装置の作製を行っており、心臓病、糖尿病、腎臓病、血液疾患などを有する患者さんの抜歯は院内の関連する診療科と連携して行っています。さらに、手術を受ける患者さんやがん治療の患者さんに対する口腔ケアも行っております。外科処置後の義歯の作製や歯周病、虫歯治療などや定期的な口腔内のメンテナンスなどは地域の歯科医院に紹介を行うことがあります。



診療部長
岡本 俊宏



診療部長
古賀 陽子

- ・口腔がん

・顎骨のう胞・腫瘍

・顎変形症

・歯科インプラント治療

・親知らずの抜歯

・顎関節症

・薬剤関連顎骨壊死、放射線性顎骨壊死
- ・口内炎・口腔粘膜疾患

・唾液腺疾患（顎下腺・舌下腺）

・歯や口の外傷、顎の骨折

・歯が原因の炎症、感染症

・口腔機能低下症

・睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置作製

- ・口腔腫瘍外来

・顎変形症・先天疾患外来

・歯科インプラント外来

・顎関節症外来
- ・矯正歯科外来

・口唇口蓋裂外来

・口腔機能低下症外来

・化学療法口腔機能管理

・手術件数	令和4年度	令和5年度	令和6年度
口腔がん	22例	16例	19例
顎変形症	42例	40例	49例
のう胞・良性腫瘍	24例	37例	37例
歯科インプラント治療	61例	55例	52例

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は

こちら▼



連携担当医師の直通番号
地域連携室（直通）

03-6709-9363

03-5269-7160



診療科HP



口腔外科領域は、人間の生命維持に大切な「食べる」という機能に大きく関わるだけでなく、視覚的に病態が捉えることができるため、良好な治療結果だけでなく整容的改善をも強く求められる領域です。当分野では口腔がん、顎変形症、難易度の高い抜歯、歯の破折、脱臼、顎の骨折などの外傷、歯を原因とする炎症、顎骨嚢胞、口腔良性腫瘍、口腔粘膜疾患、顎関節疾患、口腔顔面痛などの口腔外科疾患や口腔インプラント治療を中心にを行っています。また薬剤の影響で血が止まりにくい場合や、心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病などの全身疾患を有する患者様の抜歯や歯科治療、口腔機能低下症への取り組みも各診療科と連携して行っております。

口腔がんの治療は、手術、放射線治療、抗がん剤治療、免疫療法を単独もしくは組み合わせて行います。当院は日本口腔腫瘍学会、日本口腔外科学会などの認定研修施設であり、口腔がんの治療は診療ガイドラインに準じて行っております。また、形成外科、耳鼻咽喉科、放射線腫瘍科、腫瘍内科などの関連診療科とともにチーム医療で診療にあたります。また、当科で立ち上げた画像連携システムを通じ、地域の先生方と協力しながら口腔がんの早期発見、早期治療に尽力しています。

顎変形症治療に関しては、一般的に広く用いられている下顎骨切り術、上顎骨切り術のみならず、上顎・下顎の部分的な骨切り術、下顎骨体部骨切り術、オトガイ形成術、上顎骨延長術など多様な手技を有しており、細かい病態に応じたオーダーメイド治療が可能となっております。

口腔疾患の精査・診断や難易度の高い抜歯、手術の適応判断などにつきまして、随時ご相談を承っております。紹介患者様の診療にあたっては、迅速な情報共有を心がけ、紹介元の先生方と連携を図りながら治療を進めております。また術後の補綴や一般歯科治療に関しては、地域の歯科医院へご紹介させていただくことがあります。今後とも地域医療の一端を担えるよう努めて参りますので、引き続きご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
岡本 俊宏	教授	口腔腫瘍、口腔インプラント、顎関節症、顎顔面外傷、睡眠時無呼吸症候群	金	月・木・土
古賀 陽子	教授	顎変形症、口唇口蓋裂、口腔インプラント、再生医療 顎顔面外傷、口腔ケア	火	水・金・土
貝淵 信之	講師・医局長 先端生命医科学研究 所講師（兼任）	口腔腫瘍、口腔インプラント、再生医療、顎関節症	木	月・火・土
佐々木 亮	講師	顔面外傷、再生医療、顎変形症	月	木・金・土
宮本 範子	助教	口腔腫瘍	土	火・木・金
藤居 泰行	助教	顎変形症、口唇口蓋裂、口腔インプラント、再生医療	水	火・金・土
柴山 知紗	助教	口腔腫瘍	土	月・火・木
富樫 悠	助教	顎変形症	月	水・金・土



診療部長
石黒 直子

当科では、東京女子医科大学の理念である「至誠と愛」の精神を胸に、質の高い診療と心の通うケアを患者さんにご家族に提供できるように常に心がけています。幅広い皮膚疾患に対応しており、湿疹、細菌・真菌感染症、母斑（あざ）、皮膚腫瘍（良性・悪性）など皮膚科の一般的な診療のみならず、特に受診の多い膠原病リウマチ疾患・血管炎、糖尿病・内分泌疾患など、内臓の病気に関連して起こる皮膚症状や治療によって引き起こされる薬疹などの皮膚症状の診察、診断確定のための皮膚生検の実施により、他科と連携した診療を心掛けております。下記に示します専門外来では、重症な方たちの治療にあたっております。今後も良質で安全な医療の提供を第一に考えて取り組んでまいります。

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、水疱性類天疱瘡、尋常性天疱瘡、脂漏性角化症（いぼ）、色素性母斑（ほくろ）、粉瘤、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、湿疹・皮膚炎、薬疹、水虫、ウイルス性疣贅、蜂窩織炎、ざ瘡、老人性色素斑（しみ）、母斑（あざ） など

糸状菌検査、ダーモスコピー、エコー検査、CT、MRI、皮膚生検、皮膚テスト（パッチテスト、プリックテスト、スクラッチテスト）、光線テスト

アトピー性皮膚炎、乾癬・掌蹠膿疱症、蕁麻疹、膠原病、血管炎、水疱症、レーザー、ピーリング、パッチテスト

2023年度

入院患者数	234人
入院手術患者数	46人

2024年度

入院患者数	251人
入院手術患者数	48人

2024年度入院

疾患	患者数
蜂窩織炎、丹毒	88
带状疱疹、水痘	60
紅斑症（薬剤、感染症などに伴う）	23
アトピー性皮膚炎、湿疹	8
血管炎、血管症	8
水疱症、膿疱症	5
アレルギーテスト	4
円形脱毛症	3
痒疹	3
蕁麻疹	2
皮膚悪性腫瘍	14
皮膚良性腫瘍	26
皮膚潰瘍	1
他	6
合計	251

2023・2024年入院手術

疾患	患者数
皮膚良性腫瘍	40
皮膚悪性腫瘍	30
その他（母斑、毛巣洞など）	24
合計	94

皮膚悪性腫瘍（詳細）	患者数
基底細胞癌	11
Bowen病	9
有棘細胞癌	4
悪性黒色腫	3
日光角化症	2
隆起性皮膚線維肉腫	1
合計	30

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9356**
地域連携室（直通） **03-5269-7160**



診療科HP



皮膚科

当科では幅広い皮膚疾患に対応しておりますが、特に、乾癬・掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、膠原病、血管炎、水疱症については専門外来を設置しており、通常よりも時間をかけて、きめ細かく患者さんに寄り添った診療を実践できるような体制を構築しています。各疾患に対して、生物学的製剤などを用いた先進的な治療も積極的に取り入れており、患者さんの満足度を高めるように努力を重ねています。母斑や小さな皮膚腫瘍に対しては外来で手術を行っていますが、皮膚悪性腫瘍など比較的複雑な手術が必要な症例には、入院いただいて拡大切除、皮弁形成、植皮術などを行っています。また、レーザー外来では、しみ・あざといった美容的なニーズに応えられるように、医療と美容の両面から患者さんに寄り添ったケアを提供できるように工夫しています。重症の薬疹、疼痛の強い帯状疱疹や蜂窩織炎といった緊急性の高い疾患に対しても、できる限り入院いただいて迅速に対応できるように配慮しております。全身疾患に伴う皮膚症状に悩んでいる患者さんも多数受診されていますが、膠原病内科や血液内科など専門性の高い診療科と密に連携しながら、大学病院として信頼される診療を提供できるように心がけています。皮膚疾患全般において、皮膚症状でお困りの患者さんをぜひご紹介頂ければと思います。

当科では、地域の医療機関との病診連携を積極的に奨めており、近隣の先生方との関係を良好に保ち、患者さんにより良い医療を提供できるよう心掛けています。精査を要する症例、治療経過がおもわしくない場合、より高度な治療を要する場合などぜひご紹介ください。緊急の場合は、予めお電話でご連絡の上でご紹介いただくとスムーズと思います。病状が落ち着きましたら、患者さんの利便性も考え、地域の医療機関にお戻り頂く逆紹介システムを取らせて頂き、再燃時などは引き続き連携させていただきたいと思っています。

医師名	職位	専門領域	外来診療日	
			初診	再診
石黒直子	教授・ 基幹分野長	膠原病・血管炎 蕁麻疹	月、水（2,4）、木	
山上 淳	准教授、 外来統括	水疱症	火、水（1,3,5）	水（2,4）、金
竹中祐子	講師、 病棟長	膠原病・血管炎 蕁麻疹	金	水（1）
鈴木瑞穂	助教、 医局長	膠原病・血管炎		
吉田 傑	助教、 外来長	乾癬・掌蹠膿疱症 手術		



外来担当医表は

[こちら](#)▼





診療部長
押淵 英弘

重症精神疾患と身体疾患の精査を二つの柱として、チーム医療を重視した診療を行っています。また、児童思春期精神科専門外来を開設しました。

＊重症精神疾患治療

現在、開放病棟のために閉鎖病棟を必要とする方の診療は困難ですが、疾患に関わらず通電療法を必要とする方の入院治療を行なっています。

＊身体疾患併発症例

身体疾患と精神疾患との併発、あるいは認知症、内分泌疾患などの身体疾患による精神症状ことが疑われ方の入院精査・治療を行っています。

＊児童思春期症例

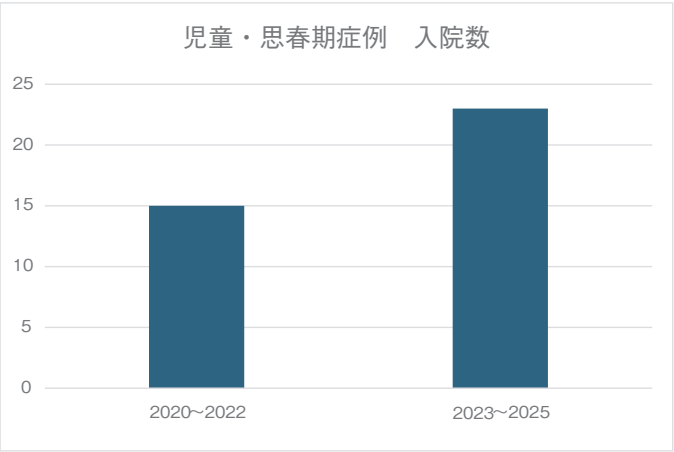
神経発達症を始め児童・思春期の方の外来治療を承ります。必要に応じて入院加療も行っています。

以上、地域の精神科病院、クリニックとの連携をより緊密にしていく所存です。

疾患：統合失調症、双極症、うつ病、パニック症、社交不安症、全般性不安症、限局性恐怖症、強迫症、心的外傷後ストレス症、適応反応症、身体症状症、解離症、摂食障害、睡眠障害、嗜癮性障害、認知症、器質性精神障害、パーソナリティ症 など

心理検査：WAIS-Ⅳ、WISC-V、AQ、CARRS、ロールシャッハ、CAPS、P-Fスタディ、MMPI、SCT、TEG、BADs、リバーミード、WMS-R、SCID、LSAS-J、PAR S-TR、Vineland-Ⅱなど
その他、各種身体精査も行っており、他科と連携して治療を行います。

児童・思春期専門外来
認知行動療法外来



診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は

こちら▼



連携担当医師の直通番号

03-6709-9351

地域連携室(直通) 03-5269-7160



診療科HP



東京女子医科大学病院の神経精神科は、1948年に開設され地域の精神医療に貢献した歴史と伝統をもっています。精神科の単科病院ではなかなか対応が困難な身体合併症を持つ精神疾患や、電気けいれん療法が必要となる例など、多彩なケースに対応しています。

またここ数年間で児童・思春期の精神疾患の治療に力を入れており、外来・入院ともに児童・思春期の症例数が増えています。児童・思春期の精神疾患は、身体的・精神的発達の著しい変化や学業などによるストレスが背景にあり多彩な症状を呈し、また患者本人も言語化がうまくできないこともあり、専門的なアセスメントが必要になることが多いです。そのため、児童・思春期の専門外来を有していない医療機関では、治療を開始したものの徐々に対応が困難となる場合もあります。当科は児童・思春期専門外来を有し、必要に応じて入院下での治療も行うことができます。

また、コンサルテーション・リエゾン精神医学にも力を入れており、精神疾患の既往のあるなしに関わらず、患者様が身体科へ入院した際に、精神科リエゾンチームが他職種と連携して往診に伺い、不眠、不安、せん妄などの予防、早期発見と治療を行い、必要に応じて家族支援や環境調整も行います。

今後も地域の皆様や医療機関からの期待に応えられるよう、患者様のQOLを重視し、患者様の立場に立った医療を心がけ、受診してよかった、入院してよかったと思ってもらえるような最適でかつ良好な診療を提供することを心がけていきます。

初診の外来予約はHPのweb予約から、入院の相談に関しては当科の入院調整担当の医師まで直接お電話を頂ければ幸いです。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
押淵 英弘	准教授・診療部長	児童・思春期精神医学	金	火
川本 恭子	助教	熱傷・アトピー性皮膚炎のメンタルケア	火	水
辻 かをる	助教	心理教育	火	金
榎本 幸輔	助教	精神薬理学	月	水
鈴木 龍	助手	睡眠	水	火
外山 皓喜	後期研修医	認知行動療法	木	火
塚本 希	後期研修医	精神科一般		月
秋山 洋美	後期研修医	精神科一般		水
坂田 晃浩	後期研修医	精神科一般		木
池田 大和	後期研修医	精神科一般		水
村山 侑	後期研修医	精神科一般		木
世継 高大	後期研修医	精神科一般		金
川島 優和	後期研修医	精神科一般		火
高柳 薫	後期研修医	精神科一般		水

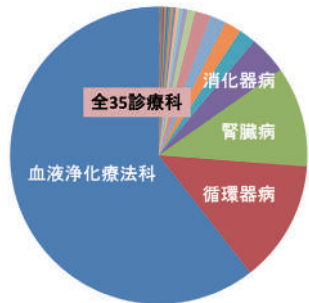
当診療科は、血液浄化療法に特化した診療科としての特徴を持っています。また、大学病院としては、異例の48ベッドの透析室を持っています。様々な診療科に入院された患者さんに血液浄化療法を提供するとともに、外来維持透析も積極的に行っております。さらには、慢性腎臓病における腎代替療法選択にもかかわっています。当診療科の我が国の血液浄化療法の歴史における位置づけは大きく、その黎明期から様々な治療の開発・臨床応用を行ってきました。現在は、血液透析・腹膜透析、アフエリシス治療など、わが国で施行可能なほぼすべての血液浄化療法を、様々な疾患を持った患者さんに提供しています。血液浄化療法・腎代替療法の選択においてお困りの際には、ご連絡をお待ちいたしております。

末期腎不全に対する透析療法（血液透析・腹膜透析）については、透析導入患者、外来透析、合併症入院中の透析治療について当診療科で行っています。慢性腎臓病における腎代替療法のオプション提示（共同意思決定プロセス）として、腎代替療法選択外来において、血液透析、腹膜透析、腎臓移植についての医療者側からの情報提供と、患者さん・ご家族からの情報共有をもとに、ご本人に最適な治療を選択するための手伝いを行っています。精神神経科との共同で、公認心理師が腎代替療法にかかわっており、多方面からのアプローチを行っています。血液透析・腹膜透析の導入に際して、院内の患者を対象としたアクセスの作成も積極的に行っています。消化器内科からの紹介で、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）に対する、血球成分除去療法を施行していますが、入院のみならず、維持治療も含めた外来治療を積極的に施行しています。生体腎移植前の脱感作においては、当診療科で開発した二重濾過血漿分離交換法の他、単純血漿交換、選択的血漿交換で拒絶予防を行っています。さらには、重症下肢虚血による皮膚潰瘍への吸着式潰瘍治療法を入院・外来で施行しています。また、血漿交換治療が適応となる多くの疾患についても、主に入院で血漿交換を行っています。

外来血液透析患者に対して、透析治療を提供するほか、腹膜透析患者に対して、腹膜透析外来で透析管理を行っています。また、腎代替療法選択外来では、主に院内からの進行した慢性腎臓病患者を対象として、腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎臓移植）の情報共有を行っています。

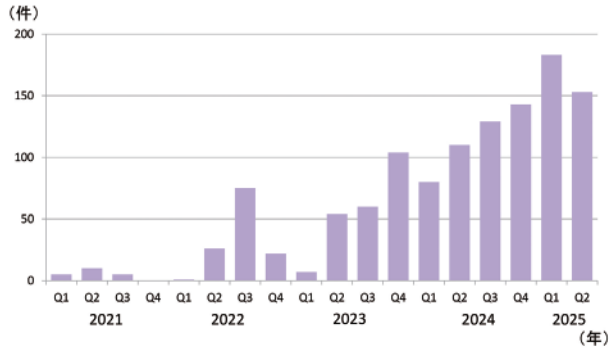
・治療実績	2022年	2023年	2024年
血液透析	16,730	14,543	14,756
アフエリシス	520	553	946
血漿交換	191	171	280
二重濾過血漿分離交換法	148	98	134
血漿吸着	30	46	13
血球成分除去療法	139	209	461
吸着式潰瘍治療法	11	27	57
エンドトキシン吸着療法	1	2	1

血液浄化療法施行患者の所属診療科



2021年12月から2023年11月

当院におけるCAP施行数推移（四半期ごと）



診療部長（代行）
花房 規男

診療科の
特色・得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼

連携担当医師の直通番号 **03-6709-9386**
地域連携室（直通） 03-5269-7160



当診療科が主に関わる透析室は、48ベッド、年間約1万5千回の治療を行っており、大学病院としては、有数の治療数を誇っています。当診療科では、わが国で施行可能なほぼすべての血液浄化療法を提供しています。外来血液透析の施行、高度な血液浄化（アフエリシス治療）の積極的な施行、3職種の連携と安全への取り組みなど治療内容・安全対策への取り組みも特徴的です。院内で医療安全推進部、感染制御部との密接な連携のもと、安全対策、感染対策に対する配慮も行っており、48ベッドを外来・入院に明確に区分し、各ベッドのコーナーに分割し、スタッフはコーナー担当制を実施し、重症度とスキルに応じた対応としています。さらには、感染対策ベッドを複数設けることにより、肝炎ウイルス、細菌感染などへの柔軟な対応のほか、病棟透析も含め、COVID-19などの新興感染症への万全な対応を行っています。また、腎臓内科との共同で、血液透析・腹膜透析のアクセス作成、その後の透析導入についても深くかかわっています。

学会認定施設として、血液浄化基本学会（日本透析医学会、日本腹膜透析医学会、日本アフエリシス学会、日本急性血液浄化学会）のそれぞれの認定施設として、医療者教育にも深く携わっています。血液浄化療法を専門とする診療科として、血液浄化療法の知識、技術の周知に日々取り組んでいます。

血液浄化療法は、治療技術に立脚した診療科ですが、特に透析治療は、治療を受ける患者さんの生活に大きな影響を与え、また治療自体も生活に大きく影響を受けます。透析患者の高齢化に従って、地域の先生方に患者さんの日々のサポートをお願いすることも多くあると思います。また、先生方がご覧になっている腎不全・透析患者さんでお困りのことがありましたら、ぜひともご連絡をいただければと存じます。血液浄化療法を受ける患者さん、また腎代替療法の選択で困られている患者さん・ご家族を中心として、相互の関連を深めていきたいと考えています。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
花房 規男	教授	血液浄化療法全般	一般・腹膜透析外来（初診・再診）：水 腎代替療法選択外来：第2, 4水 午後	
平野 一	准教授	血液浄化療法全般	一般・腹膜透析外来（初診・再診）：火・木 腎代替療法選択外来：第1, 3, 5木	
菊地 勘	非常勤講師	血液浄化療法全般		火

母子総合医療センター (新生児科)

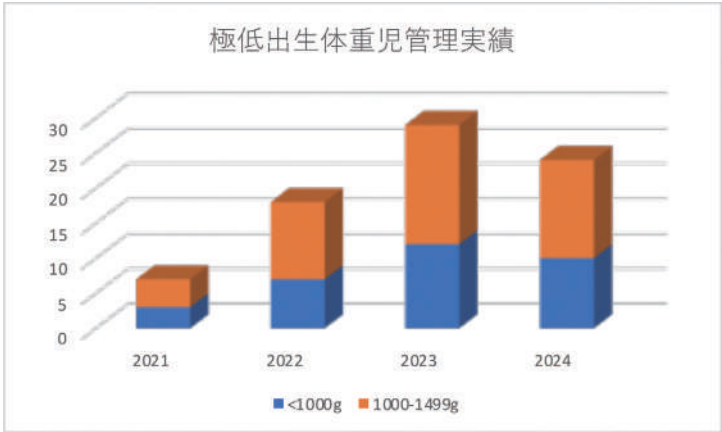


診療部長(代行)
田畑 務

東京女子医科大学病院新生児科のNICUは、「新生児医学の父」と呼ばれた故・仁志田博司先生により開設された伝統ある施設です。東京都区西部の総合周産期センターとして、産科および小児専門診療科と連携し、あらゆる未熟児新生児疾患の治療を行っています。

- ・対象疾患：超低出生体重児、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、動脈管開存症、先天性心疾患、新生児外科疾患、染色体異常、先天奇形症候群、新生児黄疸、新生児仮死など
- ・代表的な治療：超低出生体重児の全身管理、人工呼吸管理、一酸化窒素吸入療法、低体温療法、心臓外科手術、新生児外科手術、血液持続濾過透析など。

・極低出生体重児管理実績	2019	2020	2021	2022	2023	2024
<1000g	6	7	3	7	12	10
1000-1499g	16	14	4	11	17	14



東京女子医科大学病院NICUはMFICUを有する産科と連携し、総合周産期センターとして未熟児新生児の治療を行っています。最新のエビデンスに基づいた医療の提供はもちろんのこと、伝統により磨かれた高度な新生児専門看護ケア・高水準の医療工学士チームによる医療機器管理・長期入院児への積極的なリハビリテーション介入・NICU専属の臨床心理士による父母へのケアなどにも力を入れ、後遺症なき生存を目指し多職種で日々奮闘しています。

東京女子医科大学病院は、総合周産期母子医療センターとして母胎搬送・新生児搬送を24時間365日いつでも受け入れております。お気軽にご相談下さい。

医師専門分野 一覧

連携担当医師の直通番号

03-6709-9379 (新生児)

03-6709-9380 (産科)

地域連携室(直通) 03-5269-7160

診療科HP

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
垣内 五月	准教授	新生児医学、小児科学	-	-
米田 康太	助教	新生児医学、小児科学	-	-
衣斐 恭介	助教	新生児医学、小児科学	-	-



対象疾患・ 検査

実 績

診療科の 特色・ 得意とする 疾患

ご紹介 くださる 先生方へ

外来担当医表は
こちら▼





医局長
関口 治樹

当科の前身は、東京女子医大附属青山病院睡眠総合診療センターで、2010年より睡眠時無呼吸症候群を中心とした睡眠呼吸障害、むずむず脚症候群、レム睡眠行動障害、過眠症（ナルコレプシーなど）、不眠症（入眠困難、中途覚醒、早朝覚醒）などの検査、診断、治療を行ってまいりました。

近年、24時間社会、IT化がすすみ、また食の欧米化、運動不足などライフスタイルの変化により、不眠、睡眠覚醒概日リズム障害、睡眠時無呼吸症候群などの睡眠障害をきたす患者さんが増えていきます。睡眠障害は、事故やヒューマンエラーなど社会的問題、うつなどの気分障害、生活習慣病と密接に関係し、総合的、専門的に診断、治療していくことが重要です。

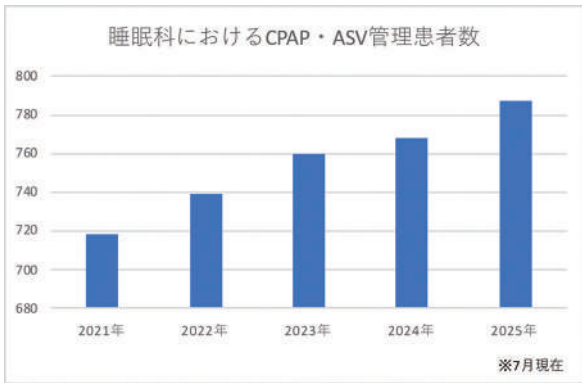
疾患名	検査	治療
・閉塞性睡眠時無呼吸症候群	PSG	減量、OA、CPAP
・中枢性睡眠時無呼吸症候群	PSG	原疾患の治療、CPAP、ASV
・むずむず脚症候群	PSG	内服加療
・レム睡眠行動障害	PSG	内服加療
・ナルコレプシー	PSG、MSLT	内服加療
・不眠症	睡眠日誌	睡眠衛生指導、内服加療
・睡眠覚醒概日リズム障害	睡眠日誌	睡眠衛生指導、内服加療

略語 PSG ： Polysomnography（終夜睡眠ポリグラフィー検査）
 OA ： Oral Appliance（口腔内装置）
 CPAP ： Continuance positive-airway Pressure（持続陽圧呼吸療法）
 ASV ： Adaptive servoventilation（適応補助換気）
 MSLT ： Multiple Sleep Latency Test（反復睡眠潜時検査）

・肥満症を伴う睡眠時無呼吸症候群の患者さん（高血圧症、脂質異常症、糖尿病に対し、内服加療の必要がある、もしくは行っている）を対象に、根治治療である減量をするために、運動・栄養指導を半年間行った後、肥満症への保険適応の治療薬であるGLP-1:Glucagon-like peptide-1 receptor作動薬（ウゴービ、ゼップバウンド）を用いて減量を行い、CPAP離脱を目指します。

・当科におけるCPAP、ASV管理患者数

CPAP,ASV管理患者数	
2021年	718
2022年	739
2023年	760
2024年	768
2025年	787



診療科の
特色・得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は

[こちら](#)▼



当科では、睡眠医療、循環器内科の専門医が診療にあたり、精神科（向精神薬の調整など）、歯科口腔外科（OA作成など）、泌尿器科（夜間頻尿など）、耳鼻科（鼻閉感など）、神経内科（神経疾患の合併など）、呼吸器内科（慢性閉塞性肺疾患の合併など）、ゲノム診療科（遺伝性疾患の合併など）など多数の診療科と連携をとりあって睡眠医療を行っております。

睡眠検査は、睡眠時無呼吸症候群に対する在宅での簡易SAS検査、また入院検査は一泊二日（月、水、金の13時から翌日起床時まで）入院でのPSG（検査は保険診療で行います。検査室は個室ですが、個室差額料金を徴収いたしません。）、突発性過眠症などでの昼間の眠気を客観的に評価するMLST（上記入院日の翌日午後5時まで）を施行します。閉塞性睡眠時無呼吸症候群では、CPAPの導入や口腔外科でのOAによる治療を行っています。

CPAPに関しては、各社:Phillips(BiPAP-auto, Dream Station)、TEIJIN(ResMed, Air mini)、Chest (Sleep Style,ムラタ) 扱っており、患者さんのご希望（携帯したいなど）や症状（鼻閉感がある、ラテックスアレルギーがある、のどが渇きやすいなど）に応じて、各社選定をしています。

また高度肥満症（BMI:27以上）を伴う睡眠時無呼吸症候群への保険での減量治療（GLP-1受容体作動薬）も行っております。

入眠困難、中途覚醒、早期覚醒、睡眠薬の調整など睡眠に関する悩みがあればお気軽にご相談ください。

睡眠障害は有病率が高く、若年者から高齢者まですべての年齢に認められます。近年、アメリカ心臓病学会が、心血管病変予防のためにSimple7から、良好な睡眠を加えたEssential8を提唱しました。睡眠は健康寿命を延ばすうえでも重要ですが、専門医の治療を受けている患者さんは少ないことが現状です。また、睡眠薬を多剤内服している方も十分な睡眠衛生指導を行い、内服調整を行うことも可能です。睡眠障害で困った場合や診断がつかない時、内服調整が必要な時には、当院の睡眠専門医の受診をご検討宜しくお願い致します。



医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
関口 治樹	准教授	睡眠障害一般、総合内科、循環器内科	月	月・水
安藤 聖恵	助教	睡眠障害一般、循環器内科	火 午後	金 午前
新井 光太郎	非常勤講師	睡眠障害一般、循環器内科	木 午前	
高橋 夕美子	非常勤講師	睡眠障害一般、循環器内科	火 午前	
木村 眞樹子	非常勤講師	睡眠障害一般、循環器内科	第4金	午後



診療部長
森 周介

2024年5月1日より救命救急センター長を拝命いたしました。本センターは、重症救急医療に対応する三次救急施設として、24時間365日体制で全国からの搬送を受け入れています。心肺停止、多発外傷、重症臓器不全、重症熱傷など、あらゆる生命の危機に直面する患者さまに対し、ECMO、CHDF、IABPなどの高度救命技術を駆使し、各診療科との緊密な連携による包括的な治療を行っています。また、救急医療は単に命を救うだけでなく、その後の生活の質を守ることも重要です。そのため初療から集中治療、リハビリ、再発予防まで一貫した診療体制を構築しています。教育面では、医学生・初期研修医・後期研修医への指導を通じ、将来の救急医療を担う人材育成に尽力しています。研究面でも国内外との共同研究を推進し、最新の知見を迅速に臨床へ還元することを目指しています。今後も質の高い医療、教育、研究を三本柱として、地域と世界の救命救急医療の発展に貢献してまいります。

対象疾患

院外・院内心肺停止、外傷性心停止、多発外傷（頭部外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤骨折、四肢外傷）、重症臓器不全（心不全、呼吸不全、腎不全、肝不全）、各種ショック（出血性、心原性、敗血症性、アナフィラキシー）、急性冠症候群（心筋梗塞、不安定狭心症）、重症不整脈、脳血管障害（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞）、急性腹症（消化管穿孔、腸閉塞、急性膵炎）、消化管出血、中毒（薬物、化学物質、一酸化炭素）、熱中症、低体温症、環境障害（凍傷、雷撃、溺水、山岳事故、潜水病、高山病）、広範囲熱傷、圧挫症候群、大量出血、敗血症など。

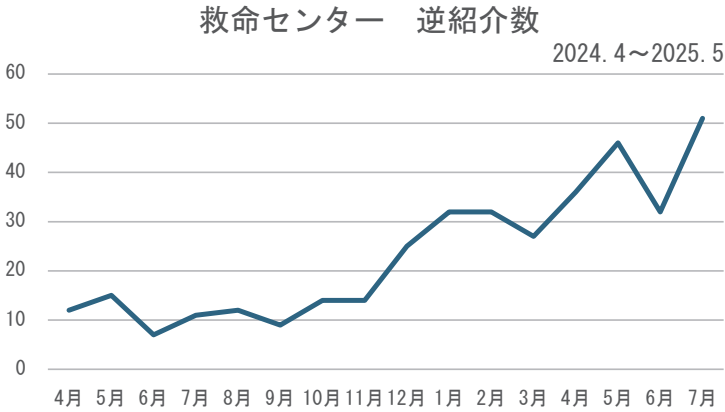
検査

各種緊急手術（開胸・開腹・脳外科・整形外科手術）、呼吸管理（人工呼吸、HFNC）、循環管理（IABP、PCPS/ECMO）、心肺蘇生後低体温療法、腎代替療法（CHDF、血液透析、血漿交換、PMX-DHP）、高気圧酸素療法、IVR（動脈塞栓術、血管拡張術）、心臓カテーテル検査（CAG、PCI）、緊急ペーシング、各種画像診断（全身CT、FAST、MRI）、大量輸血プロトコル、広範囲熱傷植皮術、各種外科的止血術など、重症患者に必要な診断・治療を即時実施可能な体制を整備しています。

実績

・救命センター 逆紹介数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
12	15	7	11	12	9	14	14	25	32	32	27	36	46	32	51



診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼



連携担当医師の直通番号 **03-5269-1712**
地域連携室(直通) 03-5269-7160

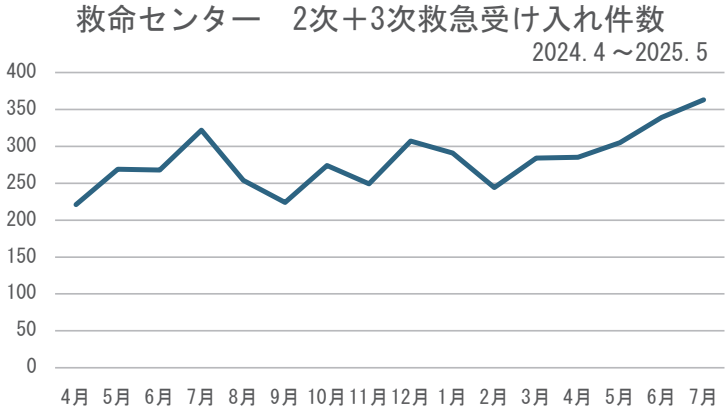


診療科HP



・救命センター 2次+3次救急受け入れ件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
221	269	268	322	254	224	274	249	307	291	244	284	285	305	339	363



- ・当センターは、東京都区部における三次救急医療の中核拠点として、重症外傷から内因性急変疾患まで幅広い救急症例に対応しています。ICU（12床）、初療室、救急専用手術室を有し、到着直後から集中治療、外科的処置、再建手術まで一貫して実施できる体制を整備。特に多発外傷、重症循環不全、広範囲熱傷、重症感染症への迅速かつ包括的な対応を強みとしています。
- ・診療は外科系救急を軸に、循環器、脳血管、呼吸器、消化器、整形外科など診療科が初療から同時介入する「ハイブリッド型救急」を採用。ECMO、IABP、CHDF、PMX-DHP、高気圧酸素治療室など先端医療機器を活用し、救命率向上と後遺症軽減を両立します。血管内治療（IVR）、緊急冠動脈インターベンション（PCI）、外傷性出血に対する緊急塞栓術なども24時間対応可能です。
- ・また、東京都DMATの拠点として災害時には多数傷病者の同時受け入れや被災地派遣を行い、災害医療訓練も定期的に実施。広域災害や特殊環境下（高山・潜水・極端温度環境）での診療経験も豊富です。さらに重症熱傷に対する植皮術、大量輸血プロトコル、外傷手術の標準化など、各分野で専門性を高めた治療プログラムを構築しています。これらの体制により、あらゆる重症患者に迅速かつ質の高い医療を提供できることが当センターの最大の特色です。

地域の先生方には、当センターが重症救急医療の中核として、24時間体制で救命処置を実施していることをご認識いただければ幸いです。外傷や急性疾患に迅速かつ包括的に対応できる体制が整っております。救急車・ドクターカーによる搬送も常時受け入れ可能で、必要時には各診療科と連携し円滑に加療を開始します。ご紹介いただく際は、お気軽にセンターへご連絡ください。今後とも連携強化と患者さまの命を守る医療を共に進めていければと存じます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
森 周介	教授・センター長	外科系救急、集中治療	月、火、水、金	
武田 宗和	臨床教授	一般救急、災害医療	金 午前	
並木 みずほ	講師	一般救急、集中治療、中毒	月 午前	

東京女子医科大学病院 放射線腫瘍科では、高精度な放射線治療機器と専門スタッフによるチーム医療により、患者さんに最適な放射線治療を提供しています。治癒を目指す根治的照射から緩和的照射まで、幅広いニーズに対応可能です。また、複数診療科と連携した集学的治療や、重粒子線・陽子線治療施設との協力体制も整備されており、質の高い医療を地域の皆様に提供しております。



診療部長
橋本 弥一郎

頭頸部癌、肺癌、乳癌、食道癌、胃癌、直腸癌、肝・胆・膵癌、子宮癌、前立腺癌、膀胱癌、皮膚癌、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、脳腫瘍、骨転移、肺転移、リンパ節転移
体幹部定位放射線治療（SBRT）、定位脳照射（SRT）、全脳照射、全脊髄照射、術前・術後照射、IMRT（強度変調放射線治療）、VMAT、IGRT（画像誘導放射線治療）、密封小線源治療（HDR）、呼吸同期照射、MRI/PET融合計画、再照射計画

・SBRT数 [件]

対称年	2020	2021	2022	2023	2024
年間統計	44	66	92	117	231

・IMRT数 [件]

年	2020	2021	2022	2023	2024
年間統計	251	66	92	117	231

・外部放射線治療数 [件]

年	2020	2021	2022	2023	2024
年間統計	44	66	92	117	231

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼



連携担当医師の直通番号
地域連携室(直通) 03-6709-9360
03-5269-7160



診療科HP



放射線腫瘍科

当科は、頭頸部癌、婦人科癌、肺癌、肝胆膵癌、前立腺癌を中心とした高精度放射線治療を得意としています。特にIMRTやSBRT、密封小線源治療（婦人科がん）においては高い治療成績を有しており、がん治療の中核を担っています。

再発や転移、再照射を含む困難症例への対応、免疫チェックポイント阻害薬との併用など、新たな集学的治療にも積極的に取り組んでいます。

また、放射線治療計画は医師・医学物理士・診療放射線技師が密に連携し、個々の患者に応じた最適化を図っています。

地域の医療機関からのご紹介に迅速に対応し、短期間で治療を開始できる体制を整備しており、初診から治療開始まで最短数日以内の対応も可能です。患者ごとのセカンドオピニオンや治療方針相談も受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

がんの根治的治療から症状緩和まで、幅広く対応しております。再照射や高齢者・合併症のある患者にも柔軟に対応いたします。治療適応の有無にかかわらず、ぜひ一度ご相談ください。今後も地域医療機関との連携を大切にし、信頼される専門科を目指してまいります。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
橋本 弥一郎	教授	脳腫瘍、直腸癌、前立腺癌、セカンドオピニオン	木・金・土	
栗林 茂彦	講師	頭頸部がん、肝・胆・膵癌、婦人科腫瘍、ケロイド	月・火	
河野 佐和	助教	乳がん、食道癌、緩和照射	火・木	
辻井 美貴	助教	乳がん、血液腫瘍	月	
大松 賢太	助教	肺・縦隔腫瘍、肝臓癌	月	



診療部長
坂井 修二

画像診断・核医学科では、全身のあらゆる臓器を対象に診断を行っています。がん診療ではPET-CTを用いた腫瘍の検出や再発評価を行い、治療方針決定に重要な情報を提供します。心疾患に対しては心筋血流シンチ、冠動脈CTや心臓MRIにより虚血や心筋のバイアビリティーの評価を行います。特にアンモニアPETでは心筋血流量の評価が行え、本邦で最多の検査を行っています。神経疾患ではMRIや脳血流SPECTによる精査を行います。昨年度からは、アミロイドPETを開始し、治療後の評価につながる定量値の測定も行っています。

当科は単なる画像の読影にとどまらず、臨床各科と協働し患者さん一人ひとりに最適な診断と治療の架け橋となることを目指しています。

- 対象疾患
- ・悪性腫瘍（肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器科がんなど）
 - ・心疾患（虚血性心疾患、心筋症、心不全、アミロイドーシス、サルコイドーシス）
 - ・脳神経疾患（脳腫瘍、認知症、てんかん、変性疾患）
 - ・内分泌疾患（甲状腺、副甲状腺、副腎、下垂体）
 - ・骨・関節疾患（骨腫瘍、変形性関節症、スポーツ外傷）

- 検査
- ・CTやMRIの検査とレポート作成
 - ・PET（腫瘍のFDG-PET、心臓のアンモニアPET、認知症治療が可能か確認するアミロイドPET、脳腫瘍評価のためのアミノ酸PET）
 - ・核医学検査（骨シンチ、心筋血流シンチ、脳血流SPECT、甲状腺シンチ、腎シンチ）
 - ・血管内治療・IVR（血管撮影の技術を応用した手技およびCTや超音波ガイド下で行う生検やドレナージ等）

- 専門外来
- ・RI内用療法（甲状腺疾患、神経内分泌腫瘍、去勢抵抗性前立腺がん）
 - ・血管内治療

実績

主な検査実績

CT（コンピューター断層像）

1か月に約4000件の検査実績

- ・6台のMDCT（マルチスライスCT）機器稼働中（320列:2台・80列:1台、64列:4台）

MRI（磁気共鳴画像）

1か月に約2,000件の検査実績

- ・6台のMRI機器稼働中（3テスラ:2台・1.5テスラ:4台）

PET（Positron Emission Tomography）

アンモニアPET血流イメージング（年間100例以上）

アミロイドPET検査開始（2023年～保険適用）

- ・2台のPET/CT機器稼働中（64列（Biograph mCT64）・16列（Siemens Biograph16））

診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は
こちら▼

連携担当医師の直通番号
03-6709-9361
地域連携室（直通） 03-5269-7160



画像診断・核医学科は、多様なモダリティを駆使し「構造」と「機能」の両面から病態を明らかにできる点が特色です。CTやMRIによる形態学的診断に加え、PETやSPECTなど核医学的手法を組み合わせることで、がんの早期発見から治療効果判定、再発評価に至るまで一貫した診断支援を行っています。特に腫瘍領域では、FDG-PET/CTを用いた全身評価に豊富な実績を持ち、消化器、呼吸器、頭頸部、婦人科、泌尿器科領域のがん診療に大きく貢献しています。心疾患では心筋血流シンチグラフィや冠動脈CT、心臓MRIを通じて虚血性心疾患の正確な診断を行い、治療方針の選択を支援しています。神経疾患では認知症の核医学的診断やてんかん焦点の特定に力を入れており、臨床各科と連携した専門的外来も設けています。また、被ばく低減技術や高速撮像など最新の装置を導入し、安全で快適な検査環境を整備しています。これらを通じて、質の高い画像診断を提供することが当科の強みです。

日頃より当科へのご紹介を賜り、心より御礼申し上げます。当科は各診療科と密接に連携し、迅速かつ精度の高い画像診断をお届けできるよう努めております。診断に迷う症例や治療方針決定に難渋される場合など、どうぞお気軽にご相談ください。今後とも地域・院内医療に貢献できるよう全力を尽くしてまいります。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
坂井修二	教授・基幹分野長	呼吸器画像診断、乳腺画像診断		
長尾充展	臨床教授	循環器画像・核医学診断		
森田賢	准教授	腹部画像診断および血管内治療		
鈴木一史	准教授	神経・脊髄疾患の画像診断		



診療部長
長坂 安子

東京女子医科大学では各診療科が一体となって医療を推進し、臨床、教育、研究そして新しい医療技術と治療の開発に取り組んでおります。この大樹の枝として、東京女子医科大学麻酔科学分野は1965年（昭和40年）7月に開講致しました。以降、わが国で極めて早い時期から麻酔科の医師がその専門性を活かし、東京女子医科大学病院での麻酔科診療を担当してまいりました。現在、安全で質の高い麻酔科診療を目指した臨床麻酔科学の実践、未来の医学の扉を開くための研究、麻酔科専門医・初期研修医・学生そしてメディカルスタッフの教育に取り組んでおります。患者さんと医療者に喜ばれる診療を目標として、日々精進しております。

麻酔科は中央診療部門として、侵襲をとまなう手術や検査・手技の麻酔や鎮静のご依頼を全てお引き受けしています。

外科領域:

心臓麻酔（成人・小児）

脳外科麻酔（成人・小児脳腫瘍、小児ガンマーナイフなど）

胸部外科麻酔（ロボット手術、内視鏡、開胸）

腹部外科麻酔（上部・下部消化管、肝胆膵外科、ロボット手術、内視鏡、開腹手術）

小児麻酔（低出生体重児、早産児～新生児～乳幼児～小児期にかけて）

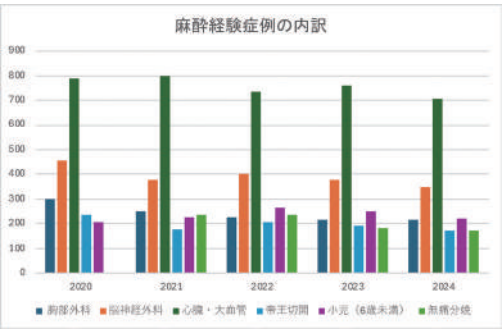
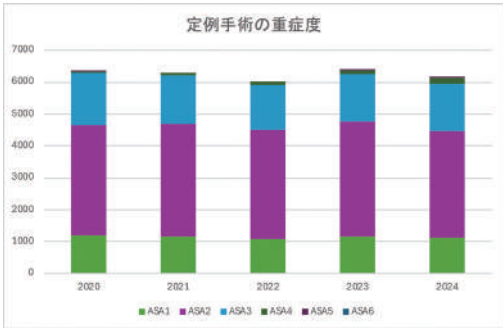
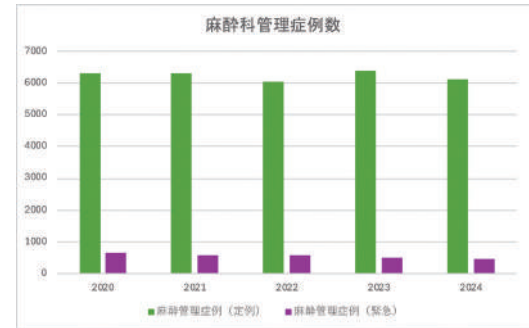
産科麻酔（帝王切開・無痛麻酔分娩）

区域麻酔（ブロックなど）

ペインクリニック（外来、入院）

緩和医療（外来、入院・往診）をご提供しております。

・麻酔科術前ハイリスク外来 ・麻酔科術前外来 ・産科麻酔外来 ・ペインクリニック外来



診療科の
特色・
得意とする
疾患

ご紹介
くださる
先生方へ

医師専門分野
一覧

外来担当医表は

[こちら](#)▼



連携担当医師の直通番号

03-6709-9386

地域連携室(直通) 03-5269-7160



診療科HP



[心臓麻酔] 我が国で極めて初期より心臓麻酔チームをもち、現在も24時間体制で心臓手術の麻酔を担当させていただいております。日本心臓麻酔学会指定研修施設です。

[一般・区域麻酔] 特に重症な患者さんを中心とした東京女子医科大学病院の手術症例をお引き受けしております。全身麻酔をかけられない程に状態が不安定な患者さんでも区域麻酔を主体とした麻酔管理をおこなうことで、お断りする患者さんはほぼなくなりました。日本区域麻酔学会インストラクターを中心に、診療に励んでおります。

[小児麻酔] 日本小児麻酔学会認定医を中心とした常勤の麻酔専門医が安全に配慮した体制で麻酔を担当させていただいております。

[産科麻酔] JALA無痛分娩関係学会・団体連絡協議会登録施設として無痛（麻酔）分娩、そして帝王切開など産科特有の麻酔に特化した麻酔科医師を中心に担当させていただいております。

[ペインクリニック] 日本ペインクリニック学会指定研修施設（代表専門医のいる施設）として、痛みをもつすべての患者さん（入院と外来）の診療を担当させていただいております。

東京女子医科大学病院の手術部は、日本でも有数の麻酔科管理症例数（年間症例数約6,600例、2022年度）を有し、難易度の高い手術から一般的な手術まで数多く行っており、麻酔科は現在そのすべての麻酔管理をお引き受けしています。無痛分娩の麻酔管理も麻酔科でおこなうため、専門分野を活かした診療をおこなっております。高難度の手術はハイリスク症例検討委員会にて各科で安全安心な診療方針を相談し、危機対策としてシミュレーション教育にも注力しております。

東京女子医科大学病院の麻酔科は、主科の外科医師と各科とメディカルスタッフとの連携を保ち、術前から始まり術後長期まで続く周麻酔期における患者の良きアウトカムにつながるする医療を提供するために、勇往邁進しています。これからもご指導いただけますようお願い申し上げます。

医師名	職 位	専門領域	外来診療日	
			初 診	再 診
長坂 安子	教授	心臓血管麻酔、胸部外科麻酔、産科麻酔	(周術期外来) 水・金AM	
黒川 智	教授	心臓血管麻酔	(周術期外来) 木	
笹川 智貴	准教授	区域麻酔、ペインクリニック	(ペインクリニック) 火	
岡野 龍介	准教授	一般麻酔・特殊麻酔		
椎名 恭子	特任教授	一般麻酔・特殊麻酔		
鈴木 康之	特任准教授	小児麻酔		
野村 実	特任教授	一般麻酔・特殊麻酔	(周術期外来) 月AM	
山本 偉	助教	心臓血管麻酔、一般麻酔・特殊麻酔		
森脇 翔太	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
小泉 博子	助教	一般麻酔・特殊麻酔	(周術期外来) 月AM・水・木	
曽根 依子	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
庄司 詩保子	助教	一般麻酔・特殊麻酔	(ペインクリニック) 木	
山縣 克之	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
土井 健司	助教	心臓血管麻酔、一般麻酔・特殊麻酔		
土屋 由里	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
古井 郁恵	助教	一般麻酔・特殊麻酔	(ペインクリニック) 月・木	
石川 高	助教	心臓血管麻酔、一般麻酔・特殊麻酔		
佐藤 敬太	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
梁木 理史	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
大野 公美	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
清水 梨沙	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
鈴木 真也	助教	心臓血管麻酔、一般麻酔・特殊麻酔		
武石 健太	助教	心臓血管麻酔		
中澤 莉沙	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
加賀谷 菜々	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
川本 英智	助教	一般麻酔・特殊麻酔		
羽二生 顕	助教	一般麻酔・特殊麻酔		

紹介・診療情報提供書

東京女子医科大学病院
〒162-8666 新宿区河田町8-1 TEL03-3353-8111（代表）

科先生

紹介医療機関
所在地 〒

名称
TEL
科名科
医師名印

東京女子医科大学病院受診歴(有・無・不明)
(当院ID:)

記載日: 年 月 日

フリガナ	大・昭・平・令
患者氏名	男・女
住所 〒	年 月 日生 (歳)
	TEL ー ー
	携 帯 ー ー
	その他 (ー ー)

紹介目的

紹介後の方針に関する希望
1. 経過観察は当院で 2. 経過観察は女子医大で 3. その他 ()

主訴及び傷病名

既往歴及び家族歴
嗜好 薬物アレルギー

現病歴及び現症
検査所見
治療経過等

感染症

現在の処方

備考 1. 医師の診察には原則として予約が必要となります。
2. 必要に応じて画像 資料 や検査記録等を添付してください。
3. 封書には宛先を必ずご記入ください。

東京女子医科大学病院 FAX診療申込書（医療機関用）

FAX送信先：地域連携室 03-5269-7387

受付時間：月～金(9時～17時) 土(9時～12時)

休診日：第3土曜日、日曜・祝日、創立記念日:12月5日、年末年始:12月30日～1月4日

※ FAX受信は24時間受信

※ 17:00以降に受信したFAXは翌診療日受付になります。

※ 下記フォームにご記入後、診療情報提供書とともにFAX送信してください。
予約確定後、「予約票」と「ご来院時の流れ」をお送りさせていただきます。
なお、確認のため電話にてご連絡させていただく場合もございます。ご了承ください。

※ 診療情報提供書(紹介状)は、症状の事前把握のためFAXにてお送りいただいております。
原本は患者さんへお渡しし、受診日当日ご持参いただくようお願いください。

紹介元医療機関 申込日(FAX送信日): 年 月 日

医療機関名	
医師名または担当者名	
電話番号	ー ー
FAX番号	ー ー

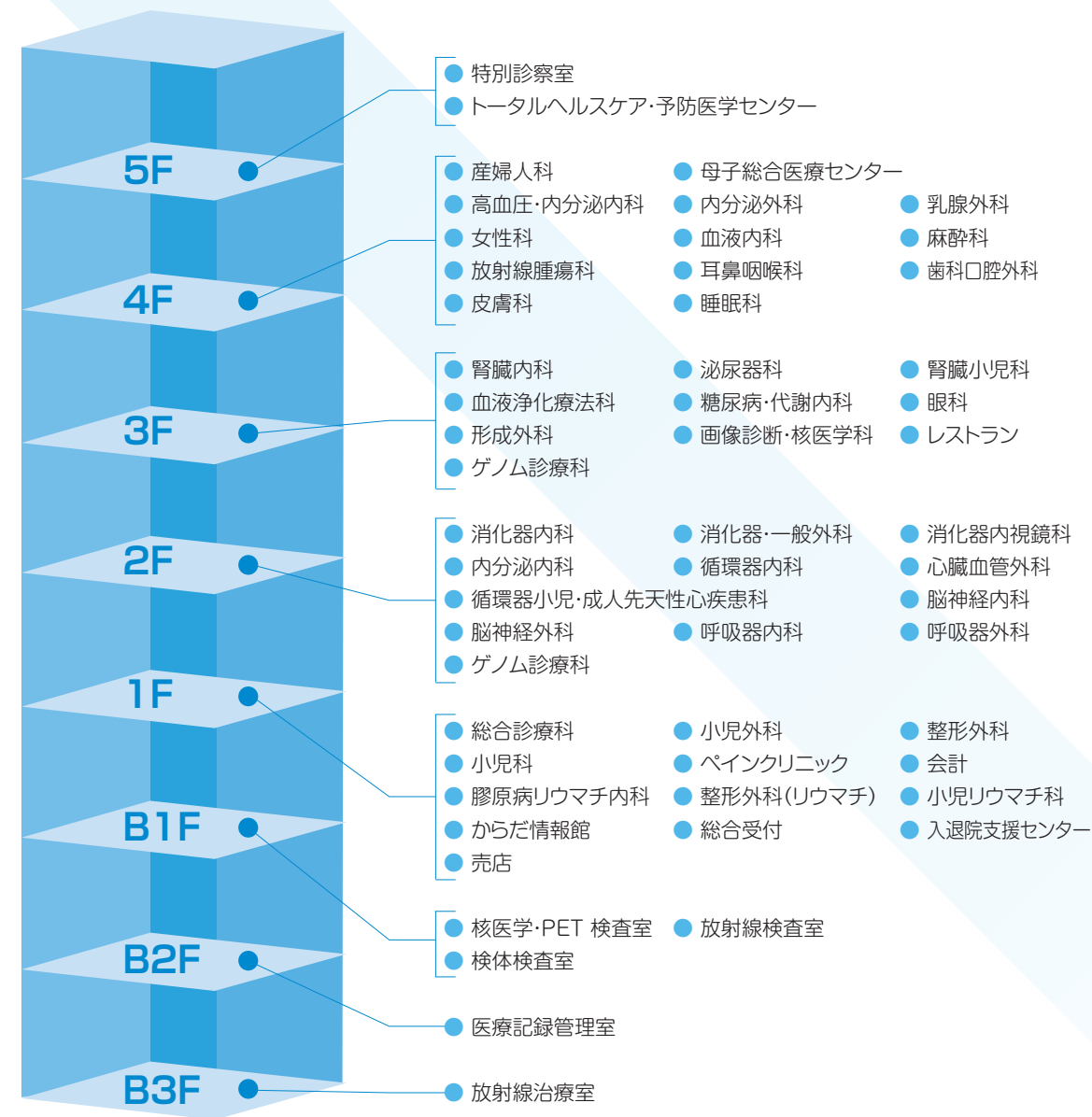
東京女子医科大学病院受診歴	☐ 有 ID(診察券の番号)が分かる場合 () ☐ 無 ☐ 不明		
フリガナ		性別	男性 女性
氏名	(旧姓)	生年月日	☐ 西暦 ☐ M ☐ T ☐ S ☐ H ☐ R 年 月 日生 ()歳
住所	〒 ー		
電話番号	自宅 ー ー 携帯 ー ー	その他	ー ー
受診を希望する診療科		医師指定 ※指定がある場合のみ記入	医師
受診希望日	第1: 年 月 日 () 希望時間 時頃		
	第2: 年 月 日 () 希望時間 時頃		
	☐ 希望日なし ⇒ ※都合の悪い日 ()		

※ ご不明な点は地域連携室までお問い合わせください。

地域連携室(直通)TEL: 03-5269-7160

月～金(9時～17時) 土(9時～12時)

総合外来センターフロア案内



交通のご案内



■ 地下鉄

都営地下鉄大江戸線

- ・ 若松河田駅下車(若松口より徒歩5分)
- ・ 牛込柳町駅下車(西口より徒歩8分)

都営地下鉄新宿線

- ・ 曙橋駅下車(A2出口より徒歩12分)

■ 都営バス

宿74系統

- ・ 新宿駅西口 → 東京女子医大前

宿75系統

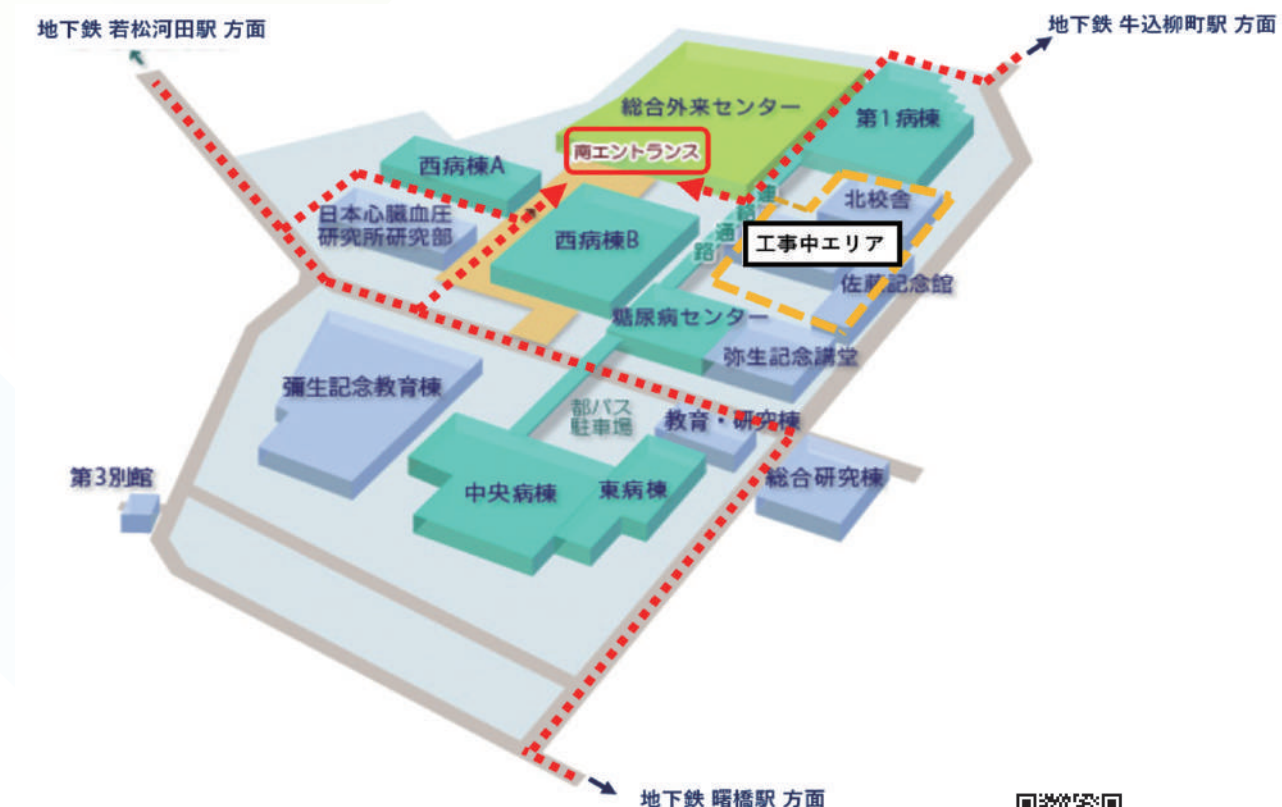
- ・ 新宿駅西口 → 東京女子医大前
- ・ 三宅坂 → 四谷駅前 → 東京女子医大前

早81系統

- ・ 早大正門 → 馬場下町(早稲田駅) → 東京女子医大前
- ・ 渋谷駅東口 → 原宿駅 → 千駄ヶ谷駅 → 四谷三丁目 → 東京女子医大前

高71系統

- ・ 高田馬場駅前 → 東京女子医大前
- ・ 九段下 → 市ヶ谷駅 → 東京女子医大前



※ 最新情報は当院ホームページをご確認ください
<https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>

